建築ト社會

第五輯　第四号



汀　春

大正十一年四月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ健全發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除名ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者前項ノ規定ニ依リ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般ノ事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル有志者ノ視察

九　建築ニ關スル研究會ノ公開

十　建築ニ關スル展覽會ノ公開

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產現狀價格及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

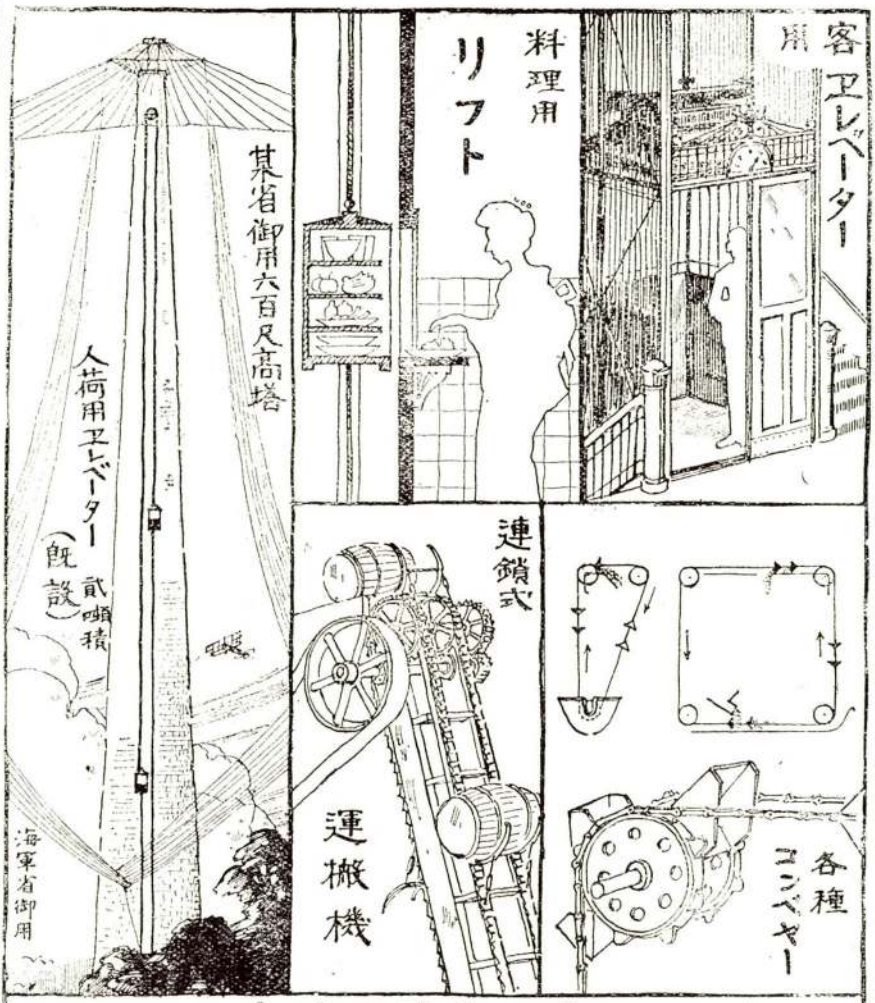
本會ノ財產現狀價格及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

㊥日本エレベータ製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第四號目次

▲口繪　〜〇春汀……（三色版）
〜〇第三回懸賞募集改良住宅設計圖案（寫眞版一―二〇）

〔卷頭〕
○批判……

〔論説〕
○都市民の自覺を望む（上）……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
○歐米の都市計畫に就いて（二）……工學士　内山新之助……八
○美的對象としての建築（四）……伊藤正文……一三
○建築物の社會的影響（上）……水口正一……一六
○防火地區の指定に就いて……明治火災保險株式會社大阪支店長　押本重平……二二
――權利の社會的行使を論ず――

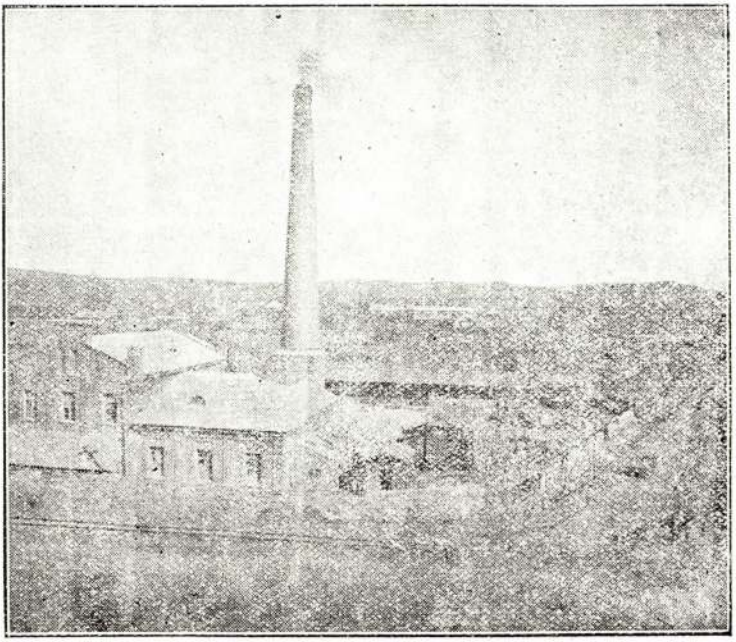
○工場建築私言……大阪府理事官工場課長　安達將總……二六

〔研究〕
○鐵筋コンクリート其の口その二（四）……工學士　增田清……二九
○古代民族心理と建築（一）……山崎萬壽夫……三三

〔都　市〕
○亞米利加の都市計畫（四）……Z Y 生譯……三八
〔住　宅〕
○住宅と色彩（四）……工學士 建築士 葛野壯一郎……四三
〔資　料〕
○大阪のビルディング……華城閑人……四七
〔漫　錄〕
○病院建築に關する雜感（上）……S T 生……五六
○「門」行脚（二）……梅谷孫吾……六一
○大阪の外廓を歩して（中）……齋藤憲太郎……六五
○お客樣本位の接待と洗面所……山下芳太郎氏夫人……七一
○訪問者のこゝろ……大阪朝日新聞記者……恩田和子……七五
○うたがた夜話……それがし……八〇
□會　報
〔附　錄〕
△第三回懸賞募集改良住宅設計案審査概評……

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明



顧問技師　工學士　雨宮春雄

相談役　前野芳造

滿洲工場

營業課目

滿州產
- 青色大理石、黑色大理石
- 鹿兒島產白色硅藻土
- 白色硅石及硅石粉、酸化マグネシユーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
- 海水石鹼

鋪床材料

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑

ボースイ（專賣特許）

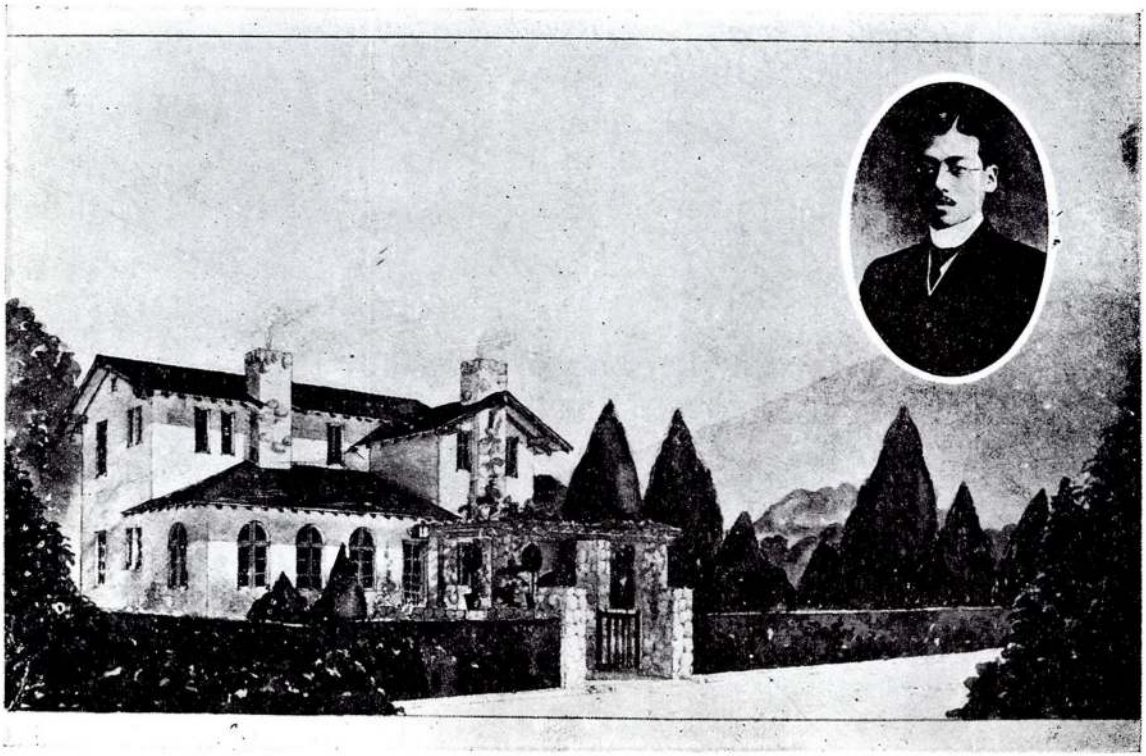
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區南安治川一丁目十三番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

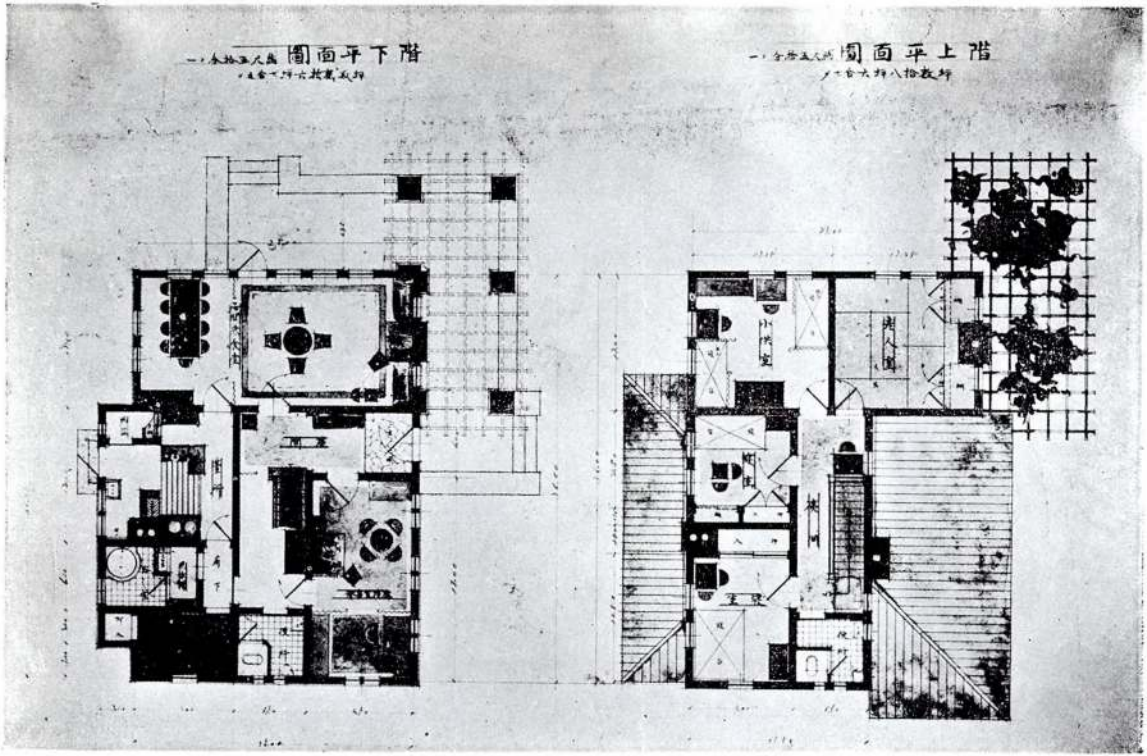
電話西（營業用）四五九
（長）二五五四
（二六二三）

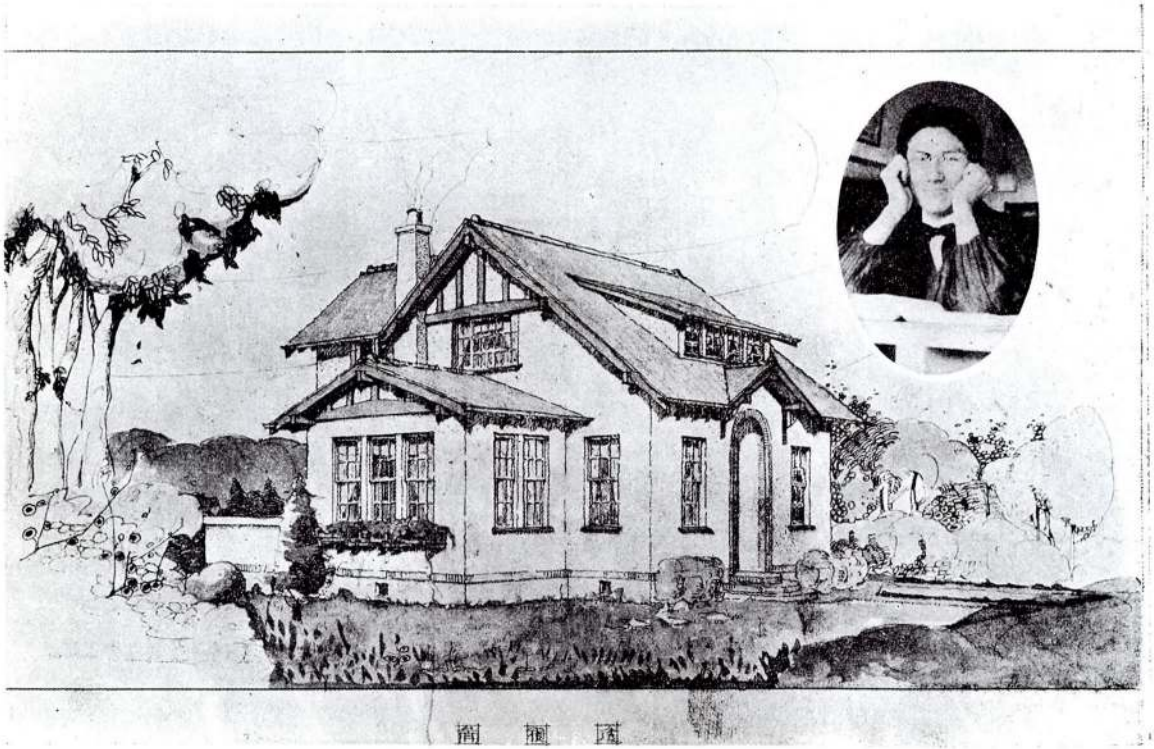


第三回懸賞募集　改良住宅設計第一等當選

（設計者　大原芳知君）

第三回懸賞募集　第一等當選平面圖

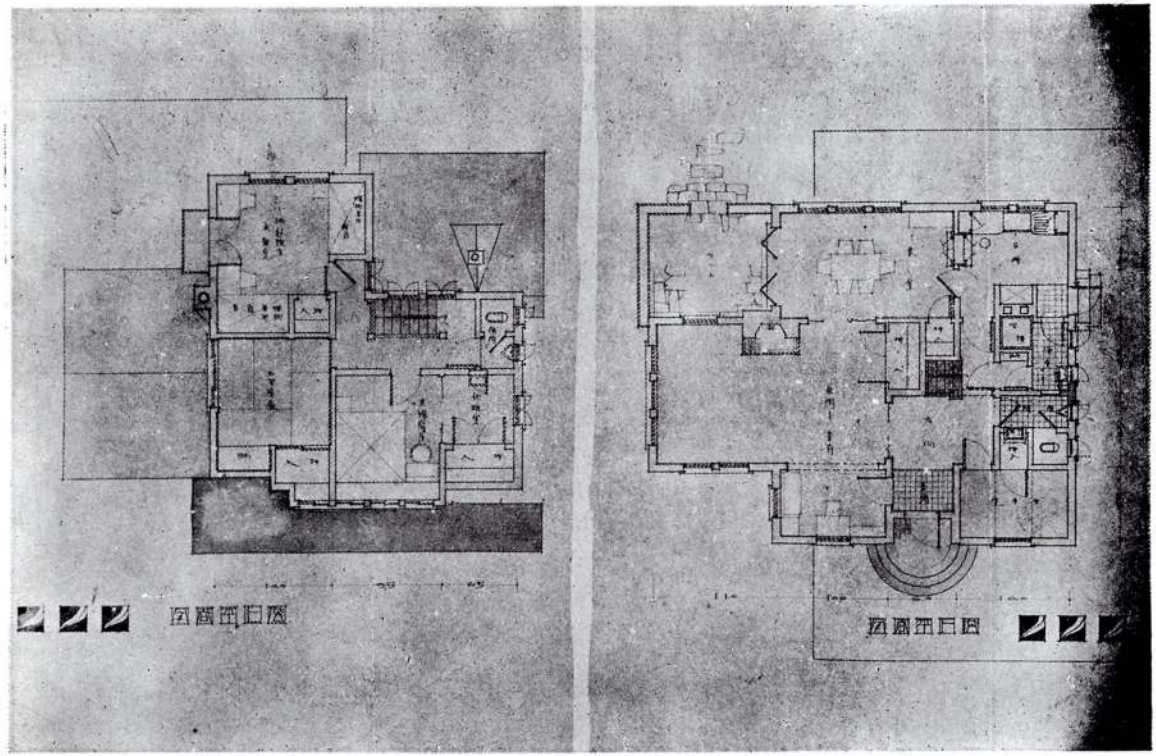


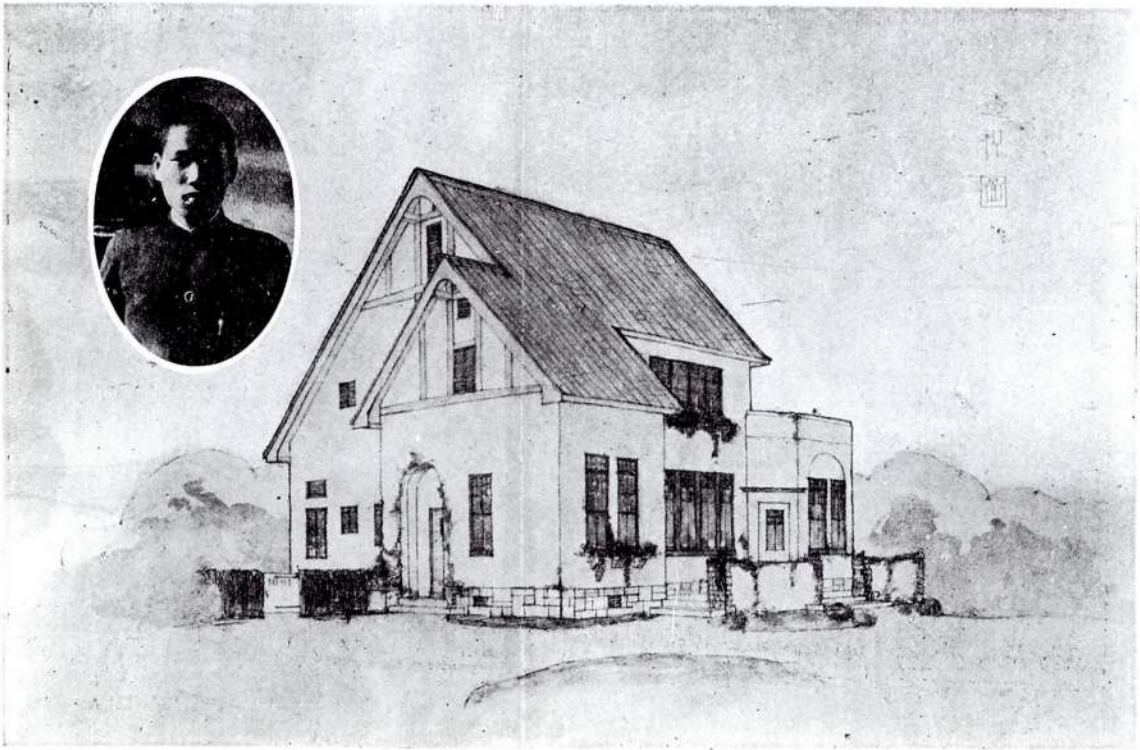


選當等二第計設宅住良改　集募賞懸回三第

（君夫俊良早　者計設）

第三回懸賞募集　第二等當選平面圖

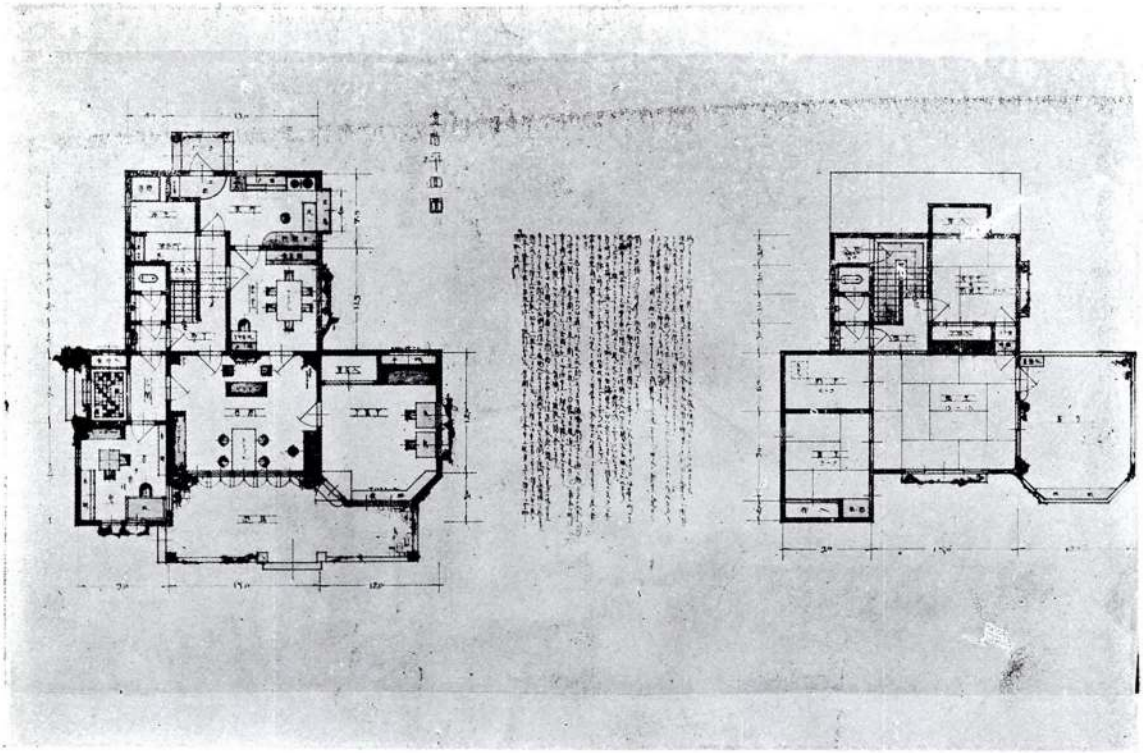


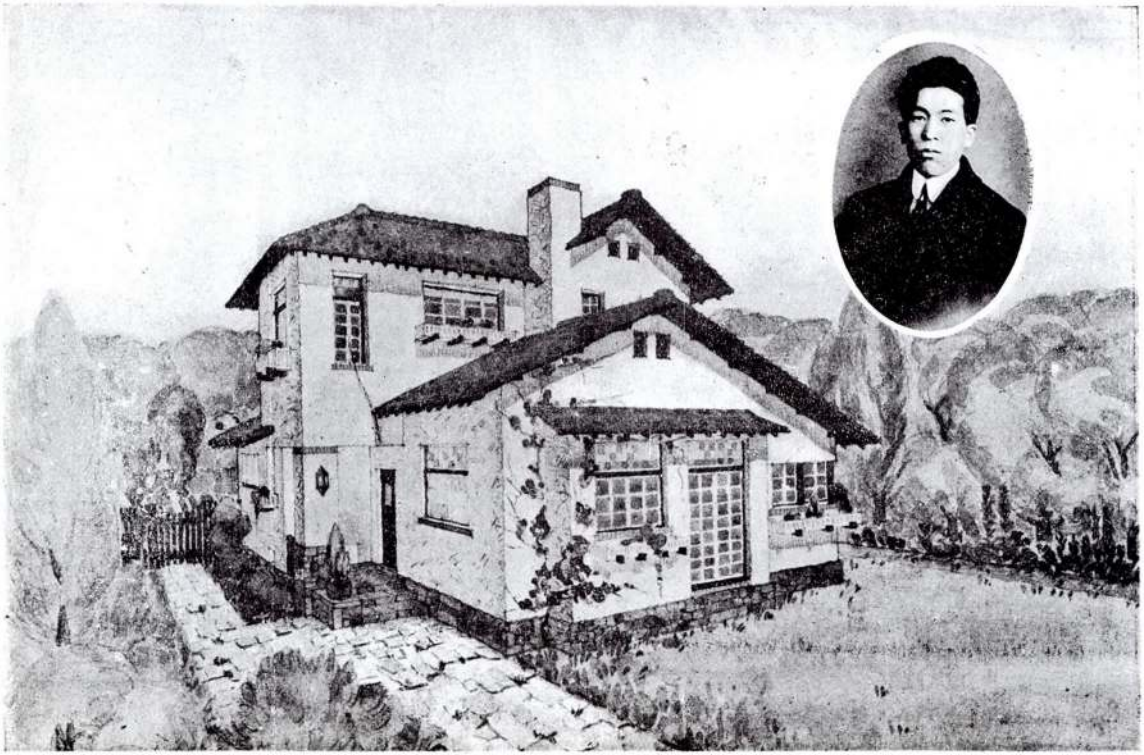


第三回懸賞募集　改良住宅設計第三等當選

（設計者　岡松一誠　君）

第三回懸賞募集　第三等當選平面圖

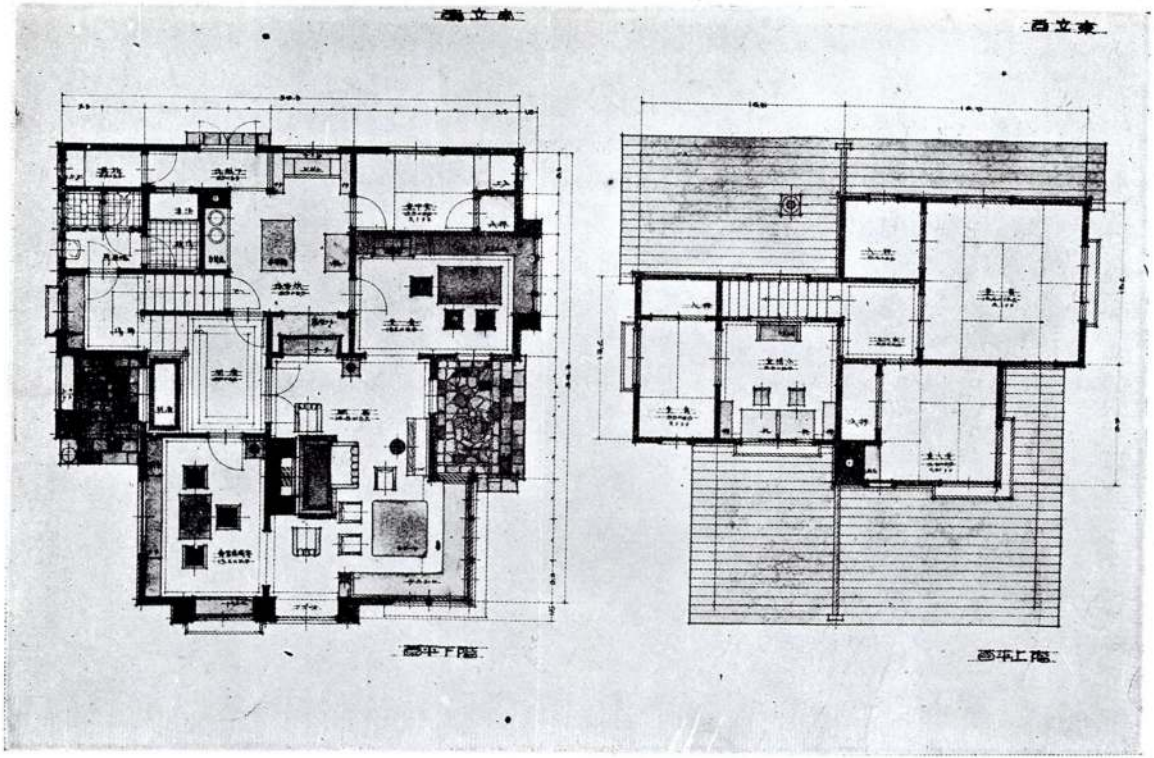


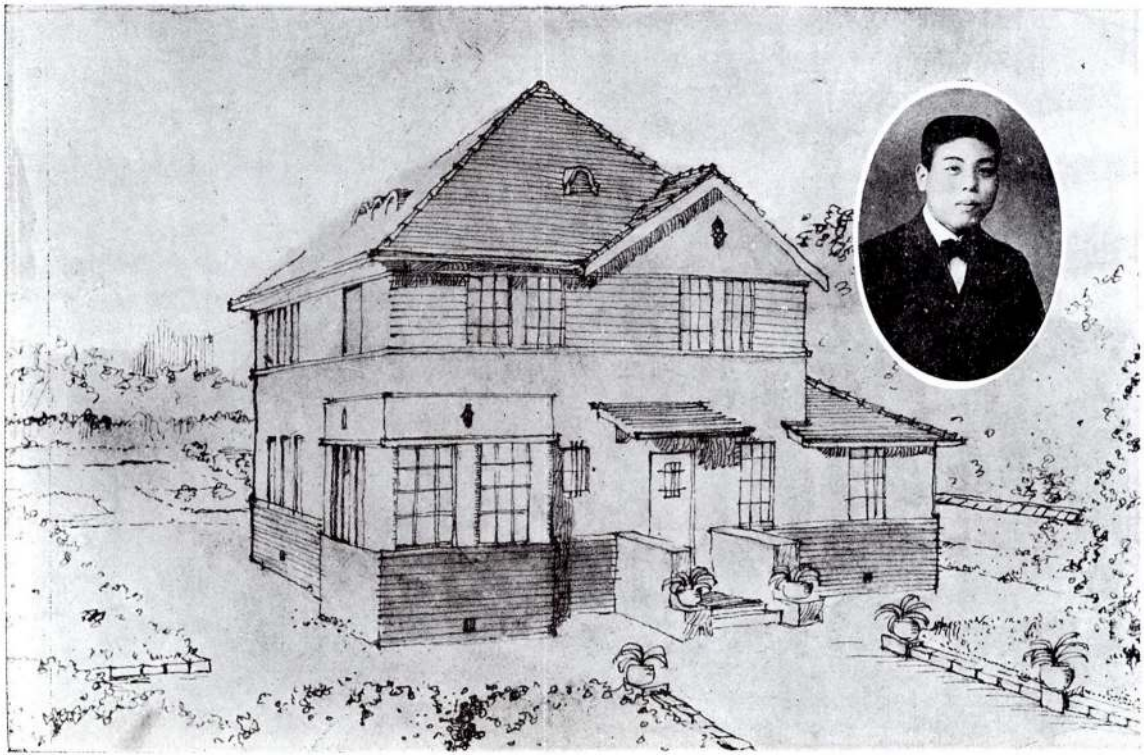


第三回懸賞募集　改良住宅設計第四等第一席當選

（設計者　友田薫君）

第三回懸賞募集　第四等第一席當選平面圖

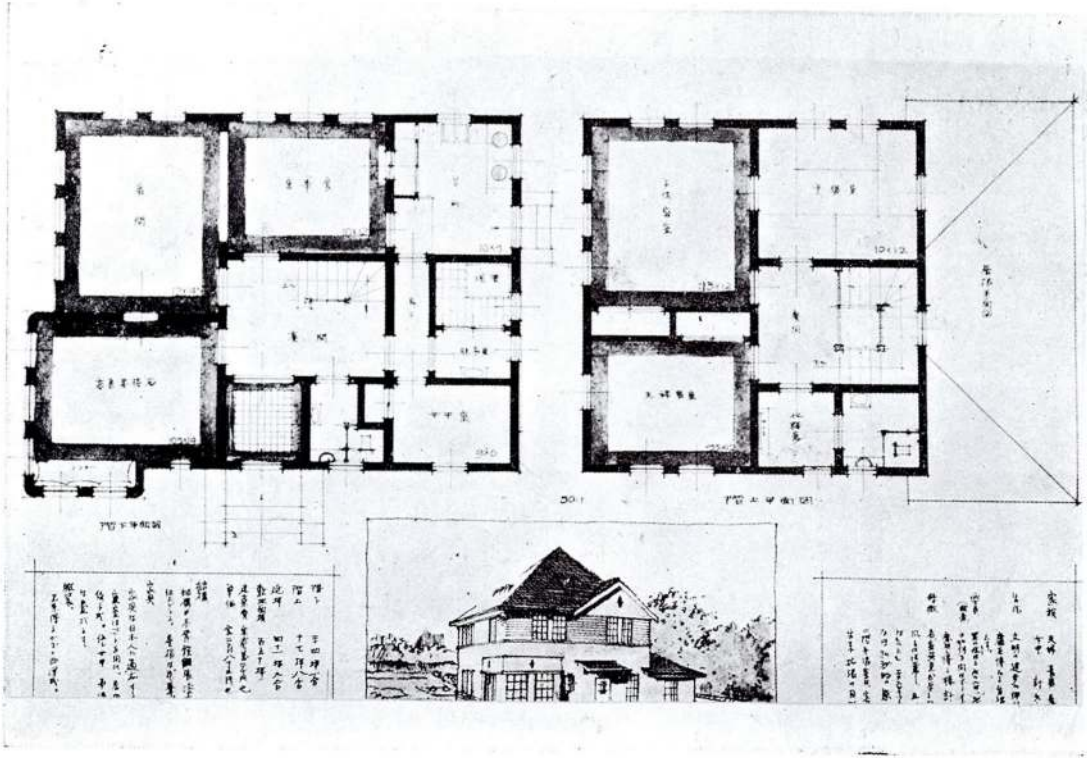




第三回懸賞募集　改良住宅設計第四等第二席當選

（設計者　山田昭君）

第三回懸賞募集　第四等第二席當選平面圖



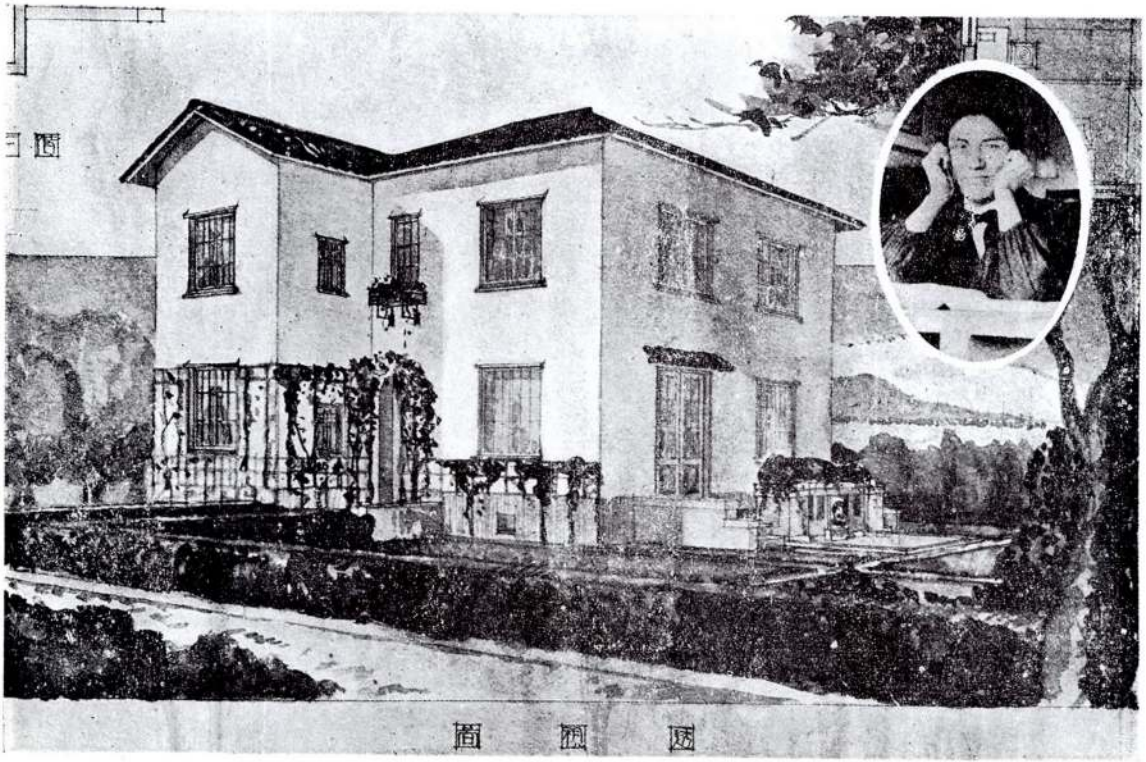
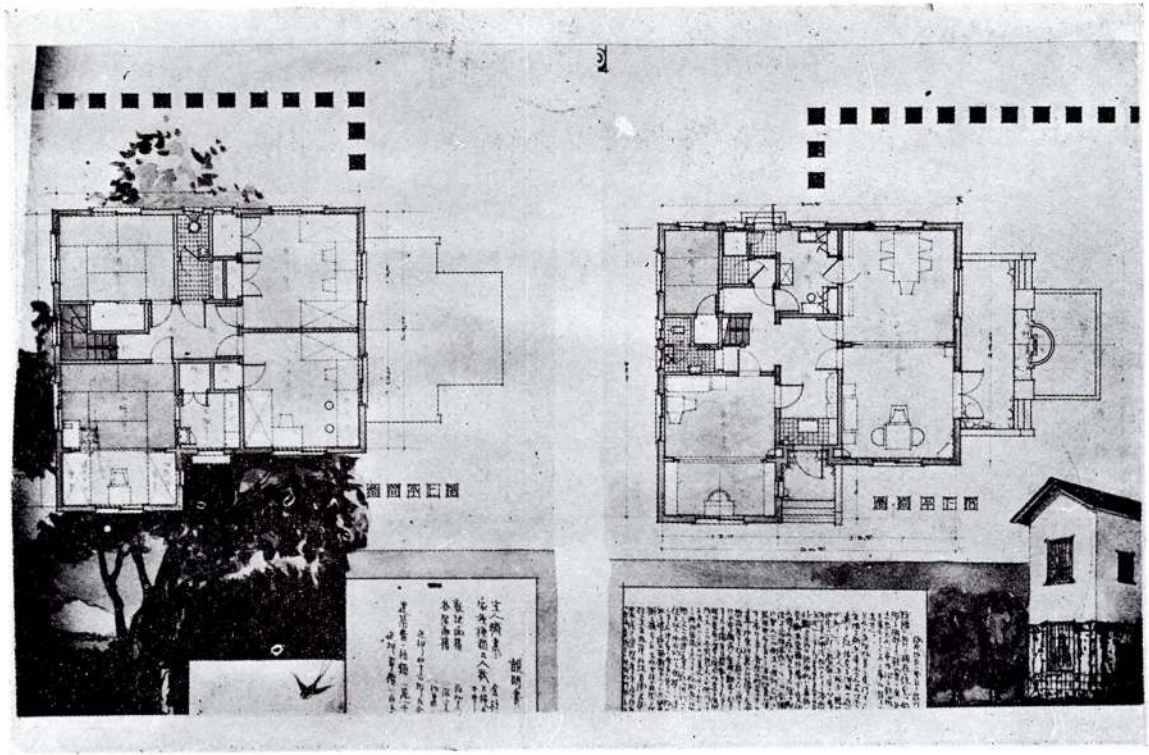


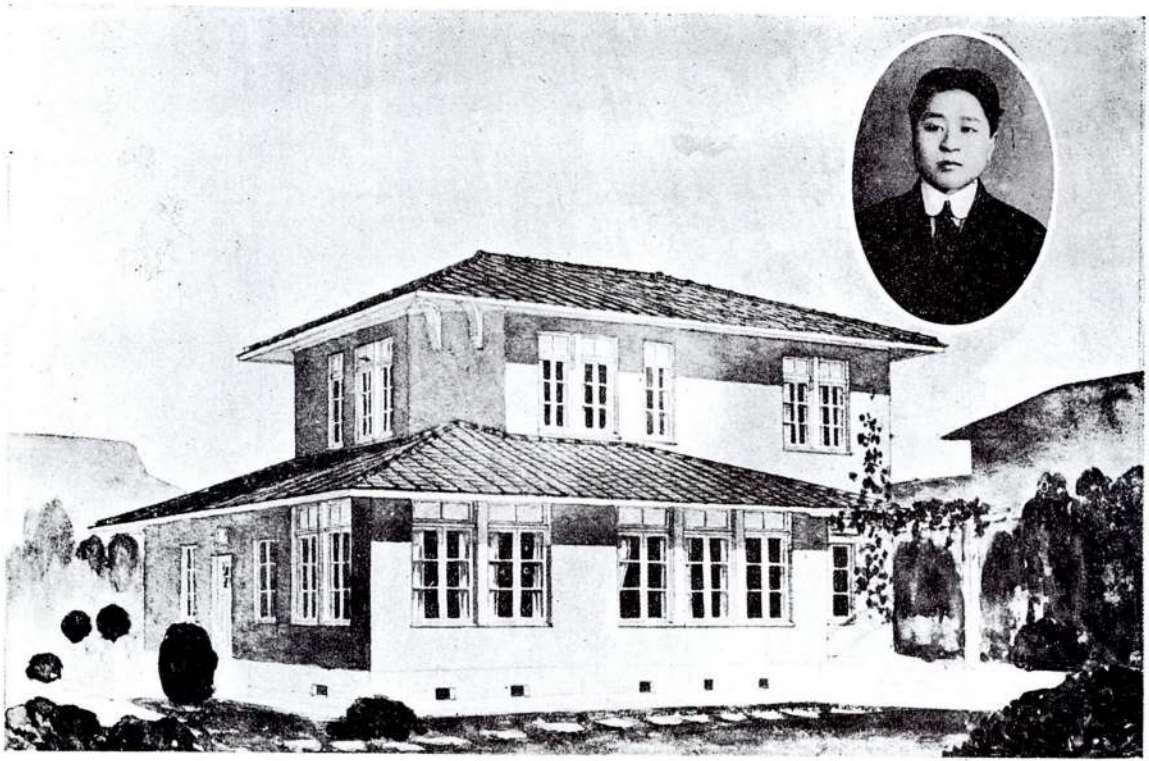
圖 洋 西

選當席一第等五第計設宅住良改　集募賞懸回三第

（設計者　早良俊夫君）

第三回懸賞募集　第五等第一席當選平面圖

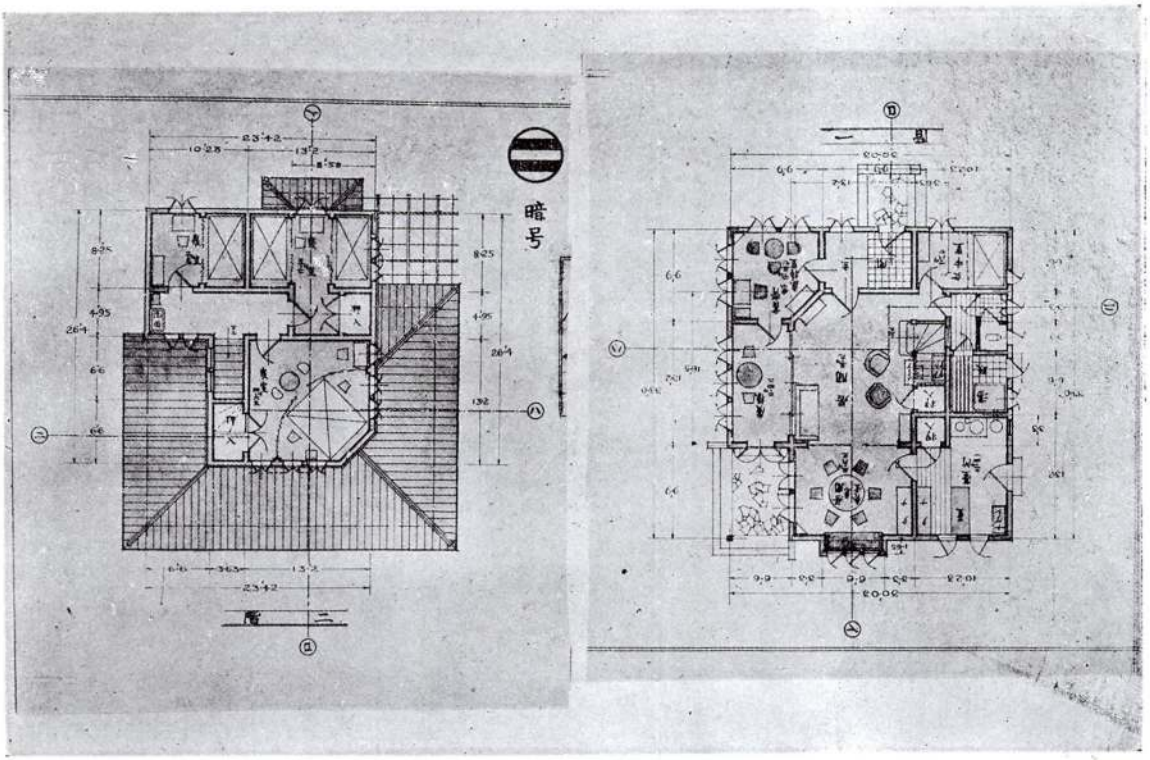


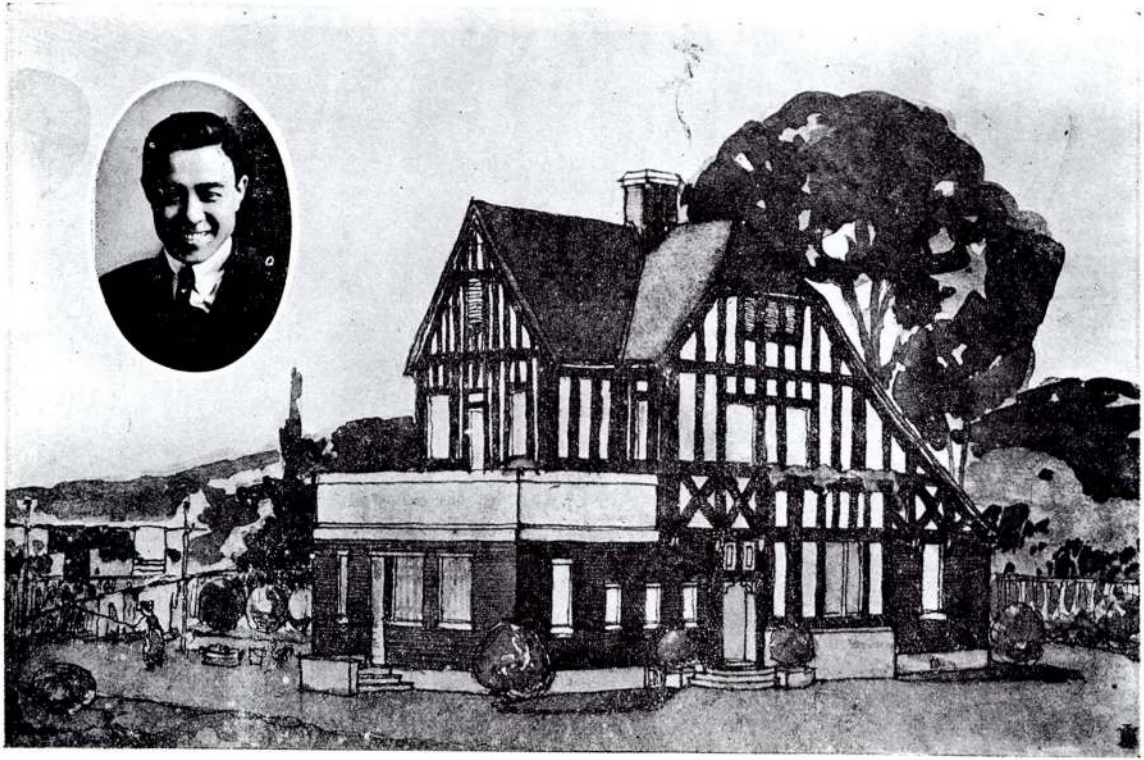


第三回懸賞募集　改良住宅設計第五等第二席當選

（設計者　西川原誠一君）

第三回懸賞募集　第五等第二席當選平面圖

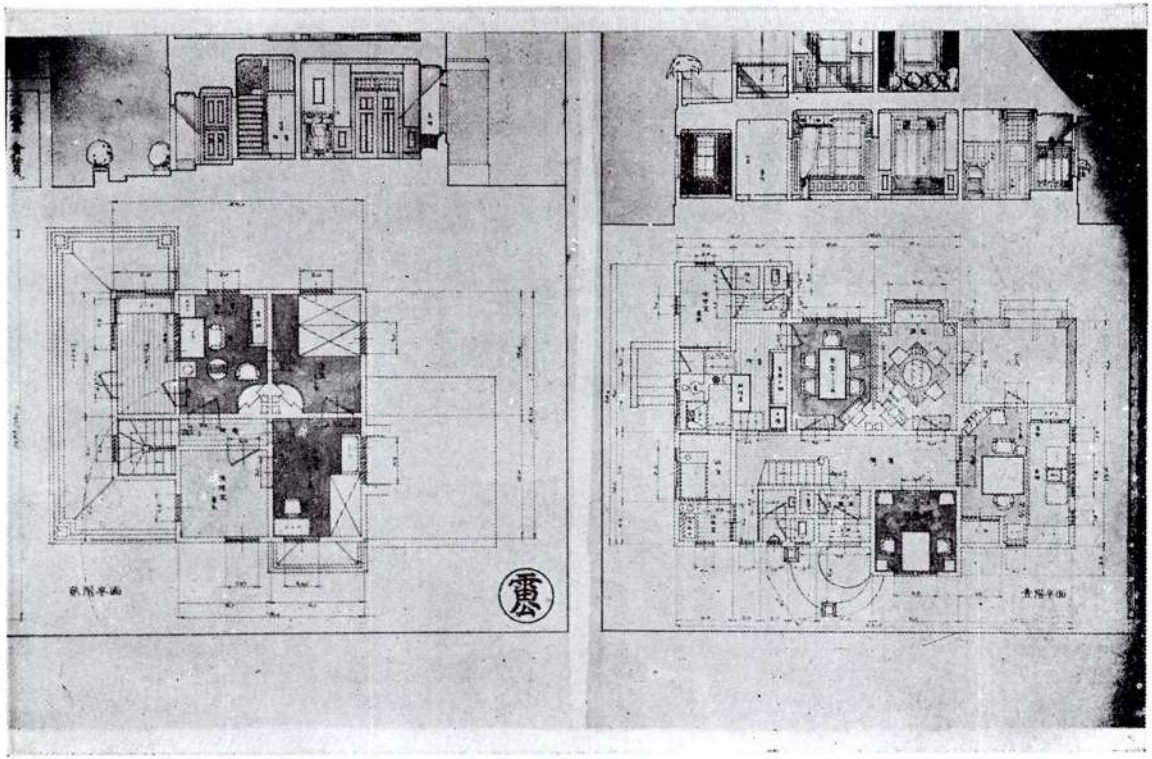


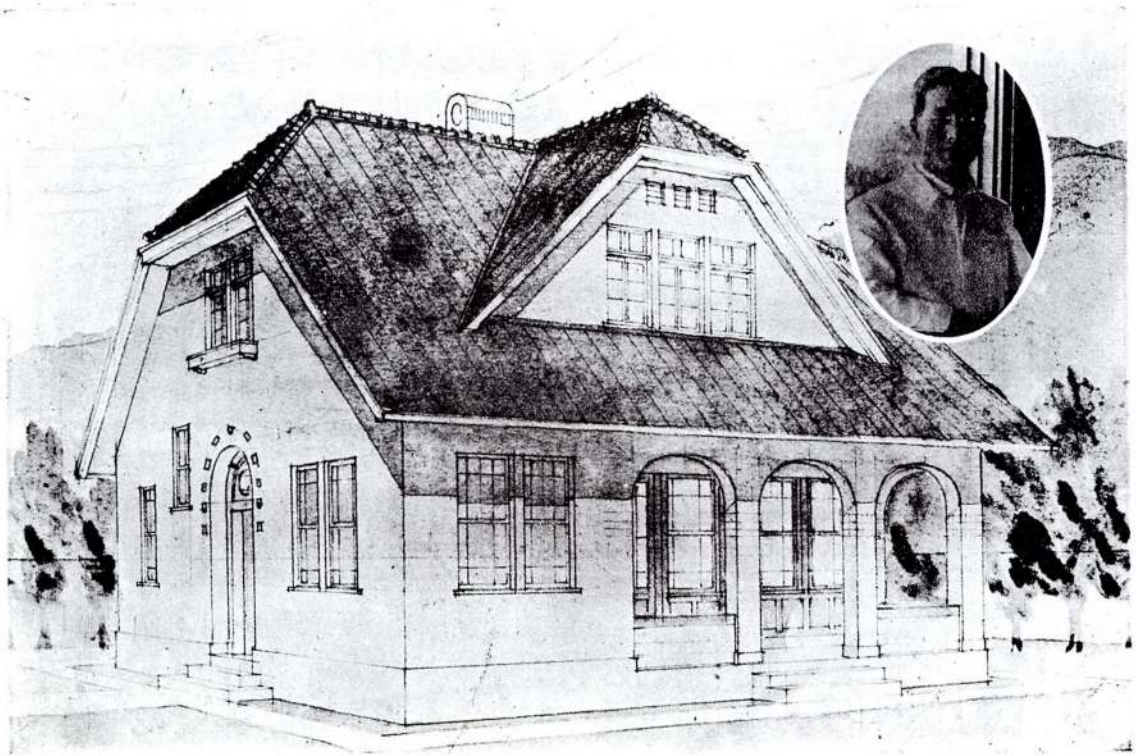


第三回懸賞募集　改良住宅設計第六等第一席當選

（設計者　小賴政君）

第三回懸賞募集　第六等第一席當選平面圖

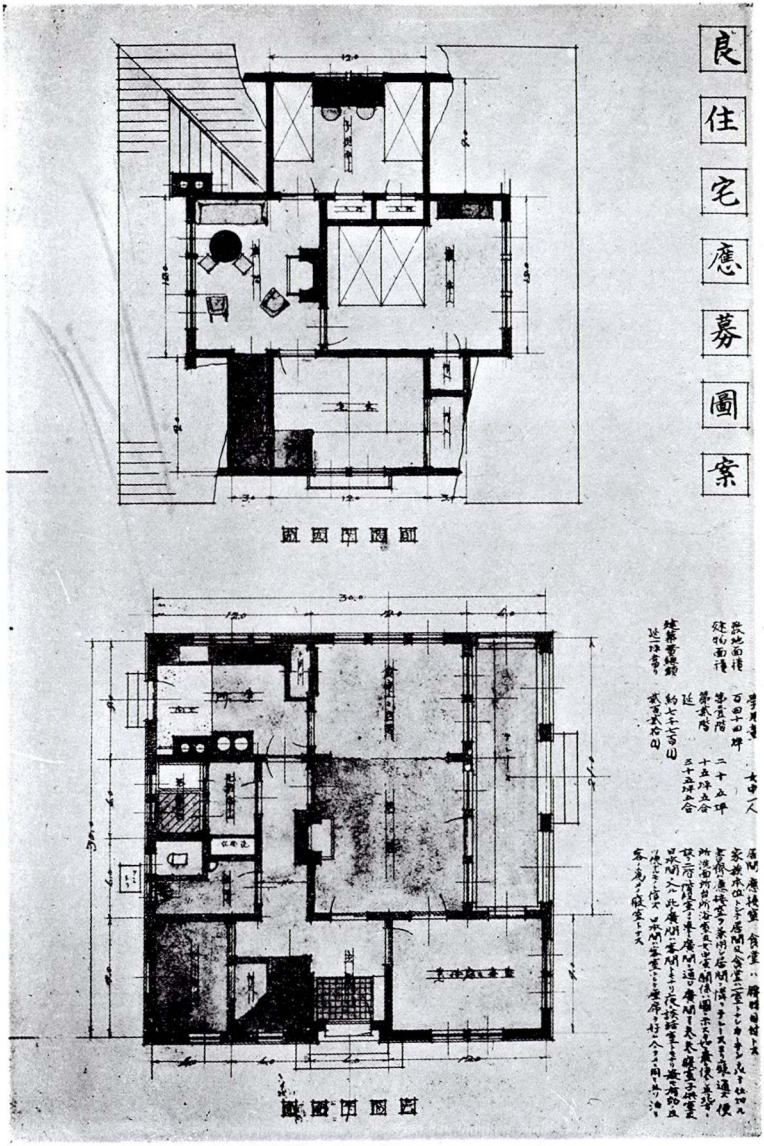


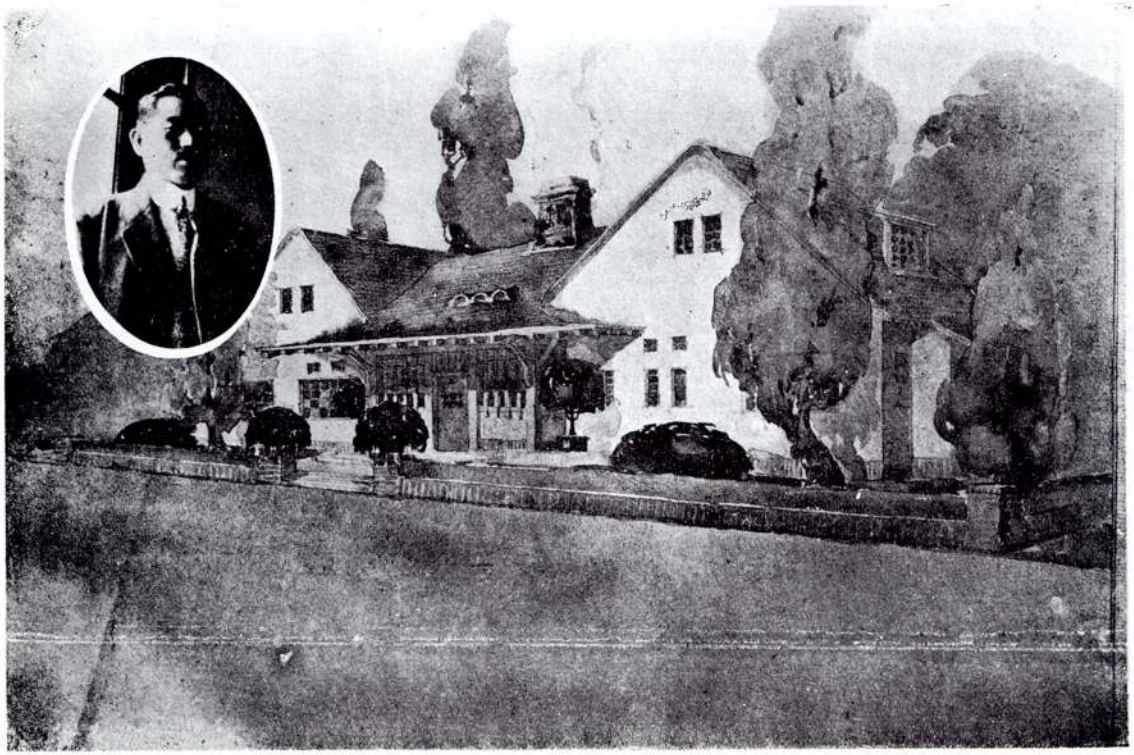


第三回懸賞募集　改良住宅設計第六第二等當席第

（設計者　島本四郎君）

第三回懸賞募集　第六等第二席當選平面圖

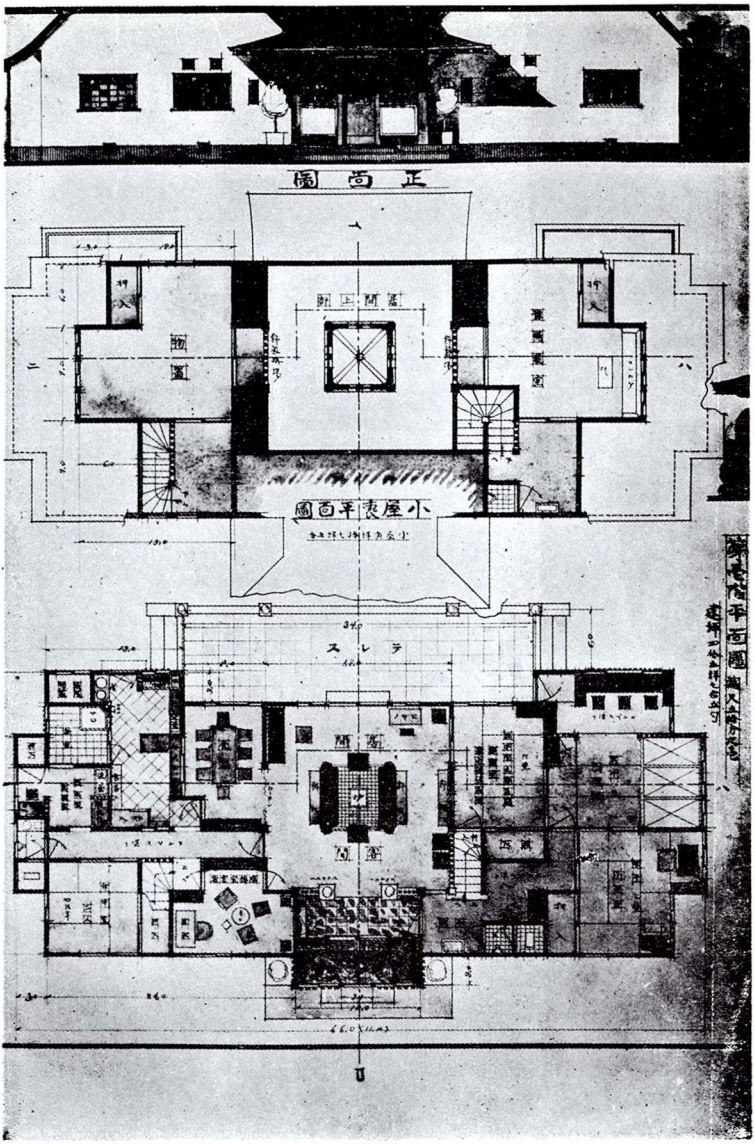


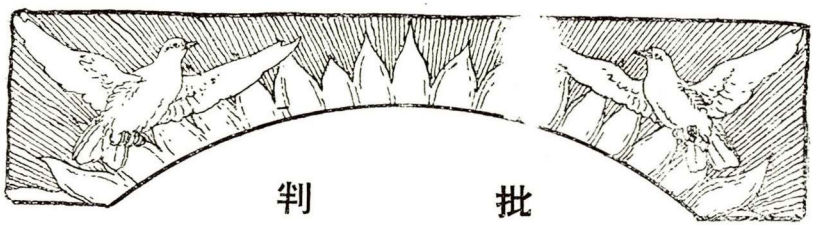


第三回懸賞募集　改良住宅設計第六等第三席當選

（設計者　小川安一郎君）

第三回懸賞募集　第六等第三席當選平面圖





批判

舞臺に、所謂半疊を入れる者、必ずしも優伎な人ではない。少くとも、其理想を自ら現化し得るの自恃ある者においてこそ、批判は生命であり、力である。然らざる限りにおいて、放漫無責な半疊に過ぎない。

蓋し批判は、所詮主觀としての可能を客觀的に充足し得ない感情の發露であるが故だ。空樽を叩いて、調律を云ふの徒は世に多いが、よく琴線に指を觸れて、自らを誨ゆるの士、それ幾何ぞや、である。



論說

都市民の自覺を望む（上）

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

〔一〕

都市生活の改善は我國現時に緊切なる要求であるは敢て吾人の呶々するを要せぬところである。之を現代文明の情勢から見るも、或は生存の意義を明かにすべき吾人の使命から稽ふるも、現在に吾々都市民の生活狀態が如何に甚しき時代錯誤のものであるかは少しく現狀を考察せば寔に明かなる處である。海には超ドレッドノート型戰艦を浮べて、商權を保護せんとし、陸には二十五箇師團の貔貅と幾萬の精銳なる銃砲を準備して對列國の防備を嚴にせんとするも、其國民生活の實際が果して列國と其文化程度を比肩すべき程度にあるや否やを考ふれば、我國民は其防備に對する努力を更に我國民生活の改善と其進展に盡さねばならぬは言ふまでもないことである。殊に經濟的活動の中心たる都市民に實際生活の改善は目下の急務として各方面に高唱されつゝあるにも拘らず、其手段方策に就ては殆んど顧みられて

居らぬやうな始末である。如何に過渡時代の混沌たる社會狀態とは言へ、其無策無自覺の甚しき現時の社會相は轉た寒心に悖へないのである。

現代に於ける都市生活の如何なるものなるやは此處に詳述するを省略するが、それを享有すべく我都市民の努力は如何なる程度に盡されて居るかを詳しく觀察する時は、不幸にして吾人は其餘りに低級なるに驚かざるを得ない。一體都市生活の向上を考ふるに先だち、都市民一般に現代都市の自治的精神を理解することが肝要なるは言ふ迄もないのであるから、後藤東京市長の高唱しつゝある自治的精神の覺醒を御互に相努め、それによりて吾人現在の都市生活の改善と向上を期待せねばならぬのである。併し乍ら、物事は原則や理論を說きて之を理解せしめそれによりて實際を解決せしむるよりも、實際の事情を述べて其事實の前に覺醒の必要を歸納的に感ぜしむることが、より多く實効がある場合多しとするのである。斯の意味に於て、吾人は現在の我國大都市に於ける最も著大なる缺陷の二三を擧げ、我都市民に對し、自治的精神の覺醒を促して見たい。

〔二〕

現代の都市民として最も恐るべきものは、時々襲來する火災の損害を以て隨一とする。抑も都市の出火は偶發ではあるが、其頻度は可成り大なるものであつて、偶々大風と合致する時に於て悲慘なる大火災を惹起するは古來其例に乏しくない。之を歐米各國大都市の實例に見るも、或は我東京や大阪及京都の過去三百年間に於ける大火の歷史に徵するも、大火に見舞はれし其當時の慘憺たる都市の狀態は戰慄に値するものであつた。今より數百年又は數十年前未だ經濟的活動の旺盛ならざる時期に於ては、其大火によりて受けたる瘡痍は其國民又は市民に甚しき損害を貽さゞりしも、現代の如き國際的經濟戰の酣なる時期に於て其國の主要なる大都市が一朝大火によりて壞滅に歸した事を想像せよ、其直接損害は勿論

、間接に其國民に貽す大損害は容易に復舊するものにあらざるは見易き事柄である。此故に歐洲の大都市は十八世紀以來大火を防ぎ得ざるようなものは一も見出し得ないのであるが、其防備の十分となりしは、一六六六年の倫敦大火に懲りて都市の構造物に大制限を加へたからである。獨り我國に於ては、德川時代或は其以前に遡りて數十回の大火が可成り甚だしき損害を大都市に加へたのであるけれども、夫にも拘らず、其復舊の際に其防備に就ては何等之を考究せず、依然として脆弱なる燃燒質構造物を以て從來と同じき都市を形成して來たのであるから、現在に及んでも我國の大都市は、其最も改良されたものとしての東京や大阪でも今だに大火の災厄に遭遇すべき大なる可能性を保存して居るのである。

現代の都市に於て其都市の大部分が何時でも大火の災厄に遭遇すべき可能性を保存して居ることは、其都市の經濟的安定は全然望まれないことを意味するのである。又同時に其居住の安定は勿論、國防上の計畫より社會の秩序維持に至る迄何時破壞さるゝやも計られぬのであるより考ふれば、我國の都市生活程危險なものは、世の中にはあり得ないのである。吾人の祖先は斯く不安なる社會の中に連綿として子々孫々相傳へて來たのであるが、現代の如き國際的の緊張せる經濟生活を中心とする文化生活を享有しては居なかつたのであるから、或は之を以て一種の生存法とも見做し得たのであるが、現時に於ては斯かる不安狀態を以て滿足し得るものは恐らく一人もないであらう。然るに何事ぞ、爲政家を始め一般先覺者を以て任ずる人士に至るまで斯の恐るべき我大都市の不安狀態を改善するの方策を深く考へざるやに見ゆるのは寔に痛嘆すべきの至りである。更に驚くべきは、都市火災の輕減より更に進んで大火の襲來を絶對に不可能ならしむるよう努むべき火災保險業者の自覺なきことである。歐米各國に於ては爲政者と火災保險業者と相協力して、都市大火の絶滅と小火災の輕減を計り、又消防設備の進歩と相俟ち偉大なる成績を擧げて來たことを知る者は、如何に我國都市の不安がその儘に拋棄されて居るかを、嘆かざる者はないのである。

〔三〕

都市の火災は恐るべきものであつて、其大なるものは殆んど其都市の致命傷ともなるべき甚しき危險性を帶ぶるものであることは、實際我國の都市民には餘り了解されて居らぬようである。而して其了解の程度は、即かて自治的精神の覺醒の程度と比例するものであるやに思はるゝが故に、其了解を容易ならしむべき實例上の解說を少しく試みることゝする。

歐洲に於て常に話柄に上る彼の倫敦大火に就て見るに、一六六六年の九月二日午前二時頃舊倫敦橋畔の麪包屋からの失火により、吹き荒む西風に火の手は西方一帶に蔓延し、更に轉ずる強き東風の爲め東部一帶にも其火勢を高め、約四晝夜の恐るべき大火にて、其當時の倫敦中樞區域全部は燒き盡されたのであつた。其罹災面積は五百萬坪以上に及び、現在のチャーリング、クロスより以西テームスの北岸一帶は全部烏有に歸した。其損害の大なりしことは空前絶後のものとして廣く知られて居る。併し乍ら其罹災の大なりし損害も十八世紀以後歐洲の殆んど凡ての都市に一大警告を與へ、其全滅の可能性よりそれ等を救ひ出せし効果に比すれば、必しも徒爾ならざりしと言ひ得るのである。我國に於ては明曆三年の江戸大火を其最大なるものとして、或は倫敦大火のそれに勝るとも劣らざる大慘害を貽せし幾多の大火は我三大都市を襲ふたのであつた。然るに、獨り我國民は依然として其慘禍の可能性より脫却すべく努力しなかつたので、二十世紀の今日に至るも尙依然として我大都市は殆んど凡て其危險に曝露された儘になつて居るのである。都市火災の危險を輕視せんとする一般人士は都市大火の歷史や其經濟的觀察を考慮せざるものであるかと思はれるが、或は日常生活の直覺觀より火災の比較的小事なるを考ふるものであるらしい。而して我國の都市を常に全滅の危險に曝されて居る其不安の狀態より救ひ出す第一の方策は、都市計畫法や建築法規の勵行のみによりて其目的を達し、得るものではなく、寧ろ我都市民一般が其

危險を覺ることから出發しなくては、所詮其彼岸に達し得ないのである。

北米合衆國都市の狀況は、其建設と發展の比較的新らしきものである點に於て、我都市改造の參考となるべきものが多いのである。殊に火災防備に就て彼の都市が今日迄嘗めて來た其苦き經驗は我都市民の爲に大に覺醒を促すものであるかと思はれる。北米合衆國の火災保險業協會の報告によれば、一八七五年より一九〇九年に至る三十五年間に火災による同國の直接損害高を無慮九十八億圓と計上して居る。之を一ヶ年に平均しても二億八千萬圓であるが、最近十年間は毎年大約四億圓を下るとは少いので、其火災防は備如何にも疎漫の感がある。されど、よく彼都市の狀態を視るときは必ずしもそう簡短に解釋するを許さぬのである。即ち從來の北米都市は大體に於て木造又は半燃燒質の建築を以て充たされて居たものが、最近に至りて鋭意之を不燃質の建物に改善しつゝある途中にある事、及同國の都市に堆積しつゝある富が如何にも宏大である爲に火災によつて失ふ其分量が斯の如き高額となるに過ぎない。最近に於ては一八三五年十二月の紐育大火(損害一七、〇〇〇千弗)一八六六年七月のポートランド大火(損害一〇、〇〇〇千弗)、一八七一年十月のシカゴ大火(損害一六八、〇〇〇千弗)、一八七二年十一月のボストン大火(損害七〇、〇〇〇千弗)一九〇四年二月のバルチモア大火(損害四〇、〇〇〇千弗)一九〇六年四月の桑港大火(損害三五〇、〇〇〇千弗)を最大なるものとして、其前後に亘り所謂都市大火は絶滅したと言ふも差支がないのである。即ち今後北米都市にては都市大火は之を見ることなかるべく、同時に一般各種の火災損害高は漸次減少するであらうと思はれる。若し北米都市に於ける現狀を視て防火構造の强制と市民の自發により、其中樞地區の殆んど大部分が完全なる防火地帶となり、今後火災に對して絶對に安全なる狀態に改善されつゝある其急速の發展は吾人の賞讃措く能はざる處である。

〔四〕

我國に於ては最近都市計畫法と市街地建築物法の發布により先づ第一着に六大都市は防火地區を强制

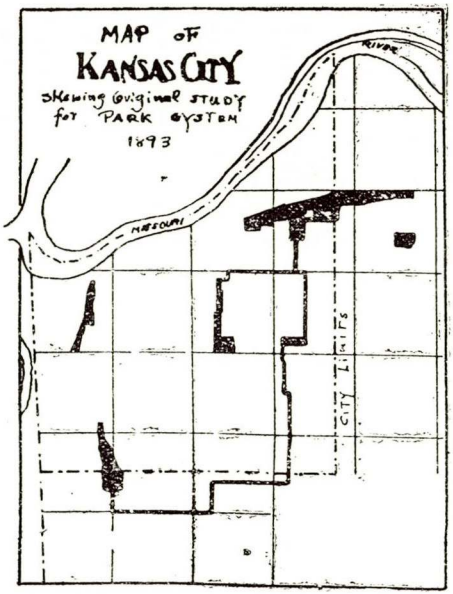
的に設けんとする時運に到着したのであるが、其實際は未だ其立案を得ざるような狀況であつて、其前途遼遠なるやの感がある。斯の點に就きて都市民は一齊に其急要を叫ばねばならぬのであるけれども、それよりも更に急要なるは都市民自から進んで其建築物の改善をなすべく計畫を立つることである。今や都市に於ける經濟活動は決して從來の如き不安定の其建物に根據を置くべき時代ではなく、安定確立の地步を占めて應用科學のあらゆる利便を享有し、其最大能率を發揮せねばならぬのである。之れ即かて眞實の經濟的活動であつて、又同時に都市共同生活の眞價を味ふ所以である。然るに何事ぞ我國現時の社會相を見るに、行政官公廳を初め神社佛閣は勿論民間に於ける一般建築は其改善の步を進むること寔に遲々として運ばず、不安不定の狀態より脫却することの努力は少しも緊張せざるの憾がある。之を以て堅實なる風潮と見做すことは出來ないのみならず、亡都即ち亡國の兆を感ぜしめるのである。最近中央官街の一たる丸の內郵便局の燒失に際し、又々其燒跡に更により燃燒性に富む建物の再建さるゝを見る者は、如何にも我國現代の苟且主義を感せざるを得ないのである。而して此等の實例は我六大都市を通じて普通事とされて居るのであつて、都市民の自覺も甚だ覺束なきを思はしめるのである。

我國勢院の調査によれば我國富として算へらるゝ建物の價値は約八十五億圓なりと言ふ。而して其富力は、主として脆弱にして火災に對する抵抗力なきものであるとすれば、其存在の價値亦甚だ心細き限りでないか。素より價格に於て一割餘のものは稍永久性のものではあるけれども、其殘部に對しては今後吾人の努力により、經濟的に有意義なる恒久性の建物によりて取り代へられねばならぬものであるとは言ふまでもない。而してその有意義なる努力は唯其富力を維持するに止まらず、間接に吾人の活動を助くるとの偉大なるを稽ふれば、我都市民は建物に對する古來の傳統的超然主義を脫して、一日も早く其自覺時期に入らねばならぬ筈である。（つゞく）

歐米の都市計畫に就て（二）

工學士　內山新之助

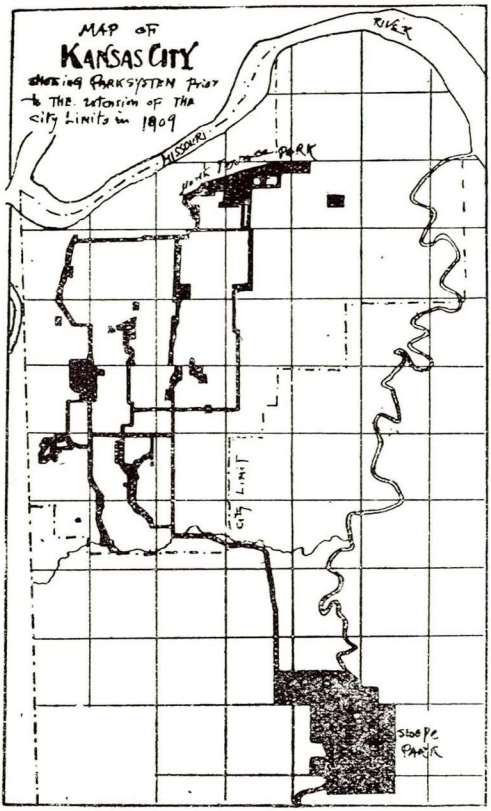
次に米國の公園系統に就て少し計り述べます、抑も公園系統とは市內又は市外に於ける公園及公園道を總稱して云ふものにして是を其管理の方法に依り分類すると第一國立公園第二縣又は組合立公園第三が市立公園である。



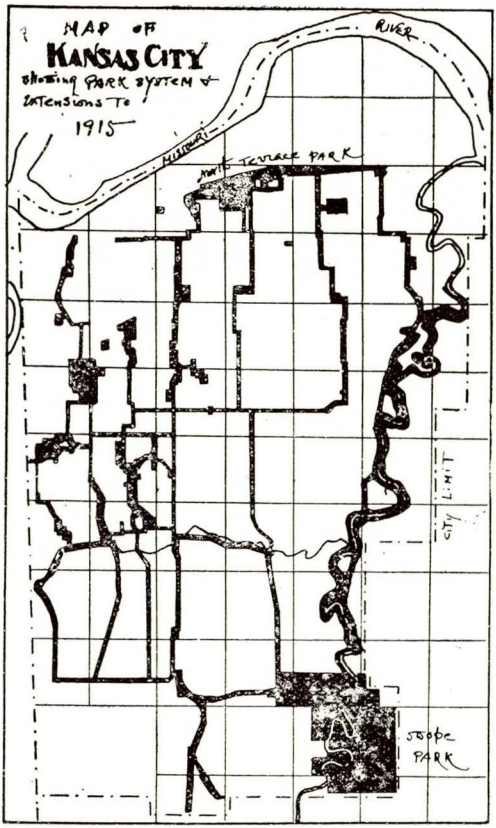
第一の國立公園は所謂北米合衆國の內務省により所望せられ總て國費を以經營し維持して居るもので其數は合計十九ケ所あつて其面積の大小の順序で申上ると第一が「エルーストン」公園（一八七二年創立、ヨーシミング洲ノ西北部ニ位シ面積三、三四八平方哩）、第二が「マウントマッキンレー」公園（一九一九年創立アラスカ洲ノ南部ニアリ面積二、二〇〇平方哩）、第三が「グレーシア」公園（一九一〇年創立、モンタナ洲北西部ニアリ面積一、五三四平方哩）第四が「ヨセシテ」公園（一八九〇年創立、カリフオルニア洲中部面積一、一二五平方哩）第五が『グランドカニオン』公園（一九一九年創立、アクゾナ洲北部面積九五八平方哩）等其他大小合せて十九ケ公園で此面積は實に合計一萬八百六十平方哩ありて大阪府全體の面積六百八十八平方哩の約十五倍の廣さの面積を有する事となつてゐる、大阪市の現在面積廿二平方哩に比較すれば實に五百倍の面積を有す

る次第である。

『エローストン』公園は冬季は閉鎖されて見る事が出來なかつたが第四番目の『ヨセミテ』公園は幸ひ視察の便を得ましたから其概要を申上げます、『ヨセシテ』公園は加州の中央にありまして『ロスアンゼルス』市と桑港との間を通ずる『サウス、パシフイク』鐵道に依り『マーセット』停車場より分岐する鐵道によりて約四時間で其公園の入口『エル、ポルタル』に達して之より乘合自動車で約一時で此『ヨセシテ』村に到達する事が出來る、此外には現在內務省の公園係の官吏と及ホテル經營者等を合せて全体で二百人位の住民が居て病院もあれば動物園もあり、ホテルは勿論一通りの商店もありて數多の奇岩がマーセット河に數千尺の高さに屹立して居て其等は夫々ドーム岩、とか半ドーム岩とか又は『カセドラル』岩とか申して名所として稱んで居る、此公園は夏季の遊覽に適して現在既に自動車を驅馳し得る道路が貳拾五哩程も出來て居るとの事で政府は毎年卅萬圓宛を投し經營維持して居るが前途に新企の事業としては道路の新設動物園の擴張とか又は下水處理場等の設立の爲めに最近毎年三十余萬圓宛支出して居るのです一方當公園は夏時自動車を乘込めば入園料として十圓程を拂ふて二週間なり又三週間なりを此公園內で或は自動車を驅馳



したり又は野營も出來る樣になつて居るから銷夏の爲め毎年多數の人によりて利用せらる、昨年の如きも入園者は約十萬人もあつたとの事で入園料其他の收入全体で廿萬圓もあつたと云ふ事で政府の費用としては十萬圓位も足せば立派に維持が出來るとの事であります、政府に於ては又燃料及燈火用として此所を流るゝ河より水力電氣を起して此村に供給し相當の收益を擧げてゐる、比公園に於て見るべきものは彼の有名なるビッグツリー（Big tree）である此は水松科に屬する一種の杉にして直經三十呎以上もありて其高さは三百呎もあるものもある一大偉觀である、如斯國立公園は設備としては何等大したものは無いが林間谿谷を縫ふて自由に自動車で驅馳する事の出來る道路さへあれば直に公園として利用せらるゝ譯で人口的に設備を施さないもので謂はゞ自然の森林に接するの大した概があるのである。



第二の縣又は組合立の公園とは『メトロポリタレバーク』又は『カウンライーバーク』を云ふものにして『メトロポリタレ』公園として最も成功せるは彼の『ボストン』市の夫れである、マサテユーセッツ州は八九三年州の法律としてボストン市を中心として卅八ケ市町村を以て一大公園區域を定めた是れをマサチユーセッツ公園區域と稱し我國の都市計畫區域と同意義のもので公園系統樹立の對象たる區域である

此外に尙ボストン市では水道及下水の『メトロポクタレ』區域がある。

前の三十八ヶ市町村の中には人口三萬以上を有する市が十一もあつて其等の間に頗る工合良く行つて居る。

然して公園の計畫とか決定は委員會があつて州及市の官吏が合計五人で組織せられて居たる當初は毎年施行費額は貳百萬圓と限定せられてゐたが、一八九四年には、此委員會で道路及公園の建設も遣る權限を附與せられ一九一五年末迄に約四千萬圓の仕事をなしたとの事である最近に於ては毎年度施行すべき費用は三百萬圓に增額せられたるも此は多くは公債利子及公園の維持費に當てられて居る、此等の費用は州よりも少し許りは補助もある樣だが大部分は此區域内の市町村に分賦する事となつて居る最近も二個所程廣大なる地積を有する公園豫備地を買收して着々公園の計畫を進めつゝありました。

現在此公園委員會で管理して居る公園は全體で一萬六百余英反程あつて公園を連結する自動車道路が其延長六十二哩余ある、此外に車馬道は五十哩余あるとの事である。

此外に縣郡立又は組合立公園としては『クリーブランド』市郊外の『ギュヤホガ、カウンテイー』公園、「ロードアイランド」公園、「エセックスカウレテイー」公園、「ハドソンカウンテイー」公園、『ミルオーキー』公園等數多あるも何れも其組織經營方法は前述の夫れと大差なければ之は略す、次は第三の市營公園であるが此は名の示す如く各市によりて建設し經營するもので各市共其相當の公園を有するが市營公園として最も成功せるは彼の『カンサス』市の公園である其歷史的發達の順序は此圖面（圖面指示）に示す如くである即一八九三年には此第一圖に示す如くなりしものが一九〇九年には第二圖の狀態に進んで來た尙一九一五年には此第三圖に示す狀態に進歩して現在に至つて居る次第である、此等の公園は何れも多くは其附近土地所有者の寄附によつて出來たもので土地所有者は自己の所有土地の附近に公園等か出來れは其れか自己の所有土地の開發となり自己か利益を受くる事を良く諒解して其れ等の

利益は自己のみの占有すべきものにあらずとして進んで其土地の一部も寄附し又は特別の負擔をも成すと云ふ風に市民一般が自覺せるが故に現在世界に誇るに足るべき此立派な公園系統を造りあげた次第である、即公園費の財源は特別賦課及餘剰收用の原理を巧みに應用したのである。

米國の他の都市に於ても夫々相當の市立公園を有する事は諸君良く御存じの事である、紐育市に於ては『セントラル』公園『フロンクス』公園及『プロスペクト』公園等大小合せて百八十四ケ所あつて、此面積が七千七百十三英反を有して之に次ぐは費府の二十ケ所で五千五百英反の公園を有す、此次に來るが『ロスアンゼロス』『シカゴ』『デンバー』『ワシングトン』『ボストン』『ミヲアポリス』市の順序で各三千英反以上の公園を有するのである、三萬以上の人口を有する二百十三都市中全然公園を有せざるはバーヂニア州の『ポーツマウス』市（人口三八、六一〇）（一九一六年）とペンシルベニア州のアムスターダム市（人口三六、一六三）（一九一六年）の二都市あるのみで一九一六年の調査に依ると各市經營の公園數は三千九百二十九ケ所ありて、此合計面積が十二萬三千二百五十三英反あるとの事で何れも此等公園は市民の肺臟の役目をなし日々人馬絡繹の巷に活動し汚されたる血液も此都市の大肺臟に來りて忽ちに清淨に爲され以て市民の活動的能率を昂上せしめ衛生上大なる機能となつてゐるのである。

心欲小志欲大智欲圓行欲方

美的對象としての建築（四）

――後の問題として――

伊藤正文

正誤――前號に「美的現象」とあるは「美的對象の」誤

ショペンハウエルの建築觀が正しいとか、間違つてゐるかとか、我等の樣なものが批評するは却て間違ひであると思ふので氏の思想から建築を見て斯う云つてゐると云ふことだけでも理解しようとする樣な眞面目な心掛で居たいものだと思ひます。併し氏の說は最も正しいものであるからうのみにしてまでも尊重しろとは云はない。

氏の學說が氏の學說として權威のあるものであることは云ふまでもないことである、そして近頃の新しい構造法、たとへば鐵筋コンクリートの如き構造法による建築であつても、氏の建築觀の立場から見るならば、矢張建築である以上は氏の學說の範圍外へは出てゐないことになる。

鐵筋コンクリート建築について考へて見るならば、石造の建築と構造法の意味に於ては異るけれども氏の云ふ空間的直觀の一つとして見る建築の形態は、その方針に於て變りはない。

であるから鐵筋コンクリートの建築は石造の建築よりも、天然力の現れとしての凝集性が幾分強まるだけで剛性と重力との現れの關係等は、矢張氏の學說としては變りないと思はれる。

であるから氏の學說は氏の學說として茲に照介を終ることゝします。そして之まで建築を作る側からでなく、建築を見る方の側から述べて來たから、そのまゝ見る方の態度でつゞけて、建築とその環境に

ついて少し云ひたいと思ひます。

本論と關係のない點から見ると蛇足であります。

——建築とその環境——

建築は嵩の大きい程、その美的効果を増すものであると云ふことは確に一面の理由はあるか、只その事だけで考へることは出來ないと思はれる。建築とその建築がある環境——エンヴアイロメント即周圍の狀況、それに時代及思潮の關係を見たる——との關係がそれを動す力は非常に大きなものである。

アクロポリスの上に如何程美しい木造の民家が建てられても石造の祠堂の美には敵せないし、又パルテノンの祠堂をロシアの田園へ建てゝも、その土地にはふさはしからぬ氣持がするだろう。

之は建築と環境との色々のものを比較的に、不調和にわざと組合せて見たものに過ぎないが、一つの建築と、一つのそれに對する環境とを考へて見ても、その環境の狀況によつては、嵩の大さに建築の美の程度が比例するとは思はれない場合もある。

日本の都會に出來る新しい建築物の多くが日本の都會に落付きを與へないことの反對に、日本の田園には、嵩は小くても、日本の田園としつくり調和した民家がある。

建築とその環境との關係が圓滿である時に、初めて建築そのものの美的觀察を進行させることが出來る。即ち建築を觀照する態度が安定になり得る。

建築と環境との關係が圓滿である爲には建築がその環境の中にあるものとしてふさはしい。或はその環境の中に出來た建築らしいと云ふことが必要である。

從て觀者にそれがふさはしい、或はらしいと云ふことを知る豫備智識が必要である、その豫備智識によつて對象が矛盾なく心に入つて來た上で美的評價が可能であるのではあるまいか。如何なる環境の狀況の中に出來たものであるかを知らずに、直接に眼に見える表象自體から眞の美を發見出來る場合ばか

りはないのであるから豫め建築物の環境についても概念で知つてゐる必要がある。

特に何の道、建築は功利を通つて美に到達する可き性質のものである。

らしい、即ち銀行建築らしい、學校建築らしいと云ふ意味に二樣ある樣に思はれる。その一つは銀行建築には從來斯くの如き形が多く用ひられて來たから、斯くの如き形が銀行らしいのだ。と云ふのと、もう一つは、學校建築としては斯くあることがその環境との關係の上からふさはしいから斯くの如き形が學校建築らしいのだ、と云ふのと二樣に思はれる。

前のらしいと云ふことは理由にならない所謂、らしさであつて只まねに過ぎない。今云つてゐるらしいと云ふのは後の方のらしいと云ふこと、即ち、環境の關係を見ての上でらしいといふ場合である。

そこで建築を美として觀照する場合に、その建築と環境との關係が圓滿であると云ふことが、美と功利との間の矛盾を避ける原因になると思はれる。建築は功別を通じて美に到るけれども、その功利によつて頗る限定された美と、一面に自由な廣汎な美との間に背反律が成立することを、佛國の美學者、ギユヨーが云つてゐるが、建築の美を觀照するに當つて、建築と環境との關係が惡かつたならば直接に美を感ずる以前に功利についての間隙を感ずるに遠いない。此に反してその關係が圓滿である場合には功利を通りぬけることが易いだけそれだけ美を充分に味ふことが出來るわけになる。

そこで繰返して云ふけれども建築と環境との關係が順調に圓滿にととのつてゐる上ではじめて建築の美を觀照することが出來るであらう。

次に環境はやはり自然である故に建築が自然の中に含まる可きで全體から見るならば自然に對して素直な態度の現れが建築になければ、以上云つて來た事は成立しないことになる。

建築は元來靜的のものであるから、その土地にふさはしい靜止した落付きがなければいけない。農家の美は自然の前に素直に出來た建築である故、云ひ代へれば、農民の貧しい心の態度から生れた作品であるから、その落付きを充分に見せてゐるのだ。

素直な落付いた建築の作は傲慢な建築家の頭惱と技術からは生れないのだ。

大和や南河內の農家にある美しさを大阪市內のビルデイングから見出すことの出來ない理由は茲にある

吾々は人間としての立場から正直に建築の作に對したいと思つてゐる。(終)

建築物の社會的影響（上）

——權利の社會的行使を論ず——

水口正一

一

凡そ國家の行政が、常に國民的信賴を繫ぎ、而して國民的信賴を基礎としてのみ、可能とせらるゝ立憲的服從を期待せんが爲には、行政行爲が常に、適實にして且つ合法でなければならぬ。實在の事件に對して、特定の法律關係を定むる行政行爲をして、常に適實合法ならしめ、敢て過誤ならしむるが爲には、國家の委任に依て行政事務を取扱ふ官吏が、よく法律命令に明るいばかりでなく、之を運用する上に於て、徒らに字句の末にのみ拘泥することなく、社會の實相を直視して、透徹明快の判斷を下すと共に、民衆の心を貫く時代の思潮を洞察して、社會の推移と共に變遷すべき法令の解釋と適用を過たず、而も尙立法の精神に戻ることなきの、用意ある人でなければならない。故に若し行政の衝に當るべき官吏にして、社會の實相を直視し明察するの能なく、社會思想の推移に暗く、而して社會思想の推移が持ち來しつゝある、法律命令の解釋並に適用上に於ける、新らしき傾向を知らず、且つ今後の立法を支配すべき大精神を、感知し得ない樣な者であつたならば、到底國家の行政行爲をして、適實合法ならしむることは出來ぬ。適實合法ならざる行政行爲に對して、どうして國民的信賴を繫ぎ、立憲的服從を期待することが出來るのであらう。最近大阪市內に於ける一商人よりの建築物出願に對し、大阪府工場課長安達君が余等新聞記者團に對して開陳したる意見、幷に其意見を基礎として將に行はれんとしつゝある

行政處分は、私有財産權に關する、十八世紀以來の個人主義的解釋が、既に其權威を失墜して、私有財産制度は畢竟社會的福祉の爲になされたる、財産の社會的信托（ソシアルトラスト）である以上、若し社會的福祉と調和し能はざる場合は、勿論私有財産權に制限を加ふべきの至當なることが高調せられ、權利の社會的行使が一大標語と爲りつゝある、今日の法律思想に背反するものでないかとの疑なきを得ない。少數者の好むと好まざるとに拘らず社會の進化が必然に要求しつゝある社會的必要、この社會的必要を充足すべき、新たなる法律思想、この法律思想に背反するの疑ひある行政處分は、勿論適實合法の行政行爲と思料することは出來ぬ。適實合法なりと思料し能はざる行政行爲に對して、直接の利害關係者と、而して其行政行爲に依て生ずる、法令の客体たる一般國民は、果して衷心之を信賴し之に服從（ふくじゅう）し得るであらうか。余は決して議論を好む者ではない、更に況んや一刀筆の吏を捕へて、事を搆ふるの愚なることをも、これを十分に承知してゐる。余はたゞ國家の法律命令が、常に神聖にして尊嚴ならざるべからざることを確信し、而して專制の昔はいざ知らず、近代立憲治下に於ては、法律命令に對して國民の合理的信賴を期待し、諒解ある服從を實現することが、之をして眞に神聖ならしめ、之をして眞に尊嚴あらしむる所以であることを確信するが故に、更に而して個人主義的自由主義の、非社會的潛在（せんざい）意識が、單に少數の資本家を支配するのみならず、一部の官吏をも支配しつゝあるに非ずやとの疑ひなきを得ず、延いて個人主義的自由主義の發現が之と本質的に相容るゝことの困難なる社會的福祉に對して、往々にして危害を加へんとするに當り、其行政上の取締が十分なる能はざることなきやの感あるが故に、偶發したる建築物建築出願の一小問題に借りて財産權の社會的行使乃至權利の社會化に關する、法律的要求を考へて見たい。

二

大阪市の社會事業乃至社會施設は、其經營の動機及運用の精神に於て、本質的に慈善事業の埒外に多

く出るものでないことを思へば、未だ以て滿足する能はないのは勿論であるが、然しながら比較的其種類の多く、規模の大きく内容の整頓せることに於て全國斯業の先進地として、市當局が之を中外に誇つてゐるのは明かな事實である。而も其大阪市の社會事業中、殊に大規模にして且つ模範的のものとして常に全國各方面からの、所謂社會事業視察者なるものを吸引してゐるのは、何と云つても西區鶴町に於ける約千戸の市營住宅である。市當局は行き詰つた住宅問題を解決し、市民の住宅難を緩和すると共に公營住宅の理想的經營を實現する意氣込みを以て、三千有餘の市民を收容せる此の鶴町市營住宅の爲に既に小學校、託兒所、倶樂部、浴場等を新設したばかりでなく、更に小公園を設け防波堤を築き電車を延長して、敎育、衛生、保安、交通其他あらゆる文化的施設を完備せしめんとして居る際に、突如として此の文化的施設を紛碎し、住宅居住者の生活の安全を脅威し尙且つ市の住宅政策を蹂躙するが如き事實が發生した。それは大阪市内の一商人松尾某から、僅かに一條の道路を隔てゝ、鶴町三丁目の連擔せる市營住宅に接して、千七百坪の敷地に一大鐵工場を建築すべき計畫が、大阪府に出願されたことである。之に對して市營住宅の直接の經營を所管せる市社會部に於ては、住宅政策の進展に對する根本的打撃である以上、勿論默視し能はざる所で、即ち村尾社會部事業課長は病中の天野部長に代つて、左の如き意見を表明した。

法規上欠點はなくとも、社會政策上看過し得ない場合があります。工場の性質、市營住宅との關係などから見て、若し居住民の健康を害し、風紀上其他の上に惡影響があるとすれば、社會部としても對策を講じなければならぬ。（二月八日大毎所載）

然しながら同鐵工場敷地千七百坪は、松尾某が既に大阪市港灣部と契約の上賃借したものである。元來港灣部が土地を賃貸する場合は、云ふ迄もなく其土地に建築せらるべき建築物の、構造並に使用の目的乃至使用の方法、其他萬般の計畫を豫め査定し、其査定に基いて周圍に對する影響を十分に考慮すべ

きものであるのみならず、殊に公共團体と個人との間では、それが賃貸契約の内容の重要部分を形成すべきものであらうと信ずる。即ち今回の事件の如き場合は、市の社會事業の粋として尊重し愛護して措かざる市營住宅に接續して、作業上音響の最も激しく且つ煤煙の厭ふべき、大鐵工場を建築すると云ふのであるから、住宅經營を所管せる社會部に對して重大なる利害關係のあることは自ら明かである。而して港灣部と稱し社會部と云ふも、其所管事務に形式的の區別こそあれ、自治体の機關としては、市長の下に統轄せらるる不可分一体の組織である以上、當該土地の賃貸借契約を締結するに當りては、須らく港灣部は社會部に對して、十分なる協議を行ひその隔意なき諒解を遂げることが、當然の措置であると信ずるが、果して港灣部は社會部に對して協議を行ひたりや否や、若し協議が行はれたものとすれば社會部は果して之を支障なしとして承諾したるものなりや否や、之を港灣部長直木倫太郎君の言に聞いて見たい。即ち問氏は左の如く語つて居る

(前略)市營住宅の建設に土地がないからと云ふので、鶴町の一部を住宅建設のために社會部に提供したのだ。それが今日になつて住宅があるから工場を建てゝはいけぬと云ふことになれば、庇を貸して軒を取られるやうなものだ。(二月九日大毎所載)

三

新聞紙の報ずる所は無論事實であるから、村尾社會部事業課長の表明と、直木港灣部長の談とを綜合して大阪市が松尾某に對し工場敷地としての土地賃貸借契約を締結するに際し、港灣部と社見部との間に合議協調の毫も行はれたものでなかつたことを察するに難くはない。這は畢竟『住宅の經營者たる社會部と地主たる港灣部との間に、意見の扞格を生じ、市の土地政策の不統一を暴露したものであると新聞紙は報道してゐるが(大毎二月九日所載)全く其通りで、其所管事務に形式的區別あるの故を以て、夫

々利己的主張を固持して相下らず、自治体の機關として不可分一体として、市の綜合的福利を增進すべき本來の責務を閑却し、恬然として顧みざるに至つては、市當局の醜狀陋態の暴露であるに止らずして之に依て市民の蒙むるべき損害と迷惑とは、蓋し尠少ではない。果然市會議員某氏は市當局の無責任なる措置を憤慨して左の如く語つて居る

（前略）これは市當局が放漫な其日限りの政策をとり來つたために發生した問題だが、そんなことを知らない三千の居住民（鶴町市營住宅）は、全くその犧牲になつたやうなものだから、何とかこの際適當な解決方法を講せねばなるまい（二月八日大毎所載）

以上は松尾某の建築物建築出願に依て、偶市當局の自治体の機關としての不統一を暴露したものであるが、そして勿論茲に余の論じて見たいと考へてゐる問題と、それが實質的には重要な關係を持つて居るのであるが、兎も角も一個の出願として大阪府の建築課に提出されてより以後、當該出願に對する府當局の措置を批評する上に於て、形式的には、其出願に至る迄の事情はそれ程關係のないことであるから、余はこれが爲に此以上多くの言を費すまい。大阪府建築課に對して右建築物建築の出願された事實を知るや、余はこは大阪市の社會事業中共最も重要視されつゝある、住宅政策に對する一大打撃であると共に、都市計畫に於ける地域制の確定に先だつて、斯の如き大工場を無條件に濫設せしむることあらんか、これ實に都市計畫事業の一大障碍を爲すものであると考へたのみならず、一資本家の營利事業を輿すが爲に、隣接地多數を居住者に、豫期せざる迷惑をかけると云ふことは、これは今更資本主義の本質論を持出す迄もなく、現代の如何なる人々にも共通して考へ得らるる、社會的正義の到底肯定し得ない所であると思はれたから、余は先づ都市計畫大阪地方委員會當局者に對し、當該建築物の出願と都市計畫地域制との關係を質して其意見を徵したところ、委員會では地域制は過般開かれた都市計畫大阪地方委員會に於て、特別委員を選んでそれと依て內務者に提出すべき案が作らるることになつてゐる儘で

（大綱だけは既に提出濟みなるも）之が確定には尚時日を要する、從つて右地域制の確定を待たなければ市街地建築物法に依つ不都合なる建築物の制限を強制することは出來ぬが、然しながら、それだからと云つて個人の任意に而して無條件に、建築物殊に大工場などを濫設せしめたならば、後日に至つて都市計畫遂行上の大障害となるべきことは明らかである。從つて少くとも新たなる大建築に對しては、將來地域制の確立したる場合、其地域制に遵據して支障ある場合は移轉すべきを條件として之を許可することゝしなければなるまい。現に京都の如き神戸の如き此の方針を執つて居る旨を言明した。（つゞく）

貴き事業をなせ、決して終日之れを夢
想する勿れ。而して汝の生涯をして一
の高妙優美なる歌謠たらしめよ

防火地區の指定に就いて

明治火災保險株式會社
大阪支店長　押本重平

■『市街地建築物法』によつて、地方長官に委任されたる處の、所謂『防火地區』の制定に就いては、公安の上からも、又は事、個人の經濟に至重な關係を有してゐる點からも、餘程重要な案件であるが爲にや、該法實施以來、少くとも、我大阪府當局は、今日まで防火地區の指定を爲さなかつた。

■併し、昨今傳へ聞く處によれば、斯案が漸く出來上つて、內務省に禀議中とか、未だ其內容を公表しないから、我等業界の者としては、是に就いて、批判の時機には達してゐないけれども、それに關して多少識り得た事を對象として、私の考へを概略申述べてみたい。

■先づ、新聞紙抔にて傳へられた處によれば、防火地區內に於ける在來の建物は、改築等の場合に法定の防火的建築物となさしむるといふ、漸進主義とでも申すべき方針の下に、其地區內の防火的完全を期するとの事であり、幸に、都市計畫に依る幹線道路築造の爲に取り擴げられる沿線の家屋を、防火的建築たらしむるに便宜としてゐる、との事である。

■私は今此處に、斯る方針の當否を論じたくはないが、それよりも、もつと根本義に關して卑見を述べてみたいけれども、只此處に一言して置たい事は、斯る漸進的方針は、恰も舊時の市區改正に於て、道路取擴げの爲に、在來家屋の改築抔の場合を待てる漸進主義と同樣に、餘程悠久な問題であり、實際防火政策の一つとして採れる件の防火的建築は、斯る悠遠な時間を容し得べきかが問題であらう、かといふ點である。

■理想としては、都市の家屋全體が、完全防火的建築であらねばならぬ、然らざるとするも、或一

區劃其ものを防火的施設と成し、それが都市全體に及ぶべき筈であらねばならぬ。之と同時に、防火的施設は、縱むばそれが消防機關の完全に俟つ處の消極的方法の存するにせよ、凡ての家屋自體が防火的性能を有するような、積極的方法は恒に危險狀態に在る現狀から觀て、何時も緊急な問題である。さるが故に、少くとも、防火地區內に於ける建物に防火的性能を有せしむる事は、斯く悠遠な時間に俟つべきではあるまい。

■但し防火地區內に於ける建物を防火的に急施する事は、實際問題として、各人の經濟關係に重要な影響を及ぼすが故に、到底之を俄に實行することは出來得まい。仍で防火地區內に於ける箇々の建物が漸次に防火性を有するに到るまで、地區其ものに、完全防火裝置例へば完全な防火壁を設くるのも一策ではあるまいか。

■私はそれよりも、防火地區指定其ものに就いて即ち防火政策の基本に就き考へてみたい。這回大阪府當局の立案したる防火地區は、果して如何なる地域を、如何なる標準に依つて指定されたか、判らないけれども、先づ大體としては、所謂目貫の場所、例へば淀屋橋通りとか、心齋橋通りとかいふような、商業地域が主もなようである。

■併し私をして云はしむるならば、由來大阪に於ける商業中心地即ち所謂『船場』の如きは、古き慣行として、現狀の如く皆それ〳〵屋後に土藏を有して居り、而も斯る土藏は、一朝火災坏の場合に處する設備としても築かれ來つたので、其殆むど二箇の土藏が縱斷的にも、又橫斷的にも直接し、其處に自然な防火線を築かれてゐる現狀である。

■單り是許でなく、元來大阪都市の地理的關係が人も識れる如く、南北に涉つては兩橫堀の堀割あり、東西に沿ふては、多數な枝川たる堀割を有つてゐるが故に、大阪都市は、爰に亦斯の自然的な大防火線を有つてゐる。一旦事ある場合に大防火線として、之等を有力に而も巧妙に利用するならば、防火能力を充分に發揮しようかと想はれる。

■隨つて箇々の建築物としても、又地區其ものとしても、眞に防火的施設の急を要するものは、斯る目貫の場所よりも、例へば西は九條一帶、北は

天満とか、南は道頓堀界隈とか、東は上町一帯とか、凡て密集な場所、比較的地積の狭くして家屋の多い場所、斯ういふ處にこそ、箇々の家屋とは行かずとも、せめては或區劃々々に防火的施設を爲すべく、防火地區としての指定を爲し得るようにしたらばと望むでゐる。

■成る程船場邊りの火災は、損害の多いものと見られるが、實際は消防機關の敏活な働きさへあらば、大して延燒すべき筈でない。何故ならば地積と建物の比率が頗る疎であるから、比較的大きな建物許ある處は、寧ろ危險が少いと見て可い。

■それに反して、上述九條其他の密集場所は、恒に失火の危險率が高い許りでなく、一旦焰燒せむか、所謂大火と成る可能性を充分に有してゐる、そして、縱むば消防機關によりて、或程度の類燒に止めるにしろ、損害の點に到つては、寧ろ、所謂數でこなす處の後者に甚しい場合が多い。

■殊に防火的施設は、寧ろ經濟上の損害をのみ慮つて足れりではない。一口に云はば、經濟と公安の二方面より、考へられなければならぬ問題である。

■縱むば場末密集の場所は、船場邊りの火災の場合に比し經濟的の損害が少いにしろ、人口濃度の高い上から、人命と生活を損ふの寧ろ前者に多い事、蓋し爭いなき事實である。斯の故に防火地區としては、斯る密集場所に重きを置いて考慮されたい。

■話は後に戻るが、防火地區として指定された地域内に在る建物を、暫次防火的建物に改めしむる過渡策として、それ等一帶の歩道を、歐米邊りで遣つてゐる樣に、ずと高くして、それを自然の防火壁と成るようにするのも一策ではあるまいか。

■終りに述べたい事は、今回大阪府が、防火地區を取り決めたに就いて、何故吾々火災保險業者へ諮問とか、或は何かの形式で意見を徵するとか、しなかつたのであらうか、私共は少からず了解に苦むでゐる。

■申述べるまでもなく、吾々業界は火災關係に就いて、一つの權威だと云つても可い。何故ならば火災に關する處の、凡ゆる經驗と、調査と、研究

を有つてゐるの一言に盡きてゐる。

■然るに東京府抔は、業界に諮問したそうであるが、大阪府は未だ何等の交渉がないと記憶する。併し這回の立案に就いて、私は其經過を知らないから、立ち入つて批判は出來ないが、兎も角吾等業界が防火地區に就いて、何等の交渉を有たないといふ事は少々勝手が違ふように考へる。

■尚ほ最後に斯る防火地區の制定もよいとして、他面には防火の宣傳と、消防當局者と民衆の接觸が常に保たれてゐるといふ事が、防火地區を一層有能ならしむるのと、其他の場所を消極的に實質上防火的たらしむるに、最も緊切な事柄である。

■それは例へば、火災報知機を周く設ける事と、民衆の敏捷な處理と、其他恒に火災觀念を緊張せしむる事と、諸多相俟つて防火を最も有能ならしめなくてはならぬ。談、餘事に渉りしも、要するに、少くとも、大阪の防火地區を、單に目貫の場所といふよりも、場末の密集にも及ぼして貰ひ度い一事に在る。（文責在記者）

菜の花に
雨の近づく
にほひ哉

工場建築私言

大阪府理事官
工場課長　安達將總

○大阪府に於ける工場建築其ものに關して行政法の取扱ひは、主もに、建築課の管掌に屬し、工場課としては、工場としての操作を開始したときから監督關係が始まる。仍で、建築自體に就ては、此處に卑見を述ぶべき限りでないが、工場として操作を始めて以來の工場建築物に就いては、二三お話を爲してみたい。

○光づ、工場建築物に對する監督としては、申すまでもなく、保安及衛生上の關係である。工場建築當初に於ては、勿論、保安上の見地から、又は衛生上の關係から、建築課の合議を受けて、使用許可を與へる事になつてはゐるが、扨て工場の操作を開始して後、當該監督官が、若し工場建築の上に不備を認めた場合には、當然、其改善を命じ得る。

○併し、工場建築物の改善に就いては、由來、工場は資本主義の化現であるから、資本固定の關係にも、餘程考慮を有たなければならぬ。蓋し、等しく工場と云つても、工場法は、常時拾五人以上の職工を使ふ工場を、其對象としてゐるから、單に理窟一遍の見地からすれば、保安或は保健上の設備に就いて、十五人の工場も、幾千人を使用する工場も、同樣に取扱つてよいようなものであるが、實際は工場建築物の改善に就いても、非常な負擔となり、云ひ換ゆれば、資本の固定を多からしむる結果ともなる。

○隨つて、場合によりては、同樣な物を同樣な條件で製作しても、小工場の生產費は、ヨリ以上の工場に於けるそれよりも高く付くことになる。即ち、所謂原價算出に少からぬ關係ある事を考慮に入れなくてはならぬ。

○其他の事にしても、法によつて相當な設備又は

設を命ずるのは當然な事であるけれども、實際は、工場の奈何によつて、其處に執法上の考慮を要する。

○蓋し、工場監督事項中、建築物に就いては、工場法第十三條に、『行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀、其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得』とある斯の一箇條が、工場建築物に對する監督の法的根據となつてゐる。

○けれども、斯の法條中に在る處の『命令ノ定ムル所ニ依リ云々』とある其所謂命令は、未だ當該省令の發布がなく、近時漸く具體案が出來上つたのであるが、現在までは、一々細綱に亘つて、監督上の依準條項はない。

○然らば何によりて、工場建築物に於ける保安又は保健上の監督を爲すか、といふに、それは法の根據としては勿論斯の十三條の精神に在るから、それによつて執行する上に於ては、只常識による の外はない。即ち、法律語で云はゞ、所謂裁量的に遣るの外はない。

○元來、等しく工場法の適用を受けてゐても、茲に述べた通りに、十五人位の小工場もあれば、多數な職工を使ふ大工場もあり、其間殆んど無數な差異があるから、縱むば、工場の建築物一つにせよ、件の十三條を執行する上に就いても、其處に常識的の種々な取扱ひを要する。

○法第十三條の省令は、奈何なる程度と範圍に於いて、工場建築物等の監督手續を決めるか今此處にお話しする事は出來得ないが、縱むばそれによつて、一々取り決めたしろ、其處には、依然常識によつて、工場の種類、性質又は大小其他の條件を考慮、餘程取扱ひ上の手心を要する事となるのは、法其ものゝ性質として自然な事である。

○現に、佛蘭西や、英吉利抔でも、工場法規は大體の事を規定するで迄、實際にそれを活用するのは、監督官の常識的判斷に委してゐる。蓋し單に工場と云はゞ、其範圍と性質及組織抔が頗る廣汎なるより、到底、法律を以て一々巨細に規定する

事は不可能なるからである。我工場法規に於ても亦同様に考へられる。

○工場建築は、他の建物と異り、工場自體としても、内部に對する諸般の衛生的設備、例へば換氣採光等には建築設計に方りて特殊な注意と格般な技能を要し、工場建築物が外部に對する關係に於は、亦一般に公衆衛生及保安に關係を有つてゐるが故に、理論としては、飽迄も完全なる設備を要するも、實際に於いては、前述の通り、資本固定隨つて生産費に少からぬ關係を有する場合があるから、當局者としても、其處に苦心の存する處である。されば只望むべきは、建築家と當該工業主の交渉を以て、自發的に成るべく完備せる工場建築を希望する。（談話の要綱、文責在記者）

最も眞正なる智力とは斷乎たる

決心を云ふなり。



鐵筋コンクリート其の日その日 (四)

會員 工學士 增田清

(三) コンクリートと鐵のブンドに就て

鐵筋コンクリートの建築の特徴の一つは、其のモノシリックな點にありと云ふ事を前に一寸申しましたが、此のモノリシック、即、一體的な、と云ふ事は何に依つて起るでせうか。私は、其れはコンクリートと鐵との間に生するボンドに依るものと云ひたいのです。事實、鐵筋コンクリートの各部材に力を加へて、鐵筋とコンクリートとが、各、別々に働らいたら如何でせう。柱の中に入れた鐵筋が外へ出たり、梁が落ちたり、スラブが破壞する等と云ふ事は恐らく始終の事で、鐵筋の家や何かを作らうとする人はなくなるだらうと思ひます。しかしボンドの大事なものであると云ふ事を知らずに、設計をしたり、施工に從事する人が隨分と多い樣です。それで、今度はボンドとは何ぞや、ボンドの効能如何、ボンドの試驗の結果等

め込みの長さに比例します。故に、試驗の結果、可許應力を定めるのには埋め込みの長さと鐵筋の徑の比率の影響を是非考慮に加ふべきであります

コンクリートの中に埋めた鐵筋が滑脫すると、自由な端の移動の方が埋め込んだ端よりも多く移動します。この二つの端の差が應力を生じた鐵筋の埋め込まれた部分の歪みに相當するのです。

(二)鐵筋の大さ(直徑)と埋め込みの長さとの比がポンドの強さに及ぼす影響、埋め込みの短いものと長いものとを比べると長いものゝ方が全接觸面積に割り當てた平均のポンドの應力が少くなります。イリノイスの大學でエブラムス敎授の行はれた試驗に據りますと。一・二・四のコンクリートに壹吋四分の一の普通の丸棒を入れて、打込後七十四日目に、試驗をした所が、六吋の深さの時(鐵筋徑の四・八倍)に、一平方吋四百二十ポンド廿四吋深さの時(一九・二倍)三百二十八ポンドであつたといふ事です。バッハ敎授の試驗も同樣の結果を齎しました。

(三)ポンドの抵抗を定むる方法。鐵筋のポンドの抵抗を算出する時には埋め込み長さと鐵筋徑との比が大事な決定の要素となります。必要なる埋め込みの長さは徑の增大と正比例して增加しなければなりません。例へば半吋の鐵筋を用ゐた時に貳拾五吋の埋め込みは、その比例五十となつて充分ですけれども、壹吋の徑のものでは比が廿五となる丈なので充分とは云へません。

(四)滑脫と抵抗との關係、普通の丸棒で試驗すると力を加へて、その力が接觸面の平方吋に二百六十ポンドに達すると滑りが始まります。この大さは最大なる抵抗の六割に當ります。長さ百分の壹吋の滑りを生じた時が丁度最大の抵抗を表し、其の後は抵抗が減少します、最大抵抗の時の滑りの五倍の滑りが起つた後には僅かにその七割丈の力でずん〳〵と滑りが進行しました。云ひ換えると初めは少しも鐵筋が拔けず、二百六十ポンドで拔け初め、拔け出しの度が百分の一吋に達すると抵抗は最大となり、其れ以後は力を減じても拔け出すのは止まぬといふ事になるのできります。

(五)鐵筋表面の狀態と形狀との影響、エブラム

について、御話をします。

ボンドといふのはコンクリートの中に入れてある鐵筋を抽き抜き、又は押し出さうとする時に、それに反對する働きを云ふのです。此れを分けて(一)、コンクリートの收縮による把握抵抗、(グリップ)(二)鐵筋の表面のザラザラする爲めに生ずる摩擦抵抗と二つにして考へます。今埋め込んだ鐵を抽き抜かうとすると、始めは此の二つの働きが同時に存在して抵抗し、力を加へるに從つて、鐵筋が滑り初めます、この滑り出しと共に把握に依る抵抗は破れて、摩擦のみに依りて、鐵筋の滑脫が防がれるのです。

異形の鐵筋に在りては、以上の二つの働きが、共に存するのみならず、更に其の表面の種々の凹凸が鐵筋の滑り出しを防ぐ役を勤めるのですが、此の働きは、鐵筋が一寸滑り初めぬ中は役に立たぬのです。

抽き抜きの試驗は梁の中に起るボンドの應力とは異つたものですから、これを別にして置きます

(一)抽き抜き試驗、抽き抜き試驗の材料はブロックと其の中に埋めた鐵筋とで行ひます。試驗をするには表れて居る方の端へ荷をかけて、ブロックの中の鐵筋が抽き出されに抵抗する其の抵抗を見るのです。實際の場合に於て是と同樣な事の起るのは、固定又は突桁となつて居る梁の終端に於ける、アンカーの所で、支點の所のコンクリートが抽き抜き試驗のブロックに相當します。ボンドに依りて、支點に傳えられる支點の端の鐵筋の最大應力は抽き抜き試驗の時に加えた力に相當します。

計算の時にはボンドの應力は、鐵筋とコンクリートとの全接觸面積に一樣に分布するものと考へます。が、しかし、實際には、ボンドの應力は、支點の端に於て最大で、支點の內部で最小になります、多くの場合、鐵筋は力を加へた場所で滑脫を始めて、其後に全體の鐵筋のボンドの抵抗が働きかけるのです。夫故、支點の傍の部分の鐵筋は單に摩擦抵抗をなし、離れた部分の鐵筋が把握及摩擦の兩方の抵抗をするのであります。埋め込んだ鐵筋の各都各部のボンド應力の大さの變化は埋

ス教授の試驗の結果に據りますと、

角鐵筋の抵抗は普通の丸棒の七割五分であり、やゝ錆びた（錆が剝れる樣なのは別として）鐵筋は新しい出來たてのに比して壹割五分丈餘計に抵抗し。丁形のバーの抵抗は大さが大きくなると減少する。即、一・二・四のコンクリートで八吋深さに埋め込んだ時に、壹吋の丸棒は平方吋に三百ポンド壹吋の丁バーは三百十ポンド、貳吋の丁バーでは二百二十ポンドに過ぎない、但しコンクリートは打ち込み後七十日目であつた。

（六）材齡と調合との影響、四分の三吋の丸棒を用ゐて調合をかへ、日數をかへて試驗した結果によると、日數がたつ程ポンドの抵抗は大きくなり調合のよいもの程、ポンドの抵抗は強くなる。今二十八日目に一・二・四のコンクリートでは最大が四百四ポンド、百分の一吋の滑りの時に貳百八十八ポンドに達して居ます、一・三・六では二百四十一ポンド及百三十ポンドに過ぎません。

己れを制する
人は最も強し

古代民族心理と建築（一）

山崎萬壽夫

藝術は社會のあらゆる基礎的組織を要し最崇高な藝術すらも社會的關係の全組織中に編入されてあるもので民族的文化の他の有機的體系のいづれからも制限せられ社會全體の發達の途上で歷史的に與へられた主要な方向に從ふものである。(A. Schöffele, Bau und Leben des Socialen Körpers) 藝術に對する自然的關係のうちで最重大な意味を有するものは藝術を作り出す其民族の根本性質そのものでありそれの特長は單純に受働的な藝術的能力のみを有する多くの人々の觀美意識を支配すると同時に個々の民族の製作的技能の上に大なる影響を及ぼすものと認められる。いづれの民族に於ても藝術に作用を及ぼすものは其文化の全體であつて國家の構成、宗教の制度、教育を受くべき能力、精神的奬勵、商業及交通の狀態が特殊な方法を以てその影響を與へてゐるのであるから此等の事物の充分な研究を俟たないで或民族の藝術に對して深い理解を得やうとするのは全く不可能なことである。

水草を求め群羊を追ひながら漂浪し歩いた人類が適當な地に永住を志してから彼等の間には環境の影響と遺傳の法則とに依つて幾百年幾千年を送るに從つて個人の心理は相互に著しい相違を表はしながらも而も全體としては其處に離れ得られない心理的共通點が強い力となつて偖み彼等は同一の方向をとつた神秘的感情に支配されて宗教を得そして其處に彼等が民族全體として共鳴し憧憬する文學や建築や音樂等を求めて初めて定型を得た文化即其民族の文化を發現したのである。而して此發現の主因であり同時に強大なる偖勢力であつ

た彼等に共通な心理こそ民族心理であり彼等の文化はその心理に依つて成育され支配されて定型を呈する民族文化として發現したのである。即ち或民族文化は其民族心理の發現であるといふ判斷に導かれたことになる。

斯のやうにして顧れば數千年の間天然の暴威にも犯されず依然として古化文化を物語る最も信ずべきものは即ち其等の民族文化の悌たるべき建築であることは疑はれない。ニール河畔に咲き誇つた驚嘆すべき埃及の文化は『萬物すべて時を恐る然れども時はピラミットを恐る』と後世アラビヤ人をして叫ばしめた悠久と不滅を思はしめるピラミットやオベリスク等に依つて物語られてゐる。アテナイを中心として燦然たる光を放つた希臘文化は風光明眉のアクロポリスにパルテノンがその文化の諸要素であつた美しい均衡と調和とを保つてゐる。而して此等傳へられ保存された古代民族の建築が殆ど禮拜用建築であつたことは事實であり彼等の有してゐた宗教的心理が其藝術活動の中心となつて他の一般藝術が此中樞から發する命令に服從した關係は明白に理解されることである。

人類が自己の不完全を認識し知るべからざる威力の下に隷屬することをおぼろげに感得した時宗教的感情、宗教的思想ならびに宗教的體系に對する基礎が與へられたのである。說明し得ない事物に對する疑惧や自然界の出來事、疾病及死に對する畏怖は飽く迄も生存せんとする人類を驅つて何かの保護物を求めさしたのであつた。彼等は自己の力の不足なるを知つて他の力を借りるべく努力し現象の原因を知らなかつたまゝに偶然な機會が與へた事物に其力の存在を認め何等の價値も有つてゐないものを偶像とし奇怪な形の石を不思議な力の借在所として禮拜し其本質の不可解なるが爲に恐怖を起さしめる凡てのものゝ前に拜跪したのであつた。然しながら智識の增進と共に形而上的要求の形式も漸次精神的となつて神秘的分子又は感情的分子の發展となり各其の民族固有の民族心理に導れ竟に其民族に特有の信仰を有つやうになつたのである。斯くして世界最初の神殿は其信徒を收容するが爲に建築されたのではなくして安置

された神像を保護するを目的とし超自然の或るものに地上の住居を與へんが爲であつたが後世に至つて其尊崇されるものゝ神的威力がその室を滿すと考へられ神像の安置所は聖所となり神の幽玄神秘な力に參與する場所と變つたのである。

眼界にせまる砂漠の熱砂に散らばる白骨と洪水との破壞力とに於て充分に死の脅威をつきつけられて感情の迫つた埃及人は非常に迷信的になりより多く神秘的であり且自然界に於ける人間の無力をより深く感じたから其處に大規模なる自然神教（拜物教）が發展し自然物——特に動物——が神として彼等の生活全部を支配してゐたのである。埃及人は宇宙の主宰者として臨んだ太陽ニール河を首として牝牛、猫、狼、五位鷺、鷹、蛇、鰐魚、甲虫が直接に人間の吉凶事を司どるものとして祀りそして人間としてなし能ふ凡ての事は唯此等の恐しく力強い自然に祈禱して僅かでも彼等の怒りを和らげ恩惠に浴したいといふ希望であつた。

天空と砂漠と大河との埃及は又生と死との激しい對照の國であつた。赤道直下の極暑の苦惱に加へて猛獸毒蛇の襲撃に會ひ乾燥期にはサハラ砂漠の砂に侵害され恩人として慕ふニール河も又同時に氾濫期の脅威を借める最大の敵であつたが凡ては一樣に著しく永續の相を具へて其等生死の對照も結局は生の勝利——最後の希望を示してゐた。ピラミツト時代の彼等の宗教は死者の崇拜であつたが政治的統一が完成されてからは種々な多神教は漸次地方的に一神教となるの傾向を呈して來たのであつた。しかし埃及人の心に常に纏つて竟に離れ得なかつた信仰は其未來生活の平安であつた彼等の間には次のやうな太陽に就ての神話が信じられてゐた。

太陽は晝の間はアモン又はラーといふ神であるが夜になるとオジリスといふ神になる。曙と共に母のヌーといふ神から生れて船に乘つて空を航海しながら惡魔と誘惑とに戰ひ夕陽と共に死んでゆく。日沒と共に太陽はオジリスの神となつて夜の更けゆくままに暗黑の淵の中に底深く沈んでゆくが深夜を過きてからは又次第に上つて來て夜明けと共にラーの神となつて惡魔と誘

惑に戰を挑む。

斯様に埃及人の民族的信念の中には光明と暗黑、神と惡魔、肉の誘惑に對する理性の戰が深く刻印されてそれが宗教の根本であつたと共に又道德の基礎ともなつてゐた。それら埃及の宗教に次で考へられるのは木乃伊である。埃及人が人間は肉體魂、靈、理の四要素から成立してゐるといふ迷信を有つてゐた所から起つたもので『肉體と共に魂があり魂は更に靈を有し靈の中には更に理がある即ち肉體の腐敗しない間は必ず魂が一緒に居るといふ信念から彼等がその魂を墓から離れしめないために肉體を何時までも腐敗しないやう樣々に苦心した結果として發明されたものであつた。

現世を歎き未來に無上の平安を求めやうとし死を愛し永遠を重んじた彼等は炎熱に燒かれ、砂漠に威壓されて竟には纖細と優美との感受性の乏しい民族となつてゐた。埃及の文化が一面に於て死の文化であつたと共に又文化全體を通じて唯偉大で永遠と崇嚴であつたのも此等の心理的特質が其儘に映し出された結果である。オベリスク、ピラミツト、神殿、岩窟墳墓と建築と稱すべきものは凡て死に關係しそしてそれに關係するもののみに彼等は全力を注いで未來の樂園を想像し其悠久を求めて地上の生活の爲には殆ど顧みる價値ないものだといふ諦めをもつてゐたことを證してゐる。

先づ埃及人の間には死後の永遠の住居である墓が全精力を傾けて堅固に造られてゐた。マスタバ及それより發達したピラミツトと岩窟墳墓とは何づれも『時』の破壞力を無視して現代まで殘存し墳墓の國と仇名されるまでニール河畔を滿してゐる彼等が初めて造り出した神殿建築の特性は要するに彼等が峻烈であり又威嚇的な性質を有し復讐的で畏怖戰慄の念を起さしめる神に對して懷く深い恐怖の感情が表現されたに外ならない。神殿に進み入る爲の大道には時には一哩又はそれ以上に渉つて智識と豐饒との表徵であるスフインクスが兩側に連らなりパイロンの間を通る入口にはオベリスク、コロッシイが配されてゐる。前庭は只上方からのみ光線が流れて道は多柱室に通じ更に至聖所に通じてゐるのであるが前庭を除いての凡ての

室は屋根を低く、薄暗い明りが漸く明屑から差込むやうに造られて何づれも深い眞面目を誘出し恐懼と畏敬と尚恐怖の感じを起さしめるやうに修練されたものである。

顧れば暗黑の世界に初めて人類文化の曙光を放つた埃及文化の遺物は今も尚嘗て榮えし太古を美しく物語つてゐる。赤道の直下に位して炎熱と砂漠の苦難に虐げられ專制政治の下にあつて自我の主張もなく唯未來の冥福のみを祈らねばならなかつた彼等が涅槃の夢を貪る爲に暫く現實の苦痛を忍んで石を積み塔を造つて肉體の腐敗を防ぎ靈魂の不滅に備へた文化の榮光は遠く東に茜して波斯に及び美しく光輝ある希臘文化の建設を映し出したのであつた。

凡そ人は己れ自身を知る事最も少し



亞米利加の都市計畫（四）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
乙Y生譯

過去十年の間市俄古歷史協會は、市が種々なる移住外國人種を同化する事業に援助を必要としてゐるを知つて、漸次に、市民的國民的意識の開拓洲を愛し、國家を愛するの念を涵養する方面に多くの活動を集中するに至つた。此運動は前半世紀間に蒔かれたる種から論理的發達したものである而して過去半世紀間の重なる努力は舊時代のノースウエスト、特に市俄古に關する歷史上の材料の蒐集に重なる努力が向けられてゐた。小なる幻影の人々が彼等自らの富にのみ、その眼を向けてゐる時此運動の基礎をおいた敎養あり、識策ある—研究上の開拓者たる—紳士等に凡ての名譽は歸してある可きである。併し夫等の奮闘は單に協會の基礎を据えた丈けで終らなかつた　その後も協會を發達せしむるには種々の努力がいるので、一八五七年の恐慌、獨立戰爭、一八七一年の大火、一

八七四年の火災、世界大博覽會に引き續いて起つた不景氣等の變化の間を通じて協會が發達せしめられ來つたのは、ひとへに此市俄古の種々なる階級の群の、不斷の又不撓なる努力によるのである。市それ自らの名聲が、かゝる理想をくつがへす榮枯盛衰の間を通じ高まつたと等しく、此協會の理想も又かゝる間に、民衆の心の中に確く植付けられた。

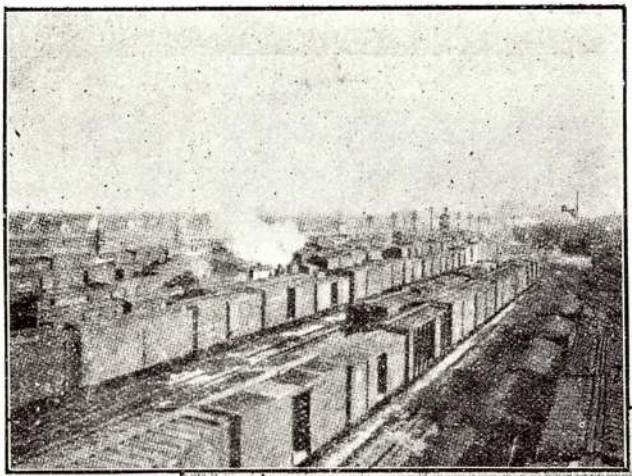
本協會が一八五六年に設立せられて以來、同協會を維持し來つた會員の名簿を作製した時に驚く可き結果が該名簿の上に現れてゐる。即ち三時代にわたつて、市の商業上、藝術上、文學上の發達に著しく力のあつた、凡ての公共的精神のあつた男子婦人の殆ど凡ての姓名がそこに現れてゐる。そこには市の諸街路、諸學校、諸々の建物の名がある。(學校建物等に市の公共的に功勞ありし人々の名を紀念に附するため、市の發達と密接の關係にあつた人々の姓名が名簿上に記さるゝ場合自然よく街路學校等の姓名が記さるゝ)一八五七年に於ける該協會設立の當時の、抑も最初の組合員十九名の中、二名を除いて凡ての者は、一八三七年市の最初の市會議員の選擧の際に投票せられたのである。ウキリアム●バットラー●オグデン(該協會の一人である)最初の一年に市會議員に擧げられた。かく協會と市との間には、密接なる關係があつて、容易に切り去ることの出來ぬものがある

併し近年に至つて右の如き密接なる關係が、彌々強度を加へぬは、大戰の光に照して悲むべきことである。歷史協會は市の曙光時代から一八七一年の大火に至る迄の、市の完全なる鏡であることは眞實であるが、その以後市は急速なる發達を遂げそのため協會は背後におき去りにせられた。併し恐らく此ことは又協會にとりては反つて幸福なることになつてゐる方面もある。市の最近の迅速なる發達は、又そこに市にとりて種々の障害を生んだが、協會はかゝるものに煩はさるゝこともなく前期時代の研究に力を集中し、專門化するの便宜を得てゐる。建物は小さいが、併し八十年來の歷史の各十年間宛が、亞米利加印度人の遺物、市の歷史的前時代の風習、文明的進步を想起せしむる

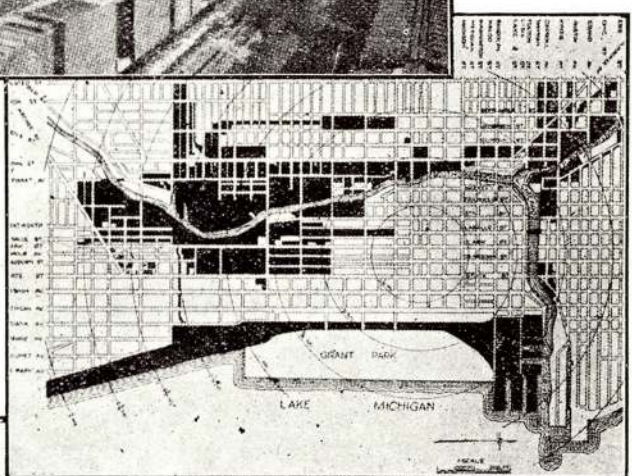
事物、四千個の木製水管、五十個の木製補床、市が印度人の市場たりし時代より今日に至る發達を示す、無數の印刷物と寫眞等の模型物によりて、多少具體化することが出來てゐる。ロンドン、パリー、ベルリン等の外國に於ける大博物館と對照して——右の大博物館は、何れも人間の歷史の一分派に、一の建物をうづめてしまはねばならぬ、廣大な關節ある大博物館であるが——市俄古歷史協會は亞米利加、イリノイス、シカゴの文明の原始時代に關する限り、あらゆる技藝の記錄を保存してゐる。記憶す可きは此地方がヨーリエット、マークウエット兩氏によりて發見せられてより、現在に至る迄、二世紀半を經過してゐるが、土蕃時代の歷史を含入するにより三世紀に延長せられたことである。

ゼスイット關係の書籍、中央西部の歷史に關する印刷せる書物等を除いて、五萬卷を有する協會の圖書館は、ミスシッピ谿谷の開拓者である新フランスの知事等の原稿二千卷を含有してゐる。即ちフランス知事のラ●サーレ●トンチ、及その後繼者等、イリノイス州の大英國知事、革命的英雄ヂオルヂ●ロージャー●クラークと其後繼者たるジョン●トッド、地方知事たるニ●アン●エドワードの新聞、シャドラークよりロウデンに至る迄のイリノス州の政體及政治家の印。その他シカゴ、イリノイス州の初代移住民等の書翰、雜誌等を加ふ可きである。以上のものは歷史上の材料として大なる珍寶であり、又歷史の源泉をさぐる史家によりて不斷に用ひらるところのものである。又恐らくリンコルンに關する凡てのものを蒐集せることの廣大なる點に於て米國中の何の歷史協會も、本協會の右に出るものはない。勿論本協會は、世界各方面のリンコルン愛好家にとりては一のメッカである。

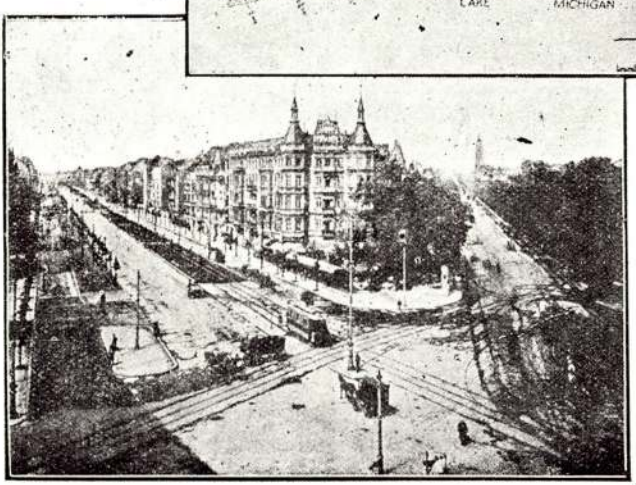
該協會によりて發行せられた、蒐集物の叢書は『エドワード州における英國植民の歷史』ジョルヂ●フロワー著、『イリノイス州の開拓者たるエノック、ロングの傳記的概記』ハーベ●エ●ライド、等『ビ●エドワード●ペイバース』エリイヒユ●ビィ●ワツシユバールン編『初代シカゴとイリノイス』エド



典型的の貨物場、貨車客車場に千七百の轉轍機關用ひらる、四萬輛の貨車を日々用ゆ



市加古市の中心、業務の中心地域たる此部分の一は鐵道によつて占めらるゝを見よ



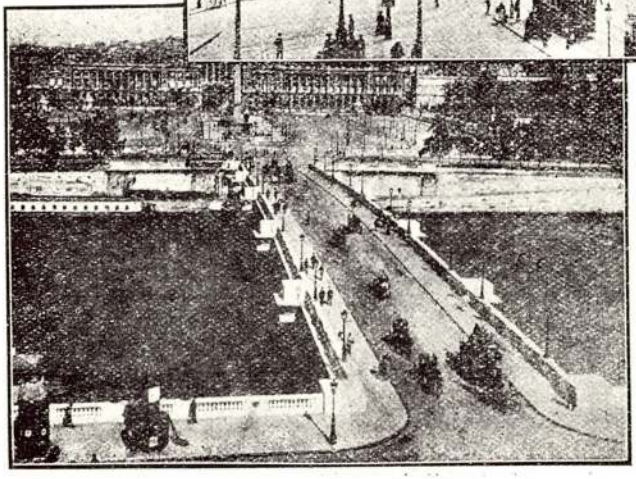
ベルリン郊外シャーロッテンブルグ大都市に於ける文對角街路の最も價値ある例



ロンドン、ナックスフォード圓街頭
該市はかゝる對角街路にみちてゐる



ストックホルム、歐州の諸都市は時間經濟的なる對角街の大なる價値を認識す



巴里市ラ、ユンユルド、此正方角街は市の大軸にある大循環的中心の一であり、而して大遊歩街の周圍である

ワード・ゲイマソン編『イリノイスの移住民』アーサー・クリントンボッグス著、『彼の統轄者たりし間のゼエームス・ケエ・ポーク一八五四―一八四九迄の日記』ミロー・ミルトン・クワイフェ編『イリノイスとミシガン運河』ゼエ・ダブルウ・ブットナム著等である。又米國にて最も有名なる歴史家の或者等によりて、集會の際述べられた、歴史上の問題に關する印刷物を、五十以上發行してゐる又著しい社會上の時事問題と共に、米國の歴史に關する講演、演説が、冬期間に屢々催されてゐる。多くの人々は此年年の接待を、市俄古シーズンの最も重要なる催しの一であると考へてゐる。

舊世界に於て博物館としての此市俄古歴史協會と、相對照するものは、ロンドンにあるギルド・ホール博物館である。ロンドン市の古代を展覽する有名なる宮殿であつて、曾つてセドル、ルーズヴエルトが大統領を退職した時、此舊世界を漫遊したが、その時の見聞談を歸米の後述べた際、こゝに言及してゐたとは、凡ての米人が知つてゐる處である。ロンドンのこれと類似の他の博物館はユナイテッド・サーヴイス博物館である。同所には英帝國の初代からの紀念物が陳列せられてゐるパリーに於てはホテル、デエ、インバリデの歴史博物館、ホテル、デエ・セヴイネのカルナバン博物館がこれに比す可きものである。

唯程度に於いて相違あるのみであるが、市俄古歴史協會は、ウエストミンスター・アッベーが英帝國になして居る職分を、市俄古市のために盡してゐる。即ち市が名譽を表彰すべき等の、政治家英雄市民のために、紀念の場所を提供してゐる。該協會の講堂をその寄贈者の名を附してジョン・クレラー・ホールと呼び、協會の會員たりし市の諸々の恩人等を紀念するために、その人々の油繪、彫像等、多年その關係者によつて寄贈されたものを集めたる處、一の小バルハラを形造くつてゐる。

右の外國の歴史博物館と、日本のそれとの最も著しい相違は、外國の博物館にある歴史上の有形的遺物は、歴史上の光景、史上の著名の人物等の繪畫をもつて成り、その點に於て著しく市俄古の該協會に勝つてゐることである。かくどの宮殿も

どの美術館も之れが同時に歴史博物館になつてゐる。併し米國では米國の愛國者や又歴史上の光景の繪畫を有する點に於て、誇り得る美術館は餘りに尠い。唯市俄古市に於ける、チャールス・エフ・ガンサーの蒐集のみが此點に於て除外例とす可き丈けである。どうしても愛國的藝術のパトロンを米國に於て要するわけである。舊世界の帝國は此點に於て勝つてゐる。

市俄古歴史協會の米國偉人の肖像畫の陳列所には誇るに足る可き無數の繪畫がある。併し歴史的光景の美術的表現の方に於ては甚だ欠けてゐる。協會の建物の壁を、壁畫をもつて充さんとする希望は未だ實現せられてゐない。

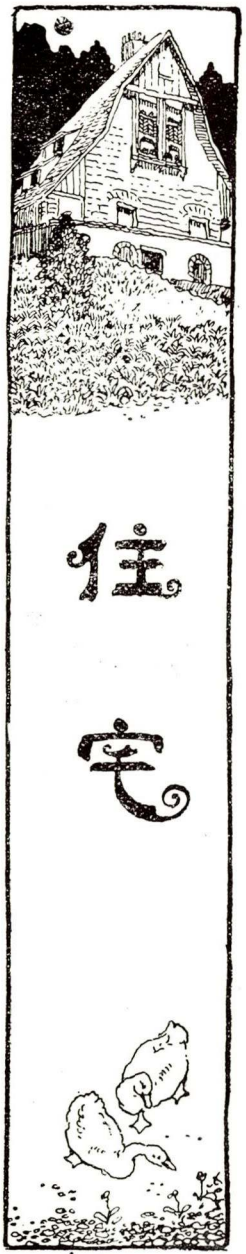
協會の使命の他の一つは、初代市民等の生活に於いて意義のあつた遺蹟、又初代の市の發達に於て意義のあつた遺蹟に、書板や紀念碑をもつて、表號することである。これは唯基金の欠亡のために今は中止せられて居るに過ぬ。

併し彼等の姓名が、市街の名簿の上から消え失せて行くのを阻止すべく方法は是迄も盡してゐる

人はボストンに行くとき、足の向く處あらゆる方面に、歴史を造りたる者、紀念碑、又更に多くの譬に朽ち入つた紀念の書板を發見する。マコウレエの家庭にかゝげた書板の開幕式に臨んで、ローズヴエリー鄉が『私はロンドン市やその他の諸都市を長く散歩するの習慣ある人に尋ぬるを常とする。思想の新なる訓練を暗示し、或顯著なる人物等の經歴を想起せしめ、盡るなき長き街路の單調の耐え難い壓迫を除き去る、書板に遭遇する時それは限りない慰籍でないか』と言つた。

二三の歴史上の遺蹟が、該協會の着手の下に、著名にせられた。その中の著名なるものを擧ぐれば、フォルト・デエーアボンの遺蹟、市俄古虐殺の蹟、ジョン・チンヂエの家庭、ダビット・ケンニソンの墓、ボストン・チイ・バーチーの最後の殘存者市俄古大火の火元、その他多くの遺蹟が紀念されてゐる。（つゞく）

× × ×



住宅と色彩 (四)

會員 工學士 建築士 葛野壯一郎

四、音樂的配色法

音の調和と色の調和との間に於ける關係、即ち樣々な音を組合せて一つの調和ある曲を成す事と種々なる色を配列して一つの調和ある彩色を呈する事との關係は、或は全く同樣の原則の下に行はるるものでは有るまいか、此疑問はかなり古くから裝飾家の先覺者によつて考えられた事で有ります。從來專門家によつて唱導せらるゝ色彩調和の原則といつた種類のものは、有るには有つても凡ての場合に適用するには何うも物足りない、其應用の範圍が甚だ狹くて、兎角實用にはなり兼ぬる種類のものが多いので有ります。何かモツト一般的で確實な方則が得られないもので有らうか、若し色の調和といふ事が音の調和と全然同樣の原則のもとに支配さるる事が確實で有るならば、それから何か最も簡單で便利な普遍的方則が、必ず生れて來なければならぬ筈で有ると多數の人によつて考えられ、希望せられたので有ります。リンミ

ングトン氏のカラーオルガンだのスクライアビン氏のカラーシンホニー等が即ちそれで、何れも完全に一般に活用せらるる域までは達しなかつたが其考え方の基礎即ち音樂と色彩間に於ける一定の原則の所在については、先ず確實なものとして大體認めらるる程度に達して居たので有ります。此見地から一層完全に考案されたのはヘンリーテーロア氏のカラーチャートで、同氏はフラウエンホーフェルのスペクトラムにより、赤色に初まつてヴアイレットレッド即紫赤色に至る中間を

RRO　RO　ORO　O　OYO　YO
YOY　Y　YYG　YG　GYG　G
GBG　BG　BBG　B　BBV　BV
VBV　V　VR　R……

（Rは赤、Oは橙、Yは黄、Gは緑、Bは青、Vは紫を示す）

の如く大少二十二に區分し是れを一音梯即ち八度（オクターブ）に相當するものとして、それの幾つかの連續したるスペクトラムを基礎とするので有ります。色の組合せ方に就ては別に、右の赤色より赤色に至る即ち一音梯に相當する長さの定規を造り、それに音譜と同樣の數學的計算によりて間隔を決定したる八ッの細長き穴を設け、是れを基礎となるスペクトラムの上に置くので有ります。例令ば第一の穴即ち音譜の方でCに當るところを、スペクトラムのR即赤色のところへ置くと次々の穴には各DEFGAB等の音に相當する色が

R、RO、O、YO、Y、YG、G、BG
赤色　赤橙色　黄橙色　黄勝の綠色　綠勝の青色
BV、VR、
青紫色　紫赤色

と云つた風に現れるので、是れを以て音樂の八度に相當する色譜の基調とするので有ります。

此方法によつて赤色を基礎とし其調和色で有る黄橙色綠勝の青色の三ッに就て、各七ッの色譜を決定し、是れを音樂的に綜合すると左の色群が得られるので有ります。

1
赤色(R)
黄橙色(YO)
綠勝青色(GBG)

2
赤橙色(RO)
黄味勝綠色(YYG)
青紫色(BV)



即ち赤色を基調とするもの、黄橙色を基調とするもの綠色の勝つた青色を基調とするもの以上の三つより(1)(3)(5)即ちIに屬する三色群及び(2)(4)(6)即ちIIに屬する三色群幷に其中間の(7)に對するものと都合七つの色群が出て來るので、是等は赤色を基調として互に調和すると云ふのであります。

次に赤橙色を基調とする時は

1
赤橙色(RO)

2
黄橙色(YO)
綠勝黄色(GYG)
青紫色(BV)

3
綠勝黄色(GYG)
青紫色(BV)
赤味勝橙色(RRO)

4
綠勝青色(GBG)
紫赤色(VR)
赤橙色(RO)

5
青紫色(BV)
赤味勝橙色(RRO)
黄橙色(YO)

6
紫赤色(VR)
赤橙色(RO)
綠勝黄色(GYG)

7
赤橙色(RO)
黄綠色(YR)
青　色(B)

となるので是を實際に應用すると(1)の色群をホールに、(3)を居室に、(7)を書齋に、(5)を食堂と云つた具合になるので、即ち實際問題としては

壁　赤橙色
木　部　青紫色(古色オーク色附)
(ホール)窓　掛　綠色の勝つた黄色

家　具　木部に同じ
椅子張　青紫色
敷　物　鳶色掛つた橙色又はクスンダ赤橙色

（居間）
壁　緑色の勝つた黄色
木　部　赤橙色及び緑色の勝つた黄色、（古色オーク）
窓　掛　青紫色又は赤色、赤橙色、黄緑色
家　具　木部に同じ
椅子張　窓掛に同じ
敷　物　青紫色

（書斎）
壁　青緑色
木　部　黄橙色（古色オーク）
窓　掛　黄橙色
家　具　木部に同じ
椅子張　赤味勝の橙色
敷　物　赤橙色又は黄橙色の縁取りした青緑色

壁　黄橙色
木　部　古色オークの色附

窓　掛　赤味勝の橙色又は青紫色

（食堂）
家　具　木部に同じ
椅子張　青紫色
敷　物　クスンダ赤味勝の橙色

元より是れはホンの一例に過ぎないので、其應用の範圍に至つては頗る廣いので有ります。兎に角色彩を音樂的に取扱ふといふ方法は、最新らしく又甚だ興味の深いやり方で、充分研究の價値あるものと信ぜられるので有ります。（未完）





大阪のビルディング

華城閑人

○横へ、横へと、無闇に肥満し来つた大大阪市は廣袤方幾哩といふ都市計畫によつて、其巨大な圖う體の容れ物を造り直さない限りは、今の處殆むど、此の上、足の伸ばし場所もない程な行き詰りである。土一升に金一升とは、都市の榮へを稱ふる昔ながらの云草だが、眞實くの處、尚ほも旺盛な膨脹力の伸し場所を探し求めむには、金一升と土一升の量り易へをしたとても、最早　升う易々と手の入らない程行き詰つているのが、我『大阪』の現狀だ。

○仍で、滿員電車の壽司詰めに、頭の上はがら空きだ、といふ駄じやれではないが、此の上、大阪に人を詰め込まむには、頭の上へ上へと、詰め込むより仕方があるまい。茲に、建築家達の、『アパートメント』說や、『ビルディング』論が出て來るのだ。

○大阪市內に住宅の一つも建てよう、オフイスの一つも設けよう、とするときは、わが大阪中をはがな一日歩き廻はした處で、空地が欠伸をして待つているような處は、思惑屋の板圍ひ位なものだ

らう。何んとしても、一つ建る爲には、一つを壞さねばならぬのが、我大阪の現狀だ。建てる爲に壞す事は、結局、土一升と金二升の換へ事、眼の飛び出そうな直段にお構ひありては、却々以て恰好な場所御座無く候、の外はない。

○まあ、試みに、大阪市の地價から、ちよっと覗めつてみるがいゝ、恐らく眼の玉の拔け出そうな苦がさである。大毎子は、曾て、大阪市內の地價調べを掲げて、十年前、中之島の坪七十圓位な處が、現在では、其十七倍の一千二百圓が通り相場だ、と云つてゐる。そして、北大阪の場末に近い本庄邊一帶の地が、僅に三年餘りで、地價が二十一倍にも騰つたのは、暴騰率のレコードであると同時に、奈何にも、市中の相當な場所では、『土地饑饉』であるかを、推想され得る。

○吾人は、大毎子の調査を此處に失敬して、市內目貫な場所に於ける地價の騰貴率を彈き出してみれば、約十年間にざつと斯ういふ狀になつてゐる即ち、梅田驛前から大江橋まで、阪神舊蜆川間がざつと、八倍餘り、蜆川及渡邊橋間が、約七倍餘り、肥後橋江戶橋間、江戶橋伏見橋間が八倍許。伏見橋靱橋間、約十倍。立賣堀川西長堀橋約八倍。南區日本橋五丁目の惠美須交叉點附近十二倍餘。

○尙ほ、も一つ附け加へて置き度い。順慶町二、安堂寺橋通二、空堀町通二、末吉橋通二、長堀橋通一、二丁目、日本橋通一乃至三丁目即ち南の目貫の場所で、坪最高二百四圓最低百二十一圓のものが、最低で百圓がら、最高九百圓迄に騰貴して居る。若しそれ、眞に土一升に金一升な本場の一つである處の北濱界隈になると、例へば、今橋、高麗橋、伏見町、道修町、平野町、淡路町、瓦町、備後町、安土町、本町、南本町、唐物町、北久太郎町、南久太郎町、北久寶寺町、南久寶寺町、博勞町の各二丁目邊は、坪最低百八十九圓最高二百四十二圓のものが、十二三年間に、最低八百圓、最高千五百圓、平均五倍乃至七倍の騰貴を示してゐる。

○其他、斯ういふ材料は澤山あるが、何も地價調べを書くのでないから、此の位で擱かう。彼樣に

金と土の升り換への騒ぎでない處な騰り方だが、扨てそれならば、今擧げた直段で升り換へなら何時でも手に入るか、といふに、實は、何處も彼處も寒りの、尚ほ大な無駄地すらないのだ。徐程金目を見せをまけに因果を含めて掛らない限り、オイ夫れと手に入らない。手に入つた處で、矢張り一つ建てるに、一戸乃至數戸を壞して掛らねばならぬのだから、昔は土一升と金一升の取り換へが今は、何んの事はない家と金の升り換へでなくちやあ、家が建たない、といふ面白い現象だ。

○更に、大阪市に於ける家屋の現狀に觀れば、全體で貳拾四萬千參百拾五戸を有し、斯の中で、住家としては貳拾參萬五千四拾八戸を有して居る、そして、其控除された建物壹萬六千貳百六拾七戸は、住宅以外の各種な建物である。之等建物の占むる坪數と、我大阪全市の建物敷地及び可能的敷地の關係に觀れば、驚て、前記の現象を一層有力に說明し得ることになるが、遺憾ながら、吾人は今其材料を有してゐない。

○けれども、住宅だけの關係に觀ても、以上の大勢を略ぼ辯証し得られることと想ふ。即ち、我全市に於ける住宅の總坪數は、今より三年前の調べに於て、六百五拾五萬貳千六百四拾四坪、之を一戸當平均にすると、貳拾九坪壹合貳勺といふ頗る狹いものとなつてゐる。之を一千坪にすると、參拾四戸三四を包容してゐる割合になる。蓋し、斯る事實と、現在既に敷地難を唱へてゐる關係から觀れば、我大阪市内の、平面的に行詰りであるといふ事を想察するに剩りありだ。

○されば、益々膨脹しつゝある我大阪市に、消極的には人口と建築物の密度を緩和し、積極的には都市計畫の如き地域の擴張を別にして、建築物と人口の膨脹力に順應せむ爲には、差當り茲に、二つの方法を考へ得られる。即ち、一言に竭さば、從來平面的にのみ擴がり來つた人口と建物を、立體的に集約する事である。そして、斯の集約は、主として、『アパートメント』と『ヒルディング』の二形態によつて行はれると想ふ。

○近時、殊に我大阪市内に、ヒルディングの頻りに建設される事は、自然に、斯る機運の然らしむ

る處である、と想像される。勿論、採算の上より云つても、近來相當有利な投資事業であるのと、文化的自然の趨勢に誘致されて來つたとの事由もあらう。けれども、之等は必ずしも直接な原因でなく、主として、ビジネスの一層文化的となつた事と、前記大阪市の現狀とが、斯る機運を促進したものと想へる。そして、斯る傾向は、軈て好適な投資事業たらしめた結果となつたのであらう。

○扨は兎も角として、私は、アパートメントの事は他日に讓るとして、以下、姑く、我大阪市に於けるビルディングの現狀に就き、姑く、願瞥を拂つてみたい。

○最近の調査に據れば、既に、ビルディングとして營業をなしてゐるものは、合計貳拾九戸にして其室數實に六百貳拾九室を有してゐる。之を、持主と經營の種別に觀れば、專用即ちビルディングとして建設されたもの拾戸、主もに從來の建物を改造して、貸事務室に兼用せるもの拾八戸、組合員が或一室へ時々出張して使用する特殊なもの壹戸である。

○そして、所有主別には銀行業者五、會社拾壹、組合壹、倉庫業者壹、個人拾壹、といふ關係になつてゐる。斯の內、前記專用のもの、即ち、ビルディングとして設立されたもの、持主としては、僅に個人の一二を除く外、悉く會社組織としてゐるもの、と觀て可い。

○次に、ビルディングとして最も重要關係あるものは部屋の面積であるが、其合計を觀れば、五千八百三十一坪二一といふことになつて居り、之を室數の平均とすると、一室九坪二七餘となる。そして、之等一室の最小坪數は僅々貳坪にして、其最大坪數は、五拾九坪六三六、といふ大きなものもある。概してビルディングの性能たる小室が多い。

○次に、其階數奈何々觀れば、最高九階（地下室共）、最低二階に止つたものもある。之を箇別に觀ると九階一、八階一、六階三、五階三、四階四三階十一、二階六、（以上地下室を併せて）斯ういふ狀態である。

然らば、其高さは、と云へば、最高六十九尺の

もの六、最低二十二尺のもの一にして、之を各箇に分くれば、百二十三尺が五、八十尺が一、六十九尺が六、四十四尺が五、三十三尺が三、三十尺が一、二十二尺が一。但し、斷つて置くが、斯の高さから觀た戸數と、前記ビルディングの總戸數と突き合はないのは、調査中、高さのそれが漏れたのに原因するのであるから、讀者は、先づ、其大數を知ればよいとして貰はねばならぬ。

■仍で、今度は、坪數の關係を觀よう。部屋の坪數は前に述べたが、敷地の總坪數は、六千六百九坪八五、といふ事になつてゐる。其内、建坪は、四千三百三十坪二九であるから、全敷地の六十六五弱は、建坪に収つてゐる。云ひ換へたならば、約三十四%しか空地?を剩さない、即ち、奈何にも採算氣分が彷彿としてゐるのが面白い。そして建物の地坪を建坪にすると、一萬二千三百五十六坪六三、即ち、平均一ビルディングには、四百二十六坪〇九といふ割合になる。

■次に、それ等の工費に就いてみると、中には或事情で調査の出來なかつたもの四件程あつたが、其他に於ては、總計四百四拾參萬參千拾九圓といふ事になつてゐる。そして、工費不明だといふのは、西區に在るヒルディング十戸の内三戸と、同じく南區に在る二戸の内一戸だけで、東區の八戸と北區の九戸は、明確に判つてゐるから、此の分を、何かの參考にもと其工費を少々研究して見よう。

■東區の八戸は、貳百拾六萬八千五百六圓で、北區の九戸は、百參拾四萬參千參百六拾參圓、之を坪當にすると、前者は、地坪に於て、坪千五百七拾圓五拾錢、建坪四百七拾參圓七拾貳錢、後者は地坪千參拾五圓七拾錢、建坪參百貳拾七圓五拾五錢となる（端數と多少の相違あり）。

■仍で、建坪と地坪の比例を取れば對建坪約三倍弱の延坪となる。そして、工費の明確に判つてゐる前記の東區と北區の十七戸に就いて見れば、建坪二千六百七十八坪にして、延坪八千六百七十九坪、即ち、約三倍となつてゐる。

■次に、使用料即ち家賃に就いては、全部二十九戸六百二十九室に對し、一ケ月四萬九千八百七十

五圓七十貳錢で、之を平均すると、一室七拾九圓貳拾九錢、坪八圓五拾五錢といふ、非常に廉いものになつてゐる。

併し、之を箇別に見ると、一室五百五拾圓といふのもあれば、一室僅に拾貳圓といふのもある。而も、坪當にして、參拾參圓參拾參錢といふ樣な不廉なのもあり、又僅に貳圓拾六錢といふような安値なのもある。坪參拾餘圓といふのは、『北濱ビルディンク』の如きがそれで、北濱二丁目通一帶の地價が、坪貳千六百圓といふ素晴らしい値段からすれば、蓋し當然な事であらう。

今度は、ビルディングの文化的施設等に就いて少々誌してみたい。但し、文化的施設といつた處で、ビルディングとしては、エレベーターと公衆食堂が差當つての問題である。其他の事に就いては、通信機關や、倶樂部、電燈、瓦斯、水道、煖房、賣店、銀行、理髪店、などだが、先づ、エレベーターと食堂に就いて誌してみよう。

全市二十九戸のビルディング中、三階以上最高九階までのもの二十三戸にして、二階までに止つてゐるものは、僅に六戸しかない。そして、エレベーターは、全體で十三箇、内二箇は運搬用である。

是によつてみるも、昇降用のもの十一箇で、三階以上のもの二十三戸に平均すれば、ざツと、ビルディング二戸に就いて、エレベーター一箇の割合になる。即ち、平均から見れば、七階八階六階といふようなものでも、百以上の室を有してゐるものでも只一箇のエレベーターしか使はずして而も、二戸に一箇の割合いとは、奈何にも我文化的施設の、まだ〳〵貧弱なるを懐はしむる。

云ひ換ゆれば、『時間』といふ事に、一二分間をすら吝む低な痛切さを感する程に我文化の進むでゐない事を考へさせられる。紐育抔のビルディングの奈何に幾十層な摩天閣とは云へ、僅に三分五分を爭ふて、エレベーターの『急行』があるのを懐へば、日本のビルディングたる者、も少し文化的な考へを發揮して貰ひ度い——いや是は日本人のあたまの問題である。

公衆食堂に就いては、ビルディング二十九戸中

十戸の、それを有つてゐる。勿論一戸一箇所であらうが、それにすると、平均參戸に一食堂、といふ振り合いになつてゐる。其内容に就いては、今此處に誌すの材料を有つてゐない。

■終りに、ビルディングの所在に就いて、近來ビルディング建築の大勢と、其場所の關係を識るの參考としよう。仍で一等多いのは、西區の、專用參戸兼用七戸で、北區の九戸即ち專用五戸、兼用四戸に次ぎ、東區の專用一戸、兼用六戸、特殊一戸、計八戸、南區の專用、兼用各一戸が其最少なのである。

■其中、全市のビルディング中最高層だといふのが九階、次が八階で、孰も、東區にあるのは、其處に、何ものをか抽き出し得る資料ともならう。そして在西區の十戸と、南區の二戸は、孰も地下室を構築しないでゐるのを見れば、是れも面白い何ものかを發見し得られはしまいかと想ふ。

■亦も敷地の坪數に戻つて、以上の延坪一萬二千三百五十六坪六三を、前記、大阪市内の住宅一戸平均坪數二十九坪一二に比例すると、四百二十四戸の住宅可能性が滅る事になる。

■そして、之を平均一戸に付一世帶二三と、一世帶に付五人五九といふ收容人口の最近に於ける現象に比例すると、件の四百二十四戸といふ住宅可能性は、實に、五百二十二世帶と、二千三百七十人だけが減退する勘定となる。

■大阪市に於ける大正十年十二月末の最近な調査に於ては、現在人口、西區四十萬二千三百五十八南區四十三萬二千五百八十三、東區二十萬五千八十、北區三十萬六千四百五十、合計百三十四萬六千四百七十一人で、之を大正九年十月一日の國勢調査人口數から見れば、ざツと十万人といふ人口の膨脹となつてゐる。

■即ち、一ケ年と三ケ月間に、現住者が十萬人殖へたのであり、而も、不況時代にそれであるから斯の率を以て行くと、一ケ年約八萬人は、縱むば斯の比例の通りには行かないにしろ、兎にも角にもずん〳〵と殖へて行く大勢に在る事は爭へない事實だ。

■そして、他面には、大阪市内に於ける各種の事

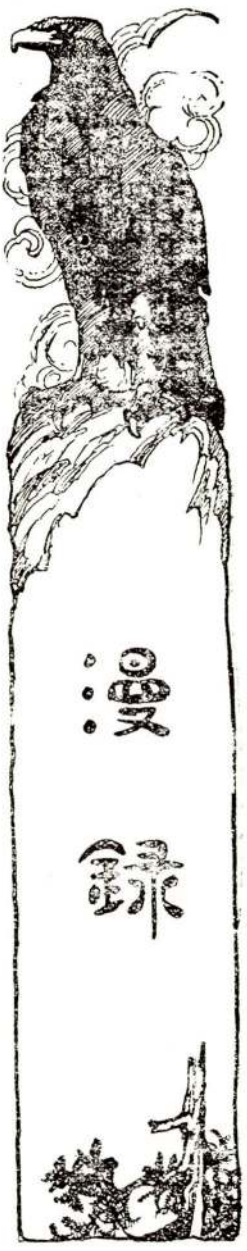
務所が集約的となりて、アパートメントが一つも出來ない代りには、ビルディングが上記の樣な地積を占めて、續々建設される現在の傾向からせば市内に於ける住宅難を叫ぶのは亦一段な事となるであらう。

■併し現代の都市は、最早住居地境ではなくして事務地域となる事、都市其ものゝ發達と渝り來つた性能である。眞に生活を享樂するといふ事は、現代都市が餘りに膨脹と組織化するによつて、最早他に地境を求めなくてはならぬ、都市は、唯事務的生活にのみ與へらるゝ場所である事が、近代よりの增々著しくなり來つた傾向である。幷は兎も角として、私は斯の編を結ぶに方り以上叙記し來れる事を表にして、讀者の參考に供しよう。

所在地	種別	所有主	階數	高さ	數坪	建坪	延坪	エレベーター	工費	公衆食堂あるもの
西一〇	專三	銀行一	五階	六九、六尺	二、三六九、八坪	一、三一〇、一六坪	二、七二、〇三坪	二	八二、一五〇円	二
西一〇	兼七	個人六 會社二 組合一	地下共四階 三階二 二階一	三一尺					不詳 三	
南二	專一	銀行一	三階	四四、五三三、〇尺	六〇七、九一坪	三四二、三三坪	八九五、七坪	—	七〇、〇〇〇円	一
南二	兼一	會社一	二階						不詳 一	
東八	專一	銀行二	地下共九階一 八階一 六階一 五階一 四階二 三階一 二階一	二三三、五尺 三〇尺	一、七九九、九四坪	一、三八〇、七七坪	四、五七七、五八坪	七二、一六八、五〇六円		三
東八	兼六	個人一	同							
東八	特一	會社五	同					(内運搬用二)		

北九	専五 兼四	銀行一 個人四 會社三 倉庫一	地下共六階二 同　五階一 地下共三階一	八〇、〇尺 三三、二尺	一、八三三、一二一、二九七、二一坪	四、一〇一、三三坪	一、三四三、三六三円
計二九	専一〇 兼一八 特一	銀行五 個人二 會社二 組合一 倉庫一	地下共九階一 同　八階一 同　六階三 地下共五階二 同　四階四 地下室共三階一〇 二階六	二三、五尺 三〇、〇尺	六、六〇九、八五四、三三〇、二九坪	二一、三五六、六三坪	四、四〇三、〇一九円 不詳四
						（内運二一）三	
							四

	室數	室合計坪數	合計貸料	一室最大最小	一室貸料最高最低	同一坪當り最高最低	一室平均坪數	一室平均貸料	一坪平均貸料
西	一六一	一、三三三、五四六坪							
南	五〇	五三九、〇九坪							
東	一九六	一、八六八、一〇六坪							
北	二三	二、一〇〇、四六八坪							
計	六二九	五、八三一、二一坪	四九、八七五、七二円	五九坪 六三六 二坪	五五〇円 三	三三円三三 二、一六	九、坪 二七	七九、二九円	八、五五円



病院建築に關する雜感（上）

S T 生

病院の內幕をさらけ出して惡口を云つて見るやうな考から書き始めたとでない。入院して徒然の結果、自然建築のあらが眼に付き若し自分が建てる時はこうしたらどうであらうかと云ふ樣な氣が付いた點を書き留めたに過ぎない。尤も之れ以上の設備をした病院もあらうが、自分の入院した病院では、之れ丈けは不便であつた。建物以外の事は感想で決して名案と云ふ程の事柄でないが書き添へて見た。公私の病院中完全なものは甚だ少ない。否寧ろあれでよく患者を入れて、之れは病院で御座ると云つて居られたもので、酷いのになると料理屋の跡や、下宿屋を少し修繕して使用して居る。尤も之れ等は恰度間取の一部がよく類似して居るから、新築するより安上りで、手輕に開業が出來るからでもあらうが、隣室は襖、時には紙張障子で仕切られ、壘は勿論取いてある。之れが又馬鹿に汚れてゐる。衛生を云々することなど思ひもよらぬ事である。

階段、玄關、受付、便所の位置大低甚だうまくない。藥局はろくに日も當らず、更に病院らしい

氣がしない。病室が患者の神經に如何なる影響を與ふるかは、重大な問題であらう。不潔極まる不衛生な、且つ一朝火災を起したらどうするか、木造建築では一とたまりなく燒け出され、患者は思はぬ危險に出遇ふであらう。之れ等に對するほんの形式丈けの設備では默目だ。安心して寢て居られる病室は曉の星の數程であらう。何々病院、何會病院と名稱は立派だが、建物のみすぼらしいのは實に情ない。醫者の手腕は兎もあれ、米國の病院は實に立派で完全な、建物に金のかゝつた美事な設備がしてある。或る人は無暗に人を驚かす丈けと云ふが、驚かされる丈けでも惡くない。死んだ先の燒場の心配をする人は、生きてる內病院に少しは意を用ゐて捨てる金があれば、御醫者機に使つて貰つたらよからう。病院の經營は相當の難事で、經營者は一と通りの骨折りではないとは當然であらうが、同じ費用なれば出來得る丈け、誇るに足る病室を造ることを考へて、よく研究して貰ひたい。自分が入院した經驗から前の樣な心持で述べて見れば、

一、男女の便所は必ず嚴重に區別をして貰ひたい特に患者と他の人とは是非分ける必用がある。さうして極めて衛生的の設備を要することは勿論である

二、室の堺は絕對に音響を避る物體で仕切ることが必要で且つ自分の室を暗くした爲めに隣室の燈火が射し込む樣な腰羽目の張り方は不手際である。

三、室內の掃除が出來ないやうな設計がしてある塵を掃き棄てるに邪魔な入口の靴摺が高くなつて居る。若し之れを取るか或は他に掃き出し口を付けて少さな塵ゝで綺麗に出したい。

四、天井に空氣抜がなかつた。其替り屋根には飾りの空氣抜があつた。甚だ無意味である。

五、廊下のがた〳〵音を立てるには閉口した。板の張り方が惡い音のするのは敷物か又は相當の方法で直すことにしたい。世間が靜かになる夜中などは迚も眠むることが出來ない。切角寢付く頃にょく眼が覺める。

六、廊下巾の關係で切角擔架で來た人を其儘入れ

ることが出來ず、一度其處へ下して抱いて運ぶとのない樣に研究して、双方の入口の位置を定めることが肝要なことである。

七、階段は昇降に音響を立てないやうにして置きたい。夜間靜まつてからは人の足音も神經に響く患者もある。

八、燈火の設備を完全にすること、不用のものは消すやうにスイツチの切り替をする。出來るなれば室の中央に一個、寢臺の上に少さなもの一個、それを一つスヰツチで。滅の出來る設備をすれば便利で經濟である。

九、共同の洗面所は甚だ工合の悪いものであるから、出來るとなれば自分の室の一隅で用を辨ずるようにしたい。

十、汚物棄て場所は餘り目立たぬ所にして、其處から直ちに他の溜の部分に導く樣土管又は水で流し出す裝置をして、不潔物を停滯させぬやう工風することが必要である。

十一、各階火鉢を用ひて居るもは甚だ不衛生である、之れは嚴禁すべきもの、若し不得止れば一個所に集めて其處で使用のこと、之れは火災を起したり瓦斯を發生したり室の温度を變化させたり空氣を乾燥さたりして害あつて利益がない。

十二、温水又は蒸氣暖房あらば差し支へないが、若し石炭ストーヴか瓦斯を使用するならば、室内の換氣法に注意する事は勿論で、電氣ストーヴの樣なひらけたものがあつても、全部に使用する迄には未だ相當の時と經費とを要する問題であるから、是非共暖房設備を希望する。

十三、室内に塵芥の附着せぬやう切角隅々を丸め巾木又は額緣の突出を少なくしてあつても掃除が不行届であつては其甲斐がない。電氣掃除器等は思ひ切つて病院で使用したいものである。

十四、病院では飲料水を相當の代價で賣つてもらひ度いつ之れは云ふ迄もなく米國のやうに極めて、純良な實際の水のことである。水道のある處は未だよいとして、地方に行くと危險な水を井戸から汲上げて煮沸して飲んで呉れい位が手の届いた處で、不親切な處は平氣で怪しい水を飲ましして居る。水が飲みたいと患者が云ふ時に湯

のさました位のものでは、どうしても我慢が出來ぬ。染み〳〵と水の美味が慕はるゝ。

十五、病院としては相當の庭園、例令ば箱庭より出來ない處でも患者の眼を樂しませる草花、餘地あれば、運動場が必要である。壁と睨み合ひするのも短時日なればよいが、永くは無聊を感ずる。殊更ら珍石奇木を集め、金のかゝつた林泉を造れと云ふではない。唯患者の心持を和らげさせればそれで充分である。

十六、患者の面會も可なり、手數のかゝるものであるが、カードを造つて外出する時は之れに記入して受附の一定の場所に置いておくやうにすると便利である。應接室は是非共必要で、出來れば幾つかの病室で專有する事になれば自然都合がよくなる。

十七、娯樂室は有つて却つて邪魔になる。時としてはオルガン又は他の樂器が備へ付けられて居るが、之れは趣味のある人丈けに嬉ばれて、他の人には切角眠りに就かうとして居る時には、例令音樂とは云へぶう〳〵は餘り有難くない。病室は一體に靜肅にしたいから、讀書室又は談話室位にした方がよからう。

十八、食堂の必要はいふ迄もない。尤も居起の不自由な人は別として、歩行の出來る患者は一室に會合して雜談をしながら、食卓に就くのも愉快であらう。尤もそれを好まぬ人は自室で飮食するも勝手であるが、狹い部屋は自然不潔になり勝であるから、飮食は一定の場所、即ち食堂を使用したい。病人に依ると存外愉快に食事をする樣になる事は確である。又給仕、配膳人が運搬に手數を省く事になる。さうして出來る事なれば船の食卓の樣に病院の方から醫員又は事務の人々が出て、一所に衛生上の話をする。患者の方は其人々に依つて各專門の面白い話があるから倦む樣な事はない。之は一擧兩得と云ふ事になるであらう。

食事は獻立表に依る一定の賄付きのもの、別に注文等種々の方法を採用する事が出來よう。病室の自炊は他人に不愉快を感ぜしむるから、一定の場所の外煮炊きは是非やめて貰ひたいもの

である。

十九、娯樂室を造らぬ代りに、日を定めて音樂會其他の會合を催すも惡くはなからう。又已に實行されてゐるが、入院患者は御互に病者を慰問すると云ふ目的で、時々娯樂的の行爲、例令ば安い草花を買つて分配するとか、相當出し合せの金で食堂の裝飾をする、病室に額をかけるとか、迷惑にならぬ無駄な費用を節して、何か情の籠つた事をするやうに、又退院後に殘つて他人の喜ぶ事をしたいものである。

廿、病室の階段は樂に又危險なく、昇降の出來るものでなくてはならぬ。段の高さを低くし踏む巾を長くする。病院を廻つて見ると可なり無頓着なものがある。危險い處かゝんで階段といふものになつて居らぬのが多い。

廿一、廊下、病室の前を通行する不體裁此の上もない病院がある。之れ等は大低料理屋や、下宿屋の流用である。後部片廊下なれば申し分ないが、之れでは病室が一側より造る事が出來ぬので、不經濟と云ふ點から、中廊下兩側に病室を取るのが普通である。之れは南北の建物なれば室が極端に陽氣と陰氣な室が出來るが、それは止むを得ないとして、病室の前面に二室位宛を左右壁で仕切つた廊下の巾を、少し廣くしてベランダを附けると、非常に趣を增して來る。若し東南なれば申分はないが、假りに其室が西北でも、夏の暑い光線は此ベランダの爲めに室內に直射せず、弱められて入る事になる。北なれば寒氣を二重に締め切る事になるから利益で、且つ東南なれば、草花を育てる事も出來る。勿論少しの運動も出來狹いながらも其處に專有とでも云ふ可き氣晴しの處を得られて、患者は幸福な事であらう。（つゞく）

ゆく春や撰者
を恨む歌の主

東京『門』行脚（二）

——番外 平和博覽會の門——

梅谷孫吾

◆何人が平和的な印象を感得する事が出來るか

博覽會などゝいふものは昔から詰らぬものと定つて居るが、其詰らぬ中にあつて更に一層詰らなく、馬鹿氣切つてゐるのは今度の所謂世界的だと酌を打つた平和博覽會で、而も又其中にあつて更に更に一層詰まらなく無考なのは正門は勿論各所に造つた『門』であらふ。

當局者に云はせると柱一本窓一つにも平和的な氣分が現はれるやうに充分工夫し注意し諸外國に誇り得る博覽會だそうだが、斯うなつては臭さい者身知らずにも程がある。兎に角如何に贔負目に見たからと云つて、上野の山をだら〳〵上りに上つて行つてふとあの正面の第一門を仰ぎ見た時、其處に何人が平和的第一印象を及ける事が出來るか。

「一寸逢つて一目見た時の感じ」といふ者はお互に永く交際してゐても仲々忘られぬ事であり且つ其人と人との間の親密性の道程に或る一種の力を持つてゐるものである、初對面に於て既に百年の知己の如く互に打解けて語り相信じ合ふといふやうな事は往々吾々は日常生活に於て體驗し殊に新聞記者として朝夕あらゆる階級の人々としかも多くの初對面をする經驗から其『一目見た感じ』の威大なる力のある事を知つてゐる。從つて又この一目見た感じの上から平和博の『門』の印象を述べる事が私自身が建築に關するほんの素人であるだけに專門家諸氏には幾分の御參考にならふと思ふ。

◆『城門』が處を眞達へて平和の宮殿へ建つた

博覽會の正門は元の上野公園の大通り、即ち公園を突切つて寛永寺の前から谷中方面へ出る通り丁度帝室博物館の前の處へ出來てゐる、此外に竹の臺(西鄕銅像側)に一つと谷中口に一つと外に一つ二つの門はあるが正門と竹の臺口の門の外は單に出口に使用されて入場者は正面と竹の臺口との二つに定つてゐるやうなものである。從つて此二つの門の印象は博覽會全體に對する印象の上に於て重大な使命を持つてゐると云はねばなるまい。

正門は正に『堂々たるもの』である、しかも其堂々味たるや頗る冷やかに無趣味に一見挑戰的な味がある、私は一種の忌やな壓迫を感じると同時に『戰線に立つた歩哨』を見るといふやうな感じがした、實際平和的な感得などは藥にしたくもなかつたのである。不幸にしてあの門は建つべき處を眞達へてゐるのだ、『武具展覽會』といふやうな處或は『俘虜收容所』と云ふやうな處或は第何師團司令部といふやうな處へ行けば其挑戰的な事に於て防備的な堂々味に於て申分ない成功を保ち得るのであつたらう。

此門に對する一番適切な言葉は『城門』である、しかも文明的な城門ではなく萬里長城時代若しくは活動寫眞などによく出て來る極く野蠻な南國の內地深い處邊りの舊家の門である、酋長が割據して日々爭鬪を事としてゐる部落などでなくては見れぬ門であらう。要するに形狀に於ても、馬鹿氣て高くして大きい事に於ても、其意匠の拙劣に於ても其色彩に於ても『城門』以外には認められない門である。城門と平和博覽會の門——此二つの言葉が比較されるだけでもお可笑しいでは無いか。城門が處を眞達へて平和の宮殿の正面へ建てられたとしたならば隱分思ひ切つて馬鹿氣てゐるものではあるまいか。

◆天を摩するの感じある『城門』に飜る旗四流

平和博の門として城門が建つてゐる、事やすでに平和博の失敗を物語つてはゐまいか、快く談笑し一日の歡を得やうとして友を訪問した時、其處

に對手が一種の警戒を得ち一種の武裝を持つて、（形に於てゝなくも心に於てゝも）ゐたならばわれわれは非常な失望と共に終生拭ふべからざる嫌忌すべき印象を殘さずんば置くまい。丁度平和博がこれを目の前にやつてゐるのである。當局の失敗か設計家の失敗か、それは兎も角として何れにせよ『建物から受けるわれわれの感じ』を極端に無視したか或は錯誤の美觀に陷入つてゐられたか、瀟洒たる日本建の家屋の正門へ監獄のを移して來て建てた事よりも尙一層愚劣な門である事は事實である。

はるばる東京の、しかも櫻の咲いてゐる上野へ平和博覽會を見物に來て、正門に於て、まだ入場もせぬ先きから一種の挑戰的氣分、武裝的氣分に襲はれる事は何人も多少とも豫期し得べからざる事であるだけに然樣に忌やな印象が強く頭へ殘されるのは當然だ。

先づ門へ向つて左右には入場券賣場の小さな低い殆んど屋根の傾斜の無い建物が六つ宛立つて其上へ高く立つた四本の柱には紅白の飾提灯が十二宛ぶら下つてゐる。此提灯だけは紅と白といふ色からの感じと提灯の丸味から來る感じとで流石に平和的な氣分（多少低級ではあるが）は出てゐるが之があるだけに一層城門の不平和的な醜さが目立つのである。

城門は見上げるやうに高い、通常博覽會といふやうなものに建てられる門の三倍位の高さはある實に天を擎するの感があるのである、しかも其高さを越へて立つた無線電信の高柱のやうな柱の上に日の丸の旗が四流飜々として春風に飜る、門が城門であるだけに恰も戰後の空氣を語るやうで一種の物凄さを押つけられるのである。

◆ 天から地上へ五本の大きな牙が突立つた印象

斯うした『門』の建方は何といふのか知らない。高くして巾廣い非常に大きな漆喰の板に下部から五箇所三角形に切込んで行つて詰り赤穗義士の着た火事裝束の袖印のやうにして其切込みから入場者が出入するのだ。餘りに不思議な門であるだけに一寸位書いたのでは實際を見られない方には想像も附かれまいが、人間の十幾倍といふ高さ、また幾十倍といふ横への廣さ、それを上から見れば太い大きな灰色の牙を六本地上へ突立てゝゐるやうでもあり、下から見ればとげ〳〵した空間の三角形が天に向つて五箇置かれてゐるやうでもある

のである、其牙と牙との間から入つて行き出て來るのだ。

門の眞中の牙へ『美術化した惠美須大黑』の二像が置かれてある、人間の約五倍の大きさのもので積木細工で造へたやうになつてゐるが、此二像だけを引離して見ればそれは藝術的に申分無く結構であるけれども、門が門であるだけに事毎總てを打壞してゐる。大きな南洋の椶梠の葉が正面に植えられてゐてこれがまだ所謂會長の城門氣分を添へる事夥しいのである。

一體、如何なる必要——具體的にも印象的にも——があつてこんな天を摩すやうな高いとげ〳〵した門を造つたのであらふ。上の方は瓦を並べて一帶に丸味の凸凹の一線を作り漆喰も叩きつけになつてゐる、處によつては甚だ意氣だがこんな處には却つてぞんざいに見えて不可ない、天から下つた牙の左右、詰り人の出入する處の內側にもまた三角な穴が十許りも開いてゐる、勿論意味の無い裝飾に過ぎないのだが城門の感じから來て突然に鐵砲か大砲の銃口といふよりは毒矢でも出しそうな氣持さへされるのだ。

◆**色に就ての工夫が無い**

薄い紅色にでもしては

何式だか知らないが少なくとも名前だけでも平和博覽會である、も少し圓味を持つた軟らか味のある門は出來なかつたであらふか、天からの牙でもあの下からの三角を隋圓形にでもしたらも少し溫味が出る筈である、頂上の平らなのも少し穩やかな工夫の有りそうなものと思ふ。他の建築物では隨分素人のわれ〳〵が見ても心地よい程に良い形を出して呉れたのもある、が此門だけは少くも私は徹頭徹尾不賛成である。

最後にも一つ忌やなのはわれわれが色其物から受ける印象とか感銘とかに就ても甚だしく不注意でありこれがまた此門に對し一種の嫌忌の感する一原因となつてゐる事である。水色ともつかず灰色ともつかず妙に引立たない振るはない色で、周圍の風物との關係もあり內容其物との關係もあり時日の關係もあるも少し氣の利いた例へば春の間は薄紅色とか極めて薄い海老茶色とかにし夏に入つたらも一度淡水色か淡綠色にでも塗り換へるやうにでもしたらどんなものか、形狀はもう如何にも出來まいから只これだけの事でもすれば餘程城門の調和を軟らかくする事が出來やうでは無いか要するにも少し全體に明るい色を希望する。

大阪の外廓を歩して

(中)

齋藤憙太郎

一

淀川を隔てゝ向ふ岸の新川崎町には大阪造幣局がある。この亦た造幣局が、斯う云ふ政府の事業の中でも非常に古いものである事は誰でも知つてゐる事で、明治の初年に外人ケンメル(?)の靴で蹴られ〳〵辛抱しながら働いてゐた丁髷のお役人達の功で、今のやうな立派なものになつたのである。この構内に、その時分上海にあつた英國の造幣廠の或一部を、煉瓦一つ殘さずスッカリ移したといふ建築があつて、その當時大阪人から「川崎に○○のやうなる筒立てゝお上は高いカリ(借)が御自慢」といふ落首を頂いたといふ我國唯一の煙突は、今や同局内ゴモクの燒棄場か何かの煙出しになつて、尚ほ餘生を送つてゐるのは珍奇である

それから局の構内には尚ほ二つの或る遺跡がある。一つは大鹽平八郎の屋敷と、平八郎が燒打をやつた當日兼て自分の主義と合はなかつた同役の朝岡某の邸へ、大砲をまづ一發打込んだといふその朝岡の邸が今に存在してゐる事、及び織田有樂翁の茶室であつた「如庵」といふのがあつて、此處に局員の倶樂部が設けられてある事、そこに家康の履脱石などいふものがあり、前記ケンメルが晩に蛙を蹈んだので別に道路をつけたなどいふ庭園がある。庭園は樹竹蒼々古逕尚ほ存して、此處にこんな庭があるのかと思はしめるものがある。

造幣局が春日その門を開いて大阪人に花を見せる事は一種の趣味ある功德である。此邊は櫻の宮といひ、北にめぐつて都島といひ、名は頗る優美で、土地としても大阪の東北部であるから花時に花あるは最も適當の場所である。然るに花などは今では一つもない。頗る殺風景至極である。市内

に小公園を設けるまでに人間の健康を大事にしてゐる市であるから、切めて此邊には何んとかして花の育つやうな方法を講じたいものである。春此邊一帶に花があり、柳があるなどといふ事は何の位ゐ大阪人に取り、大阪市に取つて有意味であるか知れない。しかし櫻とばかりは限らない、何か花木が欲しい場所である。これは一種の生きた文化運動みたいなものであつて、決して無益の事ではない。併し市がこの邊に公園を設ける準備中であるのは、頗る結構な事で市民として感謝に堪へない事である。

胡瓜で名高い毛馬にくると毛馬閘門がある。俳人に云はせると毛馬は胡瓜でばかり名高いのは遺憾千萬である、此處は俳諧中興の祖與謝蕪村の生地であるといふ。或程爾う云へばそれに相違ない蕪村に「春風馬堤曲」がある。それは、毛馬堤の上で翁が大阪から藪入で歸る娘の子の、赤い蹴出しを見ながら之を歌つた詩と連歌と俳句を交ぜこせたやうなものだ。德川文學の上に大阪で忘れてならぬもの、近松の淨瑠璃、西鶴の浮世草紙だが、蕪村は多く京住ひで大阪には縁が濃くない。唯だ生れた所が大阪の隣接地で、而も毛馬などゝいふ變に捻くれた位置の隅つこの土堤の下である。前記のこの邊に花でも植付けて、その堤の果に蕪村の句碑でもあると尙ほ妙だが、これは何うも大阪市でやる譯にはゆかない。誰か大阪の俳人でそれをやつて見ては何うであらう。

本庄あたりに近頃無暗にマッチ函が殖える。見てゐると泥田の上へ石を並べて其上にマッチ函を立てる。表の柱と奥に見える便所の柱との垂直線を、片つ方の目を閉いで重ね合して見ると、表のが傾いてゐるのか便所が曲つてゐるのか、その線が合はない家が澤山にある。こんな危なげな家でも所謂檢査が通るものかと思ふと淋しくなる。家主の無責任な不德なやり方にも呆れるが當局者の嚴密な注意がないと、不測な災禍が起るだらうと思はれる。自分は次ぎに於てこの事實を擧げてこれを證する事と、それから市の北端から築港鶴町に於ける現狀や今宮邊の事を少し書いて見よう。

二

市の北端——本庄、長柄と北野一帯の北方新淀川の沿岸にかけて素晴しい勢ひで、新建の住宅が殖えていつてゐる。その建築の仕様を見てゐると先づ一番に我々の目につくのは地形、即ち地堅めにマヤカシが多い事である。家を建てるのに地盤の不完全を承知でやることであるから、幾ら地の上に立派な建造物——日本家屋の場合をいふ——を築かうが、それでは眞艫なものが出來上りさうな事のないのは當然である。元來低地などを地均し工事をする前に、それを埋立てる時本當の土壌を用ゐずに塵芥などで下埋めをするといふ事は、我々は素人でよくは判らないが、多分建築規則で禁じてある事と考へる。若しかそれが禁じてないとしたらそれこそ同規則の大欠陷だが、多分これは禁じてあるに拘らず、實際は何處の低地の埋立でも、それを遣つてゐるが當局の取締が頗る緩漫でそれを喧ましく云はない。當局の吏員は唯だ地上に出來上つつた建物の工合が規則の表に適合してゐるか否やを見てコノ階段はコノ場合斯うなくてはならぬとか、柱の數がモウ一本不足だとか云ふ事などを喧しく云ふさうである。この邊に建つ家の十中の八九は土地柄で、先づ粗末な借屋などの多いのは當然だが、家主にして見ると土地がアンコ入りだらうが何んだらうが、家屋が間もなく歪まうが捻れようが、貸付ける時に一寸見てくれが良ければそれでよいのであつて、實際低地を本當にマヤカシなしに地形などをしてゐては、その方に金がかゝつて仕方がないから、ソレはマヤカシて置いて手つ取り早く家屋を濫立して貸付ける算段をするのである。コンな工合であるから無論念を入れた家などを建てるものはない。斯ういふ低地には市役所の掃除人夫に頼んで、ドシ〳〵塵芥を投げこましてゐる處さへ少なからずあるといふ事で、人夫にしても態々遠くにある一定の塵捨場まで行かなくても、近い處に爾う云ふ處があると喜んで其處へ棄てるさうだ。これなどは双方ともに規則違反であつて、住居といふ上から見ても衛生といふ上から見ても共に不感服な事實である

三

天神橋筋の街路の北端は新淀川に突當つて其處に長柄の長橋である。この筋は一直線に通つた街路として大阪市中で最も長いもので、南は天王寺公園北門前から、北はこの長柄橋に達してゐる。卽ち北から數へて下寺町の四丁、松屋町筋、天神橋筋の六丁、他は郡部であつて、松屋町筋と天神橋筋の繁華は大阪市内に於ても、先づ第二流と見てよいもので、殊に天神橋筋近來の殷賑は眼覺ましいものがある。卽ち市内に於ける繁華地として指を屈すると、道頓堀や千日前のやうな場所は別として、町家の盛んなのは心齋橋通り、平野町、西では九條新道、東では玉造黒門町、北ではこの天神橋筋である。ところがこの中で天神橋筋の道路は、他の就れに比較しても最も惡路であつて、之が爲にこの筋の文化の發展——も可笑しいが兎に角『町』の『町』としての資格を臺なしに傷けてゐる。それは北端に長柄橋といふ長橋があつて、自然これによつて、市と郡部の間を往來する荷馬車の通行が繁劇な爲めに、不手入れで而して脆弱な路面は常に絶えず破壞されるからである。尤も市及市の附近に於る大惡路は、この天神橋筋ばかりではない、頻繁に荷馬車の通る處は何處も爾うだ卽ち十三橋を有してゐる大仁の街路、淨正橋及出入橋の西梅田町、南區紀州街道の水崎町——こんな處の雨後の道路などは、實際誰に見せたからと云つて道路だらうなどゝ思ふものはまアない。兩側に町家が立並んでゐるのを見ると『はゝア町かいナ』と合點するかも知れぬが、若しアノ羅列してゐる家屋がなかつたら、如何に强辯したからと云つて、アレを『道路』だなどゝは義理にも云へた事ではないと思ふ。

天神橋筋が相當の繁華を有してゐながら、而も蕪雜卑陋を免かれないのは、この惡路の力も與つて大なるものがあるのである。この筋は確か都市計畫によつて、早晩街路の巾を取擴げられるのであらうが、それにしてもそれ迄路面をあの儘に放置しておくとすると隨分考へものである。

長柄と云ふと直ぐ憶ひ出すのは人柱である。人

柱の傳說も頗る古いものであるが、この橋の詰に立つて北と南へ顏を振り向けて見ると、橋を境にして、この兩岸に劇に於る二つの狂言の生れた場處のある事を知る。北は『崇禪寺馬場』で南は『鶯塚』である。崇禪寺馬場の仇討は大和郡山の士、遠城次左衞門兄弟の返討ちで、鶯塚の悲劇は長柄に殘つてゐる長者の跡の傳說である。返討は實在の事實を脚色したもの、長者の方は傳說によつたものであるから、事實だとは保證は出來ない。德川文華の中で光つてゐる上田秋成は、崇禪寺馬場で次左兄弟を返討ちにした劍客生田傳八郎と、曾根崎新地のお茶屋の娘との仲に出來た遺孤だと、西澤一鳳等の書き遺したものゝ中にある。しかしこれは多分虛說らしいとの事だ。今、柴嶋水源地のある中島村の崇禪寺にいつてみると、寺內に劇場や役者から奉納した、大提打などがブラ下つてゐて、この芝居は今でも市內の劇場で時々演ぜられてゐるが、一方の『鶯塚』は筋も趣向も頗る幼稚なもので、田舍の小劇場でないと見られない事になつてゐる。

四

そこから一足飛に大正橋と云ふ、市の眞つ唯中へ飛びこむ。而もその西詰から鶴町行の電車に乘つて市の西南端にある、その新開の市街——野つ原の中に出來た市設の新しい町に向ふ。

現在の鶴町新市街は實際に此方面に於る、野中の町の魁であつて、町の中心は市設長屋である。この町は日用品の商店や料理屋飮食店を有し、更に公設市場や、他の日用品市場を有し、また學校を有し簡易食堂、簡易宿泊所、托兒所を有し、それに電車の一支線を有してゐて、まづ〳〵押も押されもしない、獨立市街の體裁を成してゐるものである。市設長屋は和風二階建と一階建で家賃は十二圓位ゐから二十五圓位ゐまで、この家屋の建方については種々批難をする人もあり、餘り完全したものではないやうだが、併しこの位ゐの家賃でこの位ゐの體裁であつて見れば、ひどく不足を云ふ處もないものと思はれる。唯だこの長家を建てる時にあたつて、設計者がこんな小ぽけな住宅

に對して餘りに思ひやりが過ぎたやうな感じがあるのは遺憾であつた。斯う云ふ長屋は云はゞ實用向を主要な點として考慮すべきものであるから、もつと華を去り實に着いて、實際的であつた方がよかつたやうである。この長屋の全體の調子を見渡してみると『實用的でもあるやうに、そして風雅な趣をも加へて置きたい』と云つたやうな氣分が出てゐるやうだ。成程それは惡い事ではないが併しそれはもつと高級な住宅の場合の事で、斯樣な住宅では、そんな心配は先づ必要としない方が却つていゝだらうと思はれる。この長屋の模樣を見ると、かなり小さな處にまで、隨分窮窟な前庭などを無理して取つて、柴折門風や竹格子喜連格子の門などを附けて其處に庭がある。庭と云つても傘も自由に開く事の出來ないほどのものであるから、實際あつても何んの風雅の突つかい棒にもならない。非常に詰らないもので、所謂『風雅でもなく洒落でもなく』無用の小さな空地の感じを與へるばかりのものだ。門がいくら小さくとも、庭はいくら狹くとも、其處に物寂びた何等かの添景があれば格別、斯る白け切つた原ッぱの中、白け切つた新開地の中で、茶がつたり風流めかしたりは實際不似合な事で、且つ嫌味である事を免れない。況んや門の工合なども單調を破るつもりであつたか、十五六軒づゝ草の菊桐をぬいたり、竹を使つたり、矢筈の羽目にして見たりして捻つてあるけれども、それが却つて小ましやくれた住宅の調子を隨分低級なものにしてゐる憾みがある。何うやら小さな家に住みながら、口惜しがつて風雅めかしてゐるやうな嫌な感じを惹く。設計者の心配を妙な處にまで現はしてゐる他の一例は、或る長屋の物乾臺の欄干に、一樣に常盤津何文字の名前の上にくつ付いてゐる紋のやうな飾り板を、すつとハメこんでゐる事である。物乾臺の欄干などにまで裝飾などは要らぬ事だ。これなどは無用の手數であるばかりでなく、却つて滑稽である。

（つゞく）

お客様本位の接待と洗面所

山下芳太郎氏夫人　山下千代子

私の住む芦屋にも近頃目覺しいばかりの勢ひで新しい住宅が建て並びます。殊にこの三四年來といふものは、烈しいやうでした。郊外住宅地として、阪神沿線の各地域が持ついろ〳〵の特點は殆んど、理想的な迄に他に無いものを多分に持つてゐると聞きますが、事實彼の美しい景色ばかりでも何んなに住む者の心を和げてくれるか知れないと思ひます。

○

私共の隱やかな生活を時々突き動かすやうにして、訪問者は賑やかにやつて來てくれます。それが又私、殊に私一家は喜んで迎へるのですが、來客のある事は嬉しいものです。親戚、知人、殊に子供達の友人である若い學生達―それが親戚の多い宅では殆んど平日のやうに私の家の、何處かの室に居ることなのですが、それが少しも私の家では目立ちません。何故かと云つてそれは、私の宅では特別に來客を『お客樣』扱ひにはしないからです。然うかと云つて全然構はないの、放つて置くのといふ譯ではありません。私の意では折角訪ねてくれる人達を、出來る丈け隔てなく寬ろいでゆつくりと氣儘にして貰ひたいといふ積りより外にありません。

相手の意志を尊重したい

私は『社交』といふ言葉の意味をいつも考へる事ですか、それには私は『相手の意志を尊重する』といふ事に社交上の禮儀は盡くされると思ひます。ですから私は無遠慮な、又不行屆きなこちらの臆測や想像を加へるよりも、本當に相手の自由を尊重するといふ事に努めたいと思ひます。そんな意から私は私の家に見える大抵のお客樣を扱つてをります。

○

幾分かその理想の表現として宅では來客、及び客室附屬の洗面所を、少しばかり工夫したものに致してゐます。それは一日中の食事を除いた他の時間の總べてを、お客樣自身の自由に委せる爲めに、こちらの家族の者は大抵の事を出過ぎて干渉致しません。起床から就寢まで然うなのです。それは或は無愛想にも見えるかも知れないけれど、寧ろ之までの間違つた思想を撓める事だと思つてゐますから、少しも苦痛なく行へるのです。

お客樣は朝目覺めて、自分の意志のまゝに起きたい時に起きるでせう。(客室は殊に臺所と遠い二階にしつらへてあります)女中達の働く氣配や、家族の者の動く物音に煩はされる事なく、自由に爲されるやうにと、起き出たお客樣はそのまゝ隣りの方の洗面所に行けるやうにしてゐます。洗面所は僅かばかり、一坪程の廣さしかありません。其處に片方の隅に西洋風の便器と、向ふに陶器製の洗面器と、それには湯と水がスキッチ一つで、自由に出されるやうにしてゐます。丁度彼のホテル風な氣持ちにも似通つてゐます。猶其處には小さな柱掛けの鏡と、一通りの化粧道具と、タオル等とが揃へて置いてゐます。便器は無論水を引いて洗ひ流せるやうにしてゐますから、少しも不潔な感じを與へる事はありません。床は板敷の上にシーツを敷いてゐます。そして周圍は高い硝子窓にして一方に扉をつけてゐますから、室内は全く離れて獨立した形になつてゐます。

○

宅では只今の處未だ皆な日本建てになつてゐますが、その中に一つ丈け右樣のものを客室に附けました。それでお客樣は極自由に行動で出來ると思ひます。一々女中の手を煩はす事も要らず、時間を計つて起きねばならないと云ふ、氣兼ねも要りません。只一寸設備を要するのは湯と水を各室に引く事ですが、之も初め家を建てる際に少しく手間を要しましたら、永久に種々の便利を得る事と思ひます。今迄の日本家屋には大抵この設備が欠けてゐますが、之が一層室内に於ける日本人の行動を臆却にも怠慢にもさせる事でせう。

○

一方には家庭内に湯を豊富に、便利に使用の出來るやうにする事は、家事の能率の上に大變な相違を見出す事と思ひます。殊にそれは冬期に於て猶更です。少しの工夫、僅かの考案に依つてその恩澤を自由に氣樂に享ける事は出來ませう。宅では家屋の各室に送る湯の全部も、臺所用の湯も、洗濯の湯も、風呂の湯も、皆んなそれは一つの『竈』から云はゞ一つの用を達したその餘分の熱で以て極く有り餘る程に得てゐます。ほんの僅かの手心に過ぎません。それは臺所用の暖爐(竈)から送り出されるのです。竈は普通洋式のものですがそれで家族の食事一切を料理する傍ら、その片方に湯槽と鐵管を取りつけてゐますから、炊事のために使用した燃料は同時に槽の水を沸かして一日中充分に湯の使用に耐えます。燃料も僅かに石炭を數回足すのに過ぎませんが女中を初め家族はその爲めに何んなに氣輕く思ふか知れません。

洋風住宅の普及しない譯

只今の住宅―日本式の居間から臺所を經て向ふに少しばかりの洋館を建てる計畫ですが、只今の洋館、一般に建て增される洋風の住宅は、猶まだ遙かに貴族的なものであると思ひます。それはすべての調度が、まだずつと贅澤な習慣に引きづられてゐるからだと思ふからです。

この頃の住宅改良問題は、大抵私共の文明生活に添ふべく、輕便で實用的な洋風の形式を取り容れてゐるやうに思ひますが、無論當然な事でそれはいろ〳〵のいゝ點を持つてゐるに違ひありません、日本式の家屋も考へてみれば現在のまゝでは劃分いろ〳〵の欠點のある事も事實なのです、面倒で危介な雨戸といふものも、廣く長々しい廊下も、床の間といふものも、全く繁雜な今の私共の生活には何とか改良しなければなりません。まだその外にも澤山ある事でせう。それは總べての人達が自身の經驗から感じてゐる事に違ひありません。

○

それだのにまだ〳〵洋風家屋の普及は決して、一般的にはなつてゐないやうです。今日建てられ

る、多くの和洋折衷、或は兩方を合せ持つた住宅が、大抵はそれがまだ、富豪階級のものにせられてゐます。何故でせうか。それは富豪でなくても澤山有產階級の者でなくては、今日の所謂洋館は建てきれないからです、其處には應接間一つにどんなに澤山の費用が、懸けられてゐるでせうか、第一裝飾と設備が到底日本建風の比較ではありません、暖爐から、カーテンから、敷物がら、額、置物までそして椅子や卓と數へたら隨分一度に金目のものを備へなくてはなりません。斯うした傾向は第一に洋風家屋をしてまだ、一般の需用に容易に、滿させることの出來ない原因だらうと思ひます。

私は本當の生活の改善なるものが、速かに廣く及ぶには、何を擱いても矢張り、それは中產階級以下の人々から、即ち擴く多數な民衆から、つまり經濟的に容易な立場から出發せられなくてはうそだと思ひます。ですから現在の洋式家屋等も、建築費から總べて、日本家屋よりもすつと容易に經濟的に出來上るといふ保證が得られたら、その普及はもつと速やかでせうと思ひます。然うして理論は案外に易く實行に移る事と思ひます。それには矢張り建築家なり當司者が、本當の『住』の目的だけの、簡單に小さな洋館を澤山に安價に供給し建てればいゝと考へます。

行春の逡巡として
遲ざくら

訪問者の心持

大阪朝日新聞記者　恩田和子

▲私が新聞記者といふ職業に入つてから、永い間さう、もう既に八九年にもなるだらうか、その間私はこの多忙な職業の裡に浸つて來た。染物の品がしつくりと染色のまゝに同化する程に浸つて來たといふやうな氣が自分でも感じられる。自分はその期間から果して何を得たゝらうか？―と時々思ひ直してもみるけれど、しかし結局馴れるといふ事は物の處女性（こんな言葉が許されるならば）を失ふ事に外ならないのだと考へられる。私は新聞記者の事務的な仕事には馴れたけれど、同時に私は、新聞記者としての大切な條件をばうつかりとしてゐる間に失つてゐる。即ち私の感情からは、潑剌とした初心らしい『驚愕』が無くされてゐる事である。その點で私は私の神經のいつか知らず鈍ぶりつゝあることを悲しく思ふ。

▲私は、時々考へる事であるけれど、私は本當に第一歩の第一年生からこの仕事をもう一度やり直してみたいと思ふことである。けれど、それが徒らに空想的な辭句にすぎないといふなら、私は今職業といふ、或は職業から來るところの、すべての背景、すべての恩惠（？）を脫してしまつて、本當の赤裸々な一個の『人間』として世間の失面に立つてみたいと思ふ。何んにも飾りのない人間、何んにも蒙る處のない有りのまゝの『我れ』に還つて、然うして赤手空拳、人生の行路に立つて曝された時に、初めて私は私の眞價を兎にも角にも見出すことが出來やう。その時に私は何んな氣持ちがするであらうか。又事に處して、何んな態度を採るであらうか。更に世間の人々はどんな心、何んな表情で對してくれるであらう？

▲八年餘の新聞記者生活は、私に只「生活」に對する忍從と苦業を敎へてくれた。それは有らゆる人

間が受けねばならない處の人生の『苦患』であらうと思ふ。私はこの頃、日々の新聞を擴げる時に其處に現はれた種々の社會相―いろんな出來事に對して、一つ〳〵に擊てば響いて震へるやうな人間の血の叫きを聽くことが出來る。それは僅かに數行の雜報六號活字であつても、或は第一面の事々しい政治記事にしても、要するにそれは只一つの人間の吐く吐息に過ぎない、と思ふのである。

▲私達の日常も、必竟この『吐息』の隙から、私の仕事を通して少しばかりの感想を述べてみたい。

▲世の中には理屈以外の理といふ事があるさうである。科學と迷心が折々平行したり矛盾したりして結局矢張り兩立してゐる事等もその一例であらう。私は取り立てると滑稽な事ではあるが、私は私の仕事上の訪問には必ず私獨特の『うらなひ』をする事である。それは珍らしい事ではないけれど私の『直感』は私自身によく其間の消息を敎へてくれる。大抵成功と不成功とは不思議に彼れの玄關に立つた時に、彼れの取次の女中を一目見た時に私には凡その見當がつくことである。―それは或は、當然すぎる程の理屈に嵌つた事かも知れないけれど。

▲それでも私はもう一つの本當の占を持つてゐるそれは、私が新しい下したての履物をはいた時に私が苦し新しい最初の家を訪問したなら、それはきつと不成功に終るといふ、永い歷史を作つたことである。今では、馬鹿らしいとは思つても私にはそれが何かの不思議な因緣のやうに信じられてならない。

▲しかしそんな事は餘談にしても、私は今此處に『訪問者』といふ立場からなら、かなりにいろ〳〵の云ひたい事、平常考へたこと、感じたこと、をかなりに澤山持つてゐると思ふ。それは私のやうな職業で、殆んど年中他人の家の訪問のみに暮してゐる者の特に感じる事としてみたら、『家』に對する狹い考察も或は所謂職業的に、面白いことかも知れない。

▲私は訪問して、第一番に私の傷付き易い感情を動かすものは、それは風流に凝つた、或は嚴めし

い門構への如何よりも、敷石の數よりも、玄關の模樣や裝飾よりも、矢張りその次に出て來る取次者の態度の訓練されてゐるのと否との相違なのである。若しそれがその家の女中なり小間使ひであれば、彼女はきつとその家の主婦、即ち夫人の氣質の通りに、動き言葉を使ふことは、百人が百人共然うであるから、私の訪問の判斷は先づ彼女を介して初められる。

▲訪問をする時に私が前以つて電話なりで、その家の夫人まで通じてある時には、若し私が行つた時に、そこの女中がちやんとそれを心得てゐて直ぐ樣私を屋内へ案内してくれる時には、私は非常に嬉しいと思ふ。即ち夫人は彼女まで私といふ名前の者が來る事を云ひ聞かしてゐるのである。無論そんなであるから、彼女は直ぐに用意された室内へ案内してくれる。私はそんな場合に其家の夫人の細かい心遣ひと、奥床しさを懷しく思ふ。——この點では、私は彼の增田喜久子夫人をいつも敬ふ心になるのだつた。

▲東京の社交界で知られてゐるといふ美しい、そして氣位の高い公爵夫人は、或時丁——といふ之も名高い或る高官の夫人を訪ふた時に、自動車を門の側に横付けにして、M夫人が玄關に案内を乞ふとその邸の取次者は、M夫人の名前を聽いて『暫くお待ち下さい』と云ふと奥なる、丁夫人へその事を取次に立たうとした。その時M夫人の美しい顔はやゝ險しくなつて『私は只今私の伺ひます事をお電話で奥樣まで申上げてある筈です』と云つて夫人は玄關に徒らに立つて待つことを巨んだ、そして夫人は無遠慮に、その家に上つていつたといふことである。之等はM夫人の見識と自尊心とから一面無理もない事だらうと思はれる。

▼私が曾つて一番心に嬉しく思つた事は、まだ私が東京のY—社にゐた頃に、私は無警告に或夫人を訪問して行つたのだつたがその時の事に一旦取次に奥へ引つ込んだ小間使ひは再び出て來て、玄關に丁寧に手をついてから、その日は夫人が他に會見者があつて、會はれぬ事を大變に謙遜な口調で彼女は答へるのであつた、そして『今度若しお出下さる節は、どうかお電話を頂かして下さい』

と彼女は云ふのであつた。私はその時赤面して歸つたけれども、その次に訪ふた時に夫人は快よく會つてそして『前には失禮した』ことを優しく詫びた。私は夫人の穩やかな、そして純眞な性格をこの上もなく快よく感じたのであつた。

▲この頃新聞記者等の、訪問を受けやうといふ人は、先づ大抵社會時にも相當地盤を張つて活動してゐる人だと云つていゝがそしてそんな人は又大抵外の、多くの訪問客も受ける事だらうと思ふが私はそれ等の邸宅の應接間といふものに、まだあきたらないことを感じてゐる。それは、西洋風にしたごちらかと云へば、進歩した形式の應接間でも、まだ本當の意味の『應接』間には迂遠である事を思はずにはゐられない。私は、之からの多忙な事務的な生活に面しては、殊に事務上の接客等にはもつと〳〵簡單で輕便な應接の方法を講じなくてはならないと思ふのである。

▲この頃、やゝハイカラに見ゆる人等の說に、家庭は開放的でなければならない、即ち我れも人も同じやうに許し合つた心で親しく、隱す處なく來客もその場合の家族の一員として、交際はねばならないと云ふのであるが、しかし、それは極く限られた場合にのみ適用させなければならない事だ。私は家庭といふものは、我々の一つの城廓—即ち本當にうち寛ろいて安息の出來る、我れにのみ親しい、赤裸々な隱れ家だと思つてゐる。だから其處に在る時の『我れ』には、最早何等の僞りも武器も要らない。有りのまゝの自分なのである。そんな處へ、私は猥りに他人を容るべきではあるまいと思ふ。それは決して秘密主義を云ふのではないが、人間には他人の前には愼しまなければならない禮儀があるからだと思ふのである。

▲私の考へるには、之からの多忙な生活を持つ對他的の交際、或は交涉には、今の應接間といふものをもつと餘悠を拔きにした本當の實務的なものにしたいと思ふのである。それには、應接間は家の奥深くにすべきではない。玄關のほんの次の處にすべきである。洋風の建物には大抵然うした形になつてゐるのを見るけれど、私の云ふのは日本風にも洋風にも、玄關といふ餘悠物は全然に要ら

ないのだと思ふのである。

▲即ち玄關即應接間の樣式に拵へてみたい。其處には扉なり日本風の箕戸なり、開けると直ぐに其處が應接間になつてゐるのである。其處は矢張り事務的には洋風の床張りにして椅子なり、卓なりを適宜に置く、そしてその室はなるべくかなりの廣さを持つてゐる方がいゝと思ふ。椅子、卓等も一組や二組でなく、適宜の間隔を置いて三四組も置ければいゝと思ふ。それは差し支へのない主客の對談位ゐは、他の用客も其處にゐて待ち合せてもいゝと思ふからである。或は何かの場合にはこの室を取り擴げて扱へるやうに。

▲然うしたら、若し私共のやうな單なる事務的な訪問者等は、一々屋内の幾つかの室數を通りぬけて、奥の奥の座敷に通される面倒さも、時間の不經濟も要らなければ、又家族の者も、他人をわざ〳〵自分の家庭深く浸入させる心遣ひも要らないであらう、要するに私はもつと無駄を省いて事務的の能率を擧げたいと考へるのである。

▲この頃の都會生活者は、最早や之までの日本風の數奇を凝らした庭園等は段々に得られなくなつて來てゐる。事實に、庭園のみを論ずる時には、隨分いろ〳〵の問題はあるやうに思ふ。私は、それらの事は兎も角として、日本人の住む室内にはいづれの家庭でも何よりも、草花の尠い事を一番に寂しく思ふ。それは、之から建てられる家屋や日本人の生活に、一層切實に感じなければならない事だらうと思ふ。そして例へば床の間や違ひ棚に日本式の挿花を供へるばかりでなく、私達はもつと他の室にも澤山に美しい草花を置いて、私達の疲れ易い心をいたわらなければならないではあるまいか。私達の今の生活は、それ程に乾き切つてゐるし、時間の餘悠に詰められてゆくから、出來る丈け一方では自然の恩惠に狎染ませて慰さめてゆかねばならないのである。

× × × ×

うたがた夜話

それがし

×劇場壞倒事件×　由來法律好きな日本でも、やツと昨今建築法規が出來た許りでさへ、從來大建築物の崩壞抔といふことは、滅多になかつた。建築技術家の矜りか、それとも、亞米利加流義な所謂大建築の少い故であらうか。流石は亞米利加で汽車の正面衝突に、幾百生靈を吹き飛ばし、一旦の出火に、世界空前な慘事を演じ、ひいき目に觀れば、亞米利加人の、大まかな馬車馬的進取の氣象が、斯ういふ事にも窺ひ得られる、が、他面には、餘りに物質文明に中毒した結果だ、とも云へる。近來、亞米利加建築界の問題？となつてゐる華盛頓市のニッカーボッカー劇場が壞倒した事件も亦其一つだ。件の壞倒で、亦も多數な人命を損ふたのだが、聞く處によれば、近頃漸く其原因が判つたとのことである。それによると、主もに上部構造に原因してゐる。即ち、混凝土で造られた板屋根を、鋼鐵製の桁梁で支持し、其桁梁は、貼附煉瓦壁の中に嵌入されある鋼鐵製の梁支への中へ置かれてあつた。其重量が、竟に梁臺から主桁を脫落せしめたのに崩壞が始まつたのだ、と專門家の意見が一決してゐるとのことである。附け加へて話したい事は、斯の珍事以來、建築法規の改正が輿論になつてゐるそうである。日本は今漸く建築法規が鑄型から拔かれたまでだ、其處に、大分時世の距りあるのが面白い。

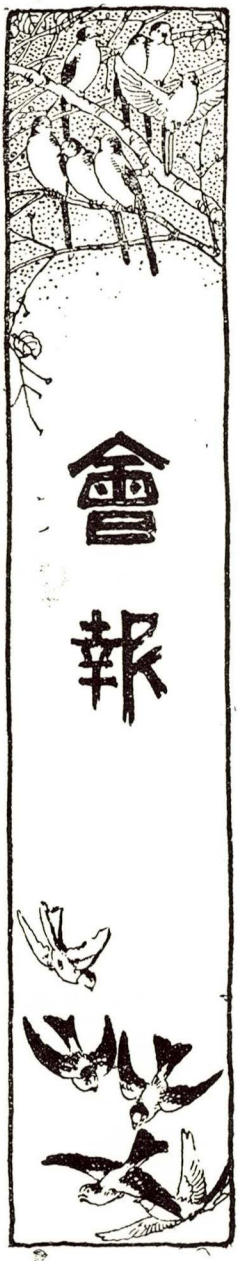
×『分離派』と『樣式』×　青年建築家の團體に「分離派」といふのがあるのは、先刻御承知の事。其分離派の理想が、這回の平和博に實體化されたのも面白い。會場の主もなる建築は、分離派連中の手に成つたのであるそうな。從來、歷史的に發達し來つた從來の建築樣式は勿論な事、「型式」てふ凡ゆる羈絆から脫して、極めて自由な、頗る超脫

的な、個々の自我を、建築といふ上に表象しようとするのが、分離派の生命であらう。之を建築の方から云ふならば、傳統的何等の捕はれなくして思ふ存分に自[redacted]の理想的設計を爲そうとするのであらう。私は、それがよいか、悪いか、批判の限りでないが、少くとも、様式又は型式といふようなものは、謂はゞ、我等が往く路を、二十幾間道路に取るか、横町三尺道路のでこぼこに取るか、要するに、哲學的に云はゞ所謂「範疇」(Category)に過ぎない。範疇とは曰く『人間思惟の根本的綜合の働きであつて、其が色々の働きに分化して來たもの』概念と範疇との相違は最早一般性といふ程度でなく、範疇は全體性を有すると共に一の創造的力となつた概念で(——)ある。(——)範疇とは根本的綜合力の自己分化であるから(——)分化するに依ていくらでも新ろしきものが出來る』と。所詮は、分離派の云ふような、動きの取れない、機械的なものが「様式」又は「型式」の性質ではない。其中には、無限にして自由な自己創造の途が往く手に横つてゐる。「様式」抔を、一つの機械視して了ふのは、所詮、經驗的概念と範疇とを、即ち、往く路の路幅のあるのを厭ふと同様だ。放奔不羈は、必ずしも、藝術的?に生くる人の執る途ではない。況して、様式を厭ふて、更らに新な様式に捕はれてゐる。となつたらどんなものだらう?。

×疊生活×　住宅改良の急進派は、疊を引ッぱがして、椅子だ椅子だと焦燥する。漸進主義者は、まあ、幵う急ぐでない、何處かに疊の幾枚は殘して置くサ、と落ち付き拂ふ。其處へ、やに下つた保守派には持つて來い、の福音がある。それは、藤原博士の疊生活論である。少々紹介してみようと曰く、『今衛生學上から云つてみると、疊は極めて保温性のものであるから、冬季には寔に結構なものである。爐房裝置の不完全な日本建築が割合に暖かいのも、一つに疊の保温性のお蔭だ、と云つて可い。併し、疊は極めて濕氣を呼ぶものであつて、一枚の疊表は二百八十瓦の水を吸收する。而もその吸收の速度が大變に早い。雨でも降ると忽ち濕る。斯の關係からすれば、疊は大層非衛生

的であると云へる。けれども、斯の乾燥も大層早く、水氣は直ぐに蒸發して了ふ。故に日光の射入のよい室であらば、疊は頗るよろしい。日光の射入が餘りよくない室は、濕氣の爲に、疊の裏面が一年經たない中に腐敗するのが通例である。だから疊は度々日光に曝すがよい。春秋二回に行はれる清潔法施行のときは、疊に消毒を行ふ必要がある。其方法は頗る簡單で、例へば木屑一斤にホルマリン六百瓦を混和したものを、疊の上へ一面に撒布して、二時關程其儘となす、そうすると、疊は充分に消毒された上、疊の目の中に在る埃を伴の木屑が吸收すると、祖先以來の實驗が今日の生活樣式になつたのだ。何もそう打ち壞したり引ッぱがしたりするにも當るまい。疊應用の椅子式生活も、蓋し日人の創意として追々と世界に分布させるサ。

望は風雨の夜に早くも朝紅を示す



會合

○材料委員會

△日時　二月二十二日午後五時—八時
△會場　本協會會議室
△出席者　片岡、新海、田中、谷、熊澤、森、須川、小笠原、瀨戸、西谷(書記)
△記事　一、建築材料調査會より照會に係る其に關する取調事項に付協議す。

○財務委員會

△日時　二月二十二日午後六時—九時半
△會場　大江ビルヂング第九號室
△出席者　片岡、井上、谷、中川、野澤、久保田、山本、松尾、須賀、菅谷、瀨戸西谷(書記)
△記事　一、博覽會寄附勸誘の件に付懇談す

○第三回懸賞圖案審査會

△日時　二月二十三日午後五時—九時半
△會場　本協會會議室
△出席者　宗、片岡、松井、波江、阿部、吉木、西谷(書記)
△記事　一、前回に引續き審査し十通を撰擇し各等級を附したり

○第三回講習會講師打合會

△日時　二月二十七日午後—八時
△會場　本協會會議室
△出席者　增田、本多、安井、内藤、西谷(書記)
△記事　一、第二回講習會時間割其他に付打合をなし種々懇談の後散會す

○臨時理事會

△日時　二月二十八日午後五時—七時
△會場　本協會會議室
△出席者　片岡副會頭、内藤、野呂、中西宗、波江、西谷(書記)
△記事　一、宗懸賞委員長より第三回懸賞圖案審査報告あり二、理事會に於て當選の暗號封筒を開封し當選者の住所氏名を披見し發表方法を決定す

○第三回懸賞圖案當選者披露會

△日時　三月三日午後五時—八時
△會場　本協會會議室
△出席者　大阪毎日、大阪時事、大阪日日大阪朝日、大阪新報、各社記者諸氏、横濱理事、吉木幹事、内藤幹事、西谷(書記)

△記事　吉木幹事より懸賞圖案に付種々說明あり後晩餐を共にし談笑裡に散會す

○理事會

△日時　三月六日午後五時—六時
△會場　本協會會議室
△出席者　片岡副會頭、橫濱、內藤、松本小笠原、野呂、中西、舟橋、瀨戶、西谷（書記）
△記事　一、會員銓衡二、書記雇入の件其他

○幹事會

△日時　三月六日午後六時半—八時
△會場　本協會會議室
△出席者　片岡副會頭、波江、舟橋、松本小笠原、瀨戶、西谷（書記）
△記事　一、會場設備其他に付協議す

○材料委員會

△日時　三月十日午後五時—七時
△會場　本協會會議室
△出席者　瀨戶、小笠原、須川、熊澤、森西谷（書記）
△記事　一、前回に引續き協議す

○幹事會

△日時　三月十七日午後六時—七時
△會場　本協會會議室
△出席者　葛野、小笠原、波江、舟橋、吉木、西谷（書記）
△記事　一、會場敷地の件に付協議す二、ポースター懸賞決定。其他

○例會

△日時　三月十七日午後七時—八時半
△會場　大江ビルヂング大集會場
△出席者　吉木、松原、福井、山田、增田久保田、藤井、長澤、和田、道田、田村小川、宮本、小川、森、中川、松本、宗、岡本、中川、宮本、村上、森田、能村、橫濱、眞邊、小路、林、松井、設樂、小西、菅原、八尾、小西
△記事　一、第三回懸賞改良住宅設計圖案當選者へ賞金授與式を行ふ二、協會細則變更の件に付協議し通信決議に依ることに決定せり

○理事會

△日時　三月二十日午後五時—七時
△會場　本協會會議室
△出席者　中西、竹腰、吉木、瀨戶、小笠原橫濱
△記事　一、會員銓衡二、春期大會三、細則變更の件

○幹事會

△日時　三月二十日午後七時—九時
△會場　本協會會議室
△出席者　小笠原、波江、片岡、吉木
△記事　一、總裁及敷地貸借契約の件に付決定す

○會場委員會

△日時　三月二十二日
△會場　本協會會議室
△出席者　池田、柳下、佐藤、舟橋、小笠原、福永、有山、呼原、新海、小川
△記事　一、前回に引續き種々協議す

會務

△三月一日　第三回懸賞改良住宅設計圖案當選者へ當選通知發送す

○新入會員

（會員）末澤周次君、海老原孝君、早良俊夫君、田村豐君、山本喜一君
（特別贊助員）菅谷一郎君、河村茂君、藤田友太郎君
（普通贊助員）小枝實君、遠田音吉君、勝田每次郎君、西田偉三君、冲津義雄君

山田元二君、小野政太郎君、村田小一君、西山德朗君、木下助三郎君、水間平三郎君、前田消次君、久保春治君、近藤涉君、高橋今朝雄君、福見亮爾君、松岡誠一君、江木佐君

○住所移轉

吉松一君、福岡市天神町九五、不動ビルヂングあめりかや建築事務所

村上菊一郎君、朝鮮京城旭町壹丁目三十五

佐伯德吉君、東京市京橋區新榮町三丁目一

村野理一君、大阪市西區松島橋東詰前田ビルヂング建築場、山崎建築事務所出張所

石井鶴松君、姫路市光源寺町五參、石井建築工務所

中村誠一君、京城府南山町二丁目二一

國枝博君、大阪市西區本田通一丁目九ノ七住友銀行川口ビルヂング

福永佐和吉君、兵庫縣西宮町川尻二六一二

井川順一君、兵庫縣川邊郡小田村常光寺、富士製紙株式會社社宅二十九號

荒川貞直君、大阪府下西成郡神津村小島宮別、旗野方

宮林勝君、兵庫縣武庫郡魚崎町橫屋四六七

南孝三君、東京市四谷區坂町六一、長谷川方

小山助太郎君、神戶市宮本通五丁目十二ノ六

中島壽人君、大阪市西區三家軒上ノ町四〇日本土木株式會社

○寄贈圖書

住宅　三號　住宅改良會
建築雜誌　二號　建築學會
委員會報告　建築學會
農家の友　三號　同　社
材木新聞　每號　同　社
金屬工業新聞　每號　同　社
經濟資料　三號　東亞經濟調査會
都市公論　三號　都市研究會
住宅研究　三號　住宅改良會
土木建築　三號　同　社
建築世界　三號　回　社
通商彙報　三號　大阪府立商品陳列所
工業評論　三號　工業評論社
帝國鐵道協會々報　三號　同　協會
建築畫報　三號　同　社
電氣評論　二、三號　同　社
通俗衛生　三號　大阪府衛生會
電氣學會雜誌　三號　同　學會
工業の友　三號　工手學校
滿洲建築協會雜誌　三號　同　協會
新住宅　三號　洪洋社
建築業協會々報　二號　同　協會
建築の普及　二號　帝國工業教組會



役員及職員

副會頭片岡安
理事　小笠原釼
理事　横濱勉（理事長）
理事　吉木久吉
理事　竹腰健三（編輯主任）
理事　中西其作（編輯）
理事　内藤太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本禹象
理事　舟橋喜一
理事瀬戸文吾（主計）
書記　江村郊邨（庶務）西谷節（會計）武波泰（庶務）清川伊佐

會員	二二九	會員（地方）	七九
名譽賛助員	七〇	終身賛助員	五二
特別賛助員	一八	普通賛助員	三七一
合計（三月二十日現在）			八一九

住宅改良臨時博覽會部
理事　葛野壯一郎
理事　波江悌夫
理事　小笠原釼
書記　西谷節
書記　山崎萬壽夫
事務員　大谷政藏
事務員　三谷良造

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	六圓	貳拾四錢	
廣告料	種別	金額	
	半頁	八圓	
	一頁	拾五圓	

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

（毎月壹回）大正十一年三月三十一日印刷　大正十一年四月一日發行

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
兼印刷人
印刷所　大阪市東區内淡路町一丁目廿一番地　大阪活版所
發行所　大阪市北區絹笠町九大江ビルヂング三十七號室　日本建築協會　電話北四二一九一番　振替口座大阪三九九七五
特約販賣店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店　電話（土佐堀二四四〇番）　振替口座二〇八四番

第二回懸賞改良住宅應募圖案審査概評

第三回審査概評

今回の懸賞應募圖案は合計百貳拾四通何れも熱心なる作品である之れが審査は二月中に於て前后五回の會合を重ね愼重審議の結果漸やく十通の當選圖案の確定を見た次第である今回の應募規定に依れば郊外地に建てる一個建住宅敷地が百五拾坪前面道路に接したものゝ中に建築するので平家建であらうと二階建であらうと其邊は隨意で家族の狀態も只五人乃至八人と限られて工費が一萬二千圓以内と云ふ割合自由な條件である。

審査の方針は住宅改良の程度に於て急進的であるとを問はず主として懸賞應募規定に順應した配置間取外觀構造等最も現代住宅の要求に適應するものである事を主眼として審査の適確公正を期するために夫々一個宛の圖案に就ても審査員全部が同時に各自細密なる調査をなし其結果を發表し意見の交換をして愼重審議を重ね比較的優秀なる圖案を精撰して入選圖案を決定したのである。

今回の應募圖案は應募規定に自由な處があるから間取外觀等に自由融通が出來るだけ平面圖を作るにも外觀を作るにも自由であり夫々面白きものが集まると思ひの外却て間取は錯雜なるもの多く又建坪が增大して纏まりの惡しき結果を來たし各室間取が便利氣持好く配置せられ郊外住宅として適應はしき工費も之れならば實行し得らるゝと思はるゝ卽ち直ちに利用し得らるゝ程度のもの少なかりしは甚だ遺憾とする處であります一般にプランのスタデーが十分でない今少しくプランのスタデーに努力を傾注被下れたならば一層好結果を得たであらうと思ふ。

今回の應募圖案は八割迄急進的のもので前回に比して著しく急進派の激增した事は前回迄の審査發表の影響を受けたのではないかと思ふが一般に斯かるものを要求せられて居ることは窺はるゝ併し之れ迄の道程としては漸進的のもので却て漸進的のものが現代に適應したものでないかと思ふ一般餘り構造が

洋風其儘の建築であつて日本の氣候風土に對して研究顧慮した點の少ないのは甚だ遺憾とする處であります。

第一等當選圖案評

本案は老人二人夫婦小供二人女中一人合計七人家族で主人の職業は會社員である住宅で各室の大さ適度各室の配置按配が中々巧みに出來て外觀も簡單であるが郊外住宅として適應はしひ力作である。

食堂居間を連接して南方に置き西方南方にテレースを設け西方に葡萄棚を作りたる處は實に氣持好く又應接と書齋とを連續室としたる處は簡單にして要領を得て居る外觀は簡單で郊外住宅として適應したものであるが少々玉石を亂用した嫌ひがある二階老人室に夜具入れとしての押入完全なものが無きは不便である窓下の押入では不充分腰の玉石積は構造上面白くなひ工費は豫算内にて實行し得らるゝ好き作品である。

第二等當選圖案評

本案は夫婦小供二人女中一人合計五人家族で主人の職業は會社員の住宅である各室の按配簡單で巧みに出來外觀も郊外住宅として面白き作品である。

玄關より書齋への出入口は寧ろ廢したる方宜しからん階段は構造上餘程無理がある一考を要する、炊事場が此建物にして狹過ぎる寧ろ竈の位置を西方へでも變更して廣く使用し得る樣にて浴室の焚口を一考する必要がある二階の日本座敷は東方に窓はあるが一方口で然かも腰高が三尺以上もある窮屈な室である之れ亦一考を要する工費は實行し得る建物である。

第三等當選圖案評

本案は夫婦と小供三人女中一人合計六人家族で主人の職業は大學の先生である人の住宅階下は全部椅子式階上は全部疊式の寢室を取りたる折衷のもので各室の連絡關係が面白く出來て外觀も可なり好き作品である。

應接兼書齋、居間、子供室を南向きに配置し食堂炊事場を東向きに配置し其各室の連絡關係が好く出來て居て心持の好き間取である殊に浴室脫衣廻りは努力の跡が見受けらるゝが廣間より便所及階段室廊下廻りは少しく錯雜して居る階上寢室の按配も適當に出來て殊に露臺を設けた點などは實用的で且つ愉快な設計である只西南方の四疊半の室は採光通風不充分で拙劣である屋根が餘まり大き過ぎ無理に一と屋根に形作りたる嫌ひがある從つて階段室女中室二階室を屋根を繰抜きにしたる處は拙劣である寧ろ屋根勾配を緩にし棟を低くし北方葺き下し分を下家作りとしたらば繰り抜室の欠點を補ひ西南隅平家の軒を高くなしたらば四疊半室の窮屈を補ひ得しならん工費は豫算以内にて實行し得る建物である。

第四等第一席圖案評

本案は夫婦老人一人子供三人女中一人合計七人家族で主人は或るサラリマンの住宅圖案。

階下全部椅子式階上疊敷の寢室に當てた折衷で間取も可なり要領を得外觀は日本風味を加へた面白き作品である。

階下各室の按配は適當に配置しあるが間取に於て餘まり凸凹が多く少しく錯雜の傾きがある浴室便所階段の位置關係が非難が多い階上の小供室が甚だ不愉快之れは四疊半と三疊とを一室式にし西側窓下に卓子を置き南側を疊敷の寢處としたらば寧ろ愉快であらふ外觀は日本風味の加はつた面白き試みであるが餘まり凸凹が多過きるので錯雜の厭味がある工費としては實行には少々困難ではないかと思はるゝ。

第四等第二席圖案評

本案は夫婦小供三人女中一人合計六人の家族で主人の職業は會社員の住宅で平面が一つの矩形内に間取せられたる簡單な平面で外觀も一寸面白き作品である。

便所及階段の位置が面白くないと炊事場と食堂關係が拙劣である外觀は簡單で一寸面白いが屋根が急勾配で多少重々しき厭味がある階上外部の化粧煉瓦張りは寧ろ厭味を添へた嫌いがある且つ側廻りの各窓は障子巾二尺五寸一枚のみの片開きである事は構造上實用上不都合である工費は豫算にて實行し得る建物である。

第五等第一席圖案評

本案は夫婦子供三人女中一人合計六人家族で主人の職業は會社員の住宅圖案平面は矩形の一部に突出部ある簡單なかなりの間取按配で主なる諸室は何れも二方光線と言ふ結構な設計である。

炊事場浴室が何れも狹過ぎ接續關係が甚だ不完全である尙階段と二階押入との關係が不都合で一考を要する外觀は平凡で玄關及テレース出入口は貧弱で屋根勾配が三寸勾配とは迚も日本の風土に適當しない又各窓の引違障子のみなるは一考を要する工費に就きては先づ豫算内で實行し得る建物である。

第五等二席圖案評

本案は夫婦子供三人女中一人の合計六人家族で主人の職業は會社員の住宅圖案建物坪數か小さく建物の形狀が簡單で外觀も氣持好き作品である。

階上階下共間取が凡て錯雜で居間は稍や不愉快な傾きがある寧ろ椽側共一室として形狀を今少しく正しくする方可ならん居間より階段の關係が拙劣である浴室便所の位置が適當でない外觀は氣持好く郊外住宅として適應しい建物であるが東南隅を殊更隅切りとしたる處は却つて厭味がある從つて二階の室に無理がある間取は處々修正の餘地がある工費としては實行し得る設計である。

第六等第一席圖案評

本案は夫婦子供二人女中一人合計五人家族で主人の職業は會社員の住宅圖案建坪は小さく纏つて外觀も多少非難はあるが面白き作品である。

間取としては稍全體が散漫で諸室關係に缺點があるのと又餘まり諸室を仕切り過ぎる嫌ひがある玄關が窮屈中央仕切は寧ろ廢したる方可ならん便所女中室の位置不適當食堂と客間とは一室としたる方可炊事場の設備配置窮屈二階の間取も一考を要する建坪は四十三坪位ひなれども此設計にては實行少々困難には非らざるか。

第六等第二席圖案評

本案は夫婦子供二人女中一人合計五人家族で主人の職業は會社員の住宅圖案建坪は尤も小さく平面四角形の簡單で階下の間取は可なり要領を得たものである。

階上の各室は皆屋根裏如き構造で一方窓のみなるは一考を要する殊に日本座敷に至つては餘程考ふる餘地がある又階段と二階床との關係治まりは少々不都合の傾きがある外觀の四面袴腰形の破風式なるは厭味がある。

第六等第三席圖案評

本案は夫婦子供四人女中二人合計八人の家族で藝術趣味を有する會社員の住宅圖案である玄關より直ちに居間兼客間の三間角の大間を中央とし右方に子供室夫婦寢室兼居間の疊敷室を設け左方に食堂及應接兼書齋と附屬室を配置し中央大間の中央に大爐を設けたる處は面白く外觀も多少非難はあるが郊外住宅として面白き作品である。

各室の配置按配は要領を得て居るが玄關右の便所及廊下階段廻りは錯雜の嫌ひがある食堂の隅の出張りたる處を除きて正しき形としたる方可應接室も少々窮屈の感がある階段を廊下より一直線に設けて應接室を廣くしたる方可ならん炊事場は奥行き深かく光線不充分で設備に關して研究の餘地がある二階の豫備寢室は構造面白からず外觀はシンメトリーであるのは何となく住宅としての面白味は乏しひ又シンメトリーと設計したるため平面に無理の點がある又中央の煙突は一寸厭味がある而して工費は建坪が增大して豫算にては一寸六ヶ敷ものである。

●第五集　第四号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
山崎建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
木村組
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
関西ステンドグラス製作場
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所

大阪煖房商会
大阪電気商会
インペルメアビリット
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
実野商会
東洋水道木管
高田商会銀座販売店
日本トラスコン鋼材神戸支店
住友製銅販売店
住友東京販売店

共同建材製作所
日本工剤
佐藤商店
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業